

〔第二百七十號〕（第一段） 法典ハ左ニ記スル三個ノ訴權ヲ以テ六月ノ時間ニ因リ時効ヲ得可キ者トセリ

第一、毎月幾許ト定メテ爲シタル授業ニ付キ學術上ノ授業師カ有スル訴權  
法律ハ其受業生ノ父母ノ居宅ニ同居スル授業師ト右ノ居宅ニ授業時間ノミ出張スル授業師トノ間ニ於テ嘗テ區別ヲ爲サ、ルナリ、故ニ毎月幾許ノ定メニテ授業ヲ爲セル場合ニ於テハ何レタリトモ少シモ其規則ヲ異ニスルコトアラサルナリ○聽講名刺ヲ受取リテ爲セル授業ニ付テモ亦右同様ナリトス

然レトモ三ヶ月毎、六ヶ月毎、若クハ一年毎ニ辨濟ス可キ授業料ニ付テハ如何ナル決定ヲ爲ス可キ乎○此點ニ付テハ諸學士輩未タ一定ノ說ヲ爲スニ至ラス○「ヂュラントン」氏ハ茲ニ義塾ノ授業師及ヒ其他職業見習ノ授業師ニ付テ規定アル第二百七十二條ノ法則ヲ引用シテ以テ一年間ノ時効ヲ適施ス可シト云ヘリ、且ツ曰ク假シ爰ニ一年間ノ時効ヲ允ルサストスル時ハ最早ヤ此場合ニ當用ス可キ法則アラサルヲ以テ必ス三十年ノ時効ニ依ラサル可ラス、是レ素ヨリ許ルシ行フ可キコトニ非サルナリ云々ト○之ニ反シテ「トロプロン」氏ハ第二百二十七條ノ法則ニ循ヒ五年ノ時効ヲ當行ス可シト云ヘリ（但シ氏カ以テ本問ノ場合ヲ實際ニ見ルハ眞ニ稀有ノ事ナル可シト述ヘラレタルハ全ク氏ノ量見

ヲ認マリタル者ナリ、如何トナレハ是レ最モ多ク實際ニ見聞スル所ナルカ故ナリ、就中受業生ト同居セル講師等ハ大概此ノ如クシテ授業ヲ爲セルカ如シ）

「ワゼイユ」氏モ亦「トロプロン」氏ト同様ノ說ヲ爲セリ余輩ノ考フル所ヲ以テスルモ等シク此說ヲ以テ最モ其當ヲ得タルモノナルカ如ク思ハル

元來時効ノ如ク凡ソ嚴重ナル事柄ニシテ且ツ事其權利者ノ權利ヲ消滅セシムルニ及フカ如キ場合ニ於テハ單ニ比附延引ノ方法ニ據テ結局ヲ定メントスルハ甚タ穩當ナラサルモノナキヲ得ス、時効ハ其性質罰ニ類ス必ス其明文ヲ俟テ之ヲ適用ス可キナリ、左レハ若シ果シテ法律ノ明文中本問ノ場合ニ適施ス可キ短少ナル時効アラサルニ於テハ必ス三十年ノ時効ニ依ラサル可ラス○去レトモ「ヂュラントン」氏ノ太々不注意ニ出テタル反對說アルニ拘ハラズ茲ニハ幸ニシテ尙ホ短少ナル時効ヲ明定セル法則アリ、第二百七十二條即チ是ナリ、曰ク總テ年毎ニ辨濟ス可キ諸件又ハ尙ホ短キ定期ニ辨濟ス可キ諸件ニ付キ云々ト○第二百七十二條ノ法則ハ無論本問ノ場合ニ當行ス可キモノニ非ス、如何トナレハ爰ニ説明スル授業師、教師、若クハ覆講師等ハ敢テ義塾ノ授業師ニモアラス又職業見習ノ授業師ニモアラサルカ故ナリ

若シ又一年ノ授業或ハ數箇月間ノ授業ニ付キ單ニ一個ノ代料ヲ約定セシ場合ニ於テハ必



ス三十年ノ時効ニアラサレハ適施ス可ラサル者トス、如何トナレハ此場合ハ第二千二百七十一條ニ記スルモノニモ非ス、第二千二百七十一條ニ記スルモノニモ非ス、又第二千二百七十七條ニ記スルモノニモ非サルカ故ナリ○第二千二百七十七條ノ法則ハ（一年ノ期限毎ナルカ又ハ更ニ短キ期限毎ナルカ）特ニ約束シタル定期毎ニ辨濟ス可キ諸件ノミニ適用ス可キモノナリ

〔第二百七十一號〕（第二段） 第一、旅店ノ主人及ヒ飲食店ノ主人カ自ラ供辨シタル旅舎及ヒ飲食ノ代料ヲ受クル爲メニ行フ訴權モ亦六ヶ月ノ時間ヲ以テ其時効ト爲ス  
爰ニ法律ハ旅舎若クハ飲食ヲ月毎ニ供給シタルト日毎ニ供給シタルト又年毎ニ供給シタルトヲ區別セサルナリ、又法律ハ其飲食ヲ供給者ノ居宅ニテ耗費シタルト供給者ヨリ需要者ノ居所ニ之ヲ持チ行キタルトヲ差別セサルナリ、皆六ヶ月ノ期限ヲ以テ其時効ト爲スモノトス○或ハ三ヶ月毎、六ヶ月毎、若クハ一年毎ニ定メタル供給ニ付キ第二千二百七十七條ノ法則ヲ喚起シテ説ヲ爲サントスル者アルヤモ圖ラレスト雖トモ是レ無要ノ空論タルニ過キサルナリ○成ル程前段ノ場合ニ付テ論者ノ如ク述ヘントスルハ素ヨリ至當ノ事ナリ、如何トナレハ前段ノ場合ハ嘗テ第二千二百七十一條ノ規則中ニ含包セサルヲ以テ必ラス他ノ法則ヲ適用セサル可ラサル理由アリテ存スルカ故ナリ○去レトモ爰ニ説ク

所ノ場合ハ如何ナル點ヨリ之ヲ視ルモ必ス第二千二百七十一條ノ法則中ニ明記セルモノナルニ相違アラサルナリ、又或ハ此場合ニハ第二千二百七十一條ノ法則ヲ適用スルモ若クハ第二千二百七十七條ノ規則ヲ適用スルモ敢テ差支ヘアラサルヲ以テ何レタリトモ二者其一ヲ採リテ之ヲ當行シテ可ナリト云フ者アラント雖トモ是レ亦論理ヲ誤解シタル説ニ外ナラサルナリ、如何トナレハ第二千二百七十一條ハ特別ニ本問ノ場合ニ該當スルモノニシテ第二千二百七十七條ハ特別ニ一般ノ規則ヲ定メタルモノナレハ必ス正サニ彼ノ特別ノ法則ハ一般ノ規則ヲ更ムル者トス云々ト云ヘル推理ノ原則ニ循ハサル可ラサルカ故ナリ

本條ノ法則ハ無論總テ旅店ノ主人、飲食店ノ主人、貸席館ノ主人、料理店ノ主人、下宿屋ノ主人、及ヒ其他公衆ヲ寓居セシムルヲ以テ職業ト爲スカ若クハ公衆ニ食料ヲ給スルヲ以テ營業ヲ爲セル者ニハ皆差別ナク之ヲ適用ス可キナリ、又第二千二百七十二條第三項ニハ其需要者ノ商估ナルト否ラサルトノ區別ヲ定メアリト雖トモ本條ノ法則ハ少シモ其差別ヲ爲サスシテ之ヲ適用スルヲ要スルナリ、如何トナレハ法律上嘗テ此區別ヲ爲サス又此區別ヲ爲ス可キ理由アラサルカ故ナリ○但シ本條ノ規則ハ敢テ左ノ者等ニ之ヲ及ホシ行フ可ラス、即チ牛肉ヲ賣ル者、豚肉ヲ賣ル者、賣魚者、賣菜者、麥餅製造人、蒸肉販賣人、



料理番、煮タルト否トヲ問ハズ總テ飲食物販賣商、及ヒ其他酒類ノ小賣等ヲ爲セル者等是ナリ、蓋シ此等ノ者ハ皆各々商估ナルヲ以テ必ス次ノ箇條ニ規定アル別段ノ法則ヲ以テ之ニ適行ス可キカ故ナリ、但シ右等ノ者ニシテ其商業ヲ營スルト同時ニ旅店ヲ開キ居ル時カ又ハ飲食店ヲ開キ居ル時ハ此限ニ在ラサルナリ

又本條ハ別段ノ情義ニ因リ己レノ親族若クハ友人ヲ自宅ニ寓居セシムル者ニモ亦決シテ常用ス可キ法則ニハアラサルナリ○此等ノ者ハ旅店ノ主人ト云フ可キモノニモ非ス、飲食店ノ主人ト云フ可キモノニモ非ス、又商估ト稱ス可キモノニモ非ス、假令ヒ親戚朋友ヲ自宅ニ同居セシムルモ敢テ之ヲ以テ職業トスルニモ非ス又商業トスルニモ非ス、左レハ此等ノ者カ有セル債主權ハ本條ノ規則中ニ包含スルモノニモ非ス又次條ノ法則中ニ包藏スル者ニモアラサルナリ

果シテ然ラハ此債主權ニハ畢竟如何ナル時効ヲ當行ス可キ乎○「トロプロン」氏ハ之ニ適用ス可ラサル右二個ノ法條ヲ指示スル爲メニ殊更ニ第九百七十號并ニ第九百七十一號ヲ掲載セラレタルモ惜井哉眞ニ之ニ適施ス可キ箇條ヲ明示スルコトヲ忘失セラレタリ、又「ヂュラントン」氏ハ斷然三十年ノ時効ヲ適行ス可シト云フテ少シモ其疑ノ起ル可キ事由アルコトヲ悟ラサリシモノ、如シ

去レトモ爰ニハ屢々第二千二百七十七條ニ規定アル五年ノ時効ヲ適用ス可キコトアラソ  
○勿論若シ双方ノ間ニ別ノ交情アリテ毫モ其辨濟ノ方法ヲ約定セサリシ場合ニ於テハ特  
リ通常ノ三十年ノ時効ヲ常用セサル可ラス、然レトモ屢々其實例アル如ク若シ年毎ニ、六  
ヶ月毎ニ、又ハ三ヶ月毎ニ辨償ス可キ代金ヲ約定シタル場合ニ於テハ必ス第二千二百七  
十七條ニ記載アル一般ノ法則即チ總テ年毎ニ辨償ス可キ諸件又ハ尙ホ短キ定期ニ辨濟ス  
可キ諸件ハ皆五年ノ時間ヲ以テ時効ト爲ス可シ云々ト云ヘル法則ヲ適施セサル可ラサル  
コト明白ナルモノ、如ク信スルナリ

〔第二百七十二號〕 (第三段) 第三、總テ職工及ヒ雇夫カ日雇賃、供給シタル諸件ノ代料、并  
ニ其他ノ賃銀ヲ辨償セシメンカ爲メニ執行スル訴權ニモ亦等シク六ヶ月ノ時効ヲ實施ス  
可キモノトス○左レトモ茲ニ所謂ル職工、雇夫トハ果シテ如何ナル者ヲ指稱スルモノナ  
ル乎○此問題ヲ決定スルニハ敢テ難累ナキニ非サルナリ

或ル論者ハ曰ク爰ニ雇夫ト稱スル者ハ雇工、手間職人、力役者、日雇夫等ニ限ルナリ即チ  
特ニ力役シテ勞働ヲ爲セル者ノミニ限ルナリ○他ノ論者ハ曰ク製作所ノ長タルト製糸場  
ノ最下等ノ職人タルトヲ問ハス日雇賃幾許ノ定メユテ雇入レラレタル者ハ皆ナ右ノ雇夫  
ト稱スル部類ニ包含スルモノナリ云々ト(千八百二十四年一月二日大審院判決)○又他ノ



論者ハ曰ク所謂ル雇夫ト云ヘル語ハ成ル可ク廣キ義ニ之ヲ解ス可ク最モ差別ナキ意味ニ之ヲ用フ可キカ故ニ其勞働ノ如何ヲ問ハス、又其勞力ヲ賃貸スル期限ヲ日毎ニ定メアルト、月毎ニ定メアルト、年毎ニ定メアルトヲ論セス、總テ其勞働ヲ賃貸スル者ヲ指稱スル者ト之ヲ解釋セサル可ラス云々ト、千八百二十年五月四日「メツス」府控訴院ノ判決ニテ或ル商估ノ一番々頭ヲ雇夫ノ中ニ加ヘタルハ蓋シ此最終ノ説ニ依リタルモノナリ

右三説ノ中何レノ説ヲ以テ果シテ其當ヲ得タルモノナリト云フ可キ乎○「トロブロン」氏ハ不幸ニモ此點ニ付テ自ラ甚ダシク自家撞着ノ論ニ陥ルコトヲ覺悟セス右三説ノ中共ニ二説ヲ採許セント欲シタリ○氏カ第七百五十七號ニ説ク所ニ曰ク所謂ル雇夫ト云ヘル語ハ其狭少ナル意味ニテハ唯日雇ニテ勞働ヲ爲セル力役者ノミヲ指示スルモノニ過キサルナリ、此語ヤ假令ヒ尙ホ一層高尙ノ勞働ヲ爲セル時ト雖トモ日雇ニテ勞働ヲ盡セル者ニハ皆之ヲ適施ス可キナリ云々ト、氏又次ノ第七百五十八號ニ明記スル所ヲ觀レハ全ク之ニ反シテ雇夫トハ特ニ力役ニテ勞働ヲ爲セル者ノミニ限ル云々ト云ヘリ

余輩ヲ以テ之ヲ觀ル時ハ右最終ノ思想ハ即チ眞ニ立法者ノ思想ナリシヤ幾ト疑アラサルモノ、如シ、曾テ立法院ニ法典ノ草案ヲ差出シタル時ノ演説ニ於テ此六ヶ月ノ期限ハ全ク古來ヨリ經驗シタル習慣ニ循テ規定シタルモノナル旨ヲ辨明シタル所ニ據テ之ヲ考フ

ルニ法典ノ編纂者カ爰ニ雇夫ト云ヘル語ヲ記シタルハ必ス舊來ノ慣習法ニテ用井タル手間職人若クハ腕役者(直譯ナリ)ト云ヘル語ト同義ヲ示サント欲シタルニ相違アラサル者ノ如シ、是故ニ余輩ハ將ニ斷言セントス凡ソ權利者タル者カ所謂ル職工ト稱ス可キモノニモ非ス又常ニ質素ニ生計ヲ爲セル手間職人ト唱フ可キモノニモ非サル場合ニ於テハ必ス前文ニモ述ヘタルカ如ク五年ノ時効ヲ規定セル第二千二百七十七條ノ法則ヲ適用ス可ク、敢テ第二千二百七十一條ノ規則ヲ當行ス可ラスト○且ツ余輩ノ思考スル所ニテハ日毎ニ勞働ヲ爲スト云フノ條件ハ別段必要ナルモノニ非サルカ如シ、特リ力役ヲ以テ勞働ヲ爲セルト云フノ條件ヲ以テ爰ニ最モ緊切ナルモノト信スルナリ(第二千二百七十二條第五項參觀)

〔第二百七十三號〕 借又職工トハ果シテ如何ナルモノヲ云フ乎○凡ソ何人タルヲ問ハス又如何ナル勞働タルニ拘ハラス自ラ物ヲ製作シ且ツ自ラ其製作シタル物件ヲ販賣スル者即チ自ラ製作ト販賣トヲ兼テ爲ス者ハ所謂ル職工ノ稱ト商估ノ稱トヲ兼有スルモノタルコトハ毫モ争フ可ラサル事實ナリ、左レハ此種ノ者ハ場合ニ因テ其義務者ニ賣渡セルコトモアラシ、又ハ別段賣渡スコトヲ爲サスシテ單ニ義務者ノ爲メニ勞働セシノミニ止マルコトモアラシ、故ニ時アリテハ全ク職工ト看做サレテ第二千二百七十一條ノ法則ニ循ヒ



六ヶ月ノ時効ニ依ラサル可ラサルコトモアラソ、又時アリテハ全ク商估ト看做サレテ次ノ第二千二百七十二條ノ規則ニ因リ一ヶ年ノ時効ニ循ハサル可ラサルコトモアラソ、又若シ賣渡ノ性質ト労働ノ性質トヲ多少混同セル場合ニ於テハ必ス其中最モ主要ナル性質アルモノニ循テ其適用ス可キ法則ヲ選定ス可キナリ

又單純ノ職工ト稱ス可キモノト所謂ル請負人ト唱フルモノトハ決シテ相同視ス可ラサルナリ、請負人并ニ築造師等ハ嘗テ本款ノ諸箇條中一モ之ヲ記載セサルヲ以テ必ス三十年ノ時効ニ依ラサル可ラサルコト知ル可キナリ

又若シ職工ト稱スル者(巧丁、匠丁、鎖工、及ヒ其他之ニ類スル職業アル者)ニシテ職工ノ仕事ヲ爲サス偏ヘニ工事ノ請負等ヲ爲セル場合ニ於テハ全ク其約定ニ因リ自ラ請負人トナルヲ以テ(第七百九十八條、第七百九十九條)必ス亦三十年ノ時効ニ循ハサル可ラサルナリ

〔第二百七十四號〕 夫レ然リ然レトモ職工、商估、并ニ請負人等ヲ互ニ區別スル爲メニ據ル可キ正確ナル方法ハ果シテ何レノ要點ニ在ル乎、此問題ハ一人ニシテ次第ニ右等ノ性質ヲ兼帶スルコトヲ得可キ者ニ付テモ生スルコト有ル可ク、又或ル種ノ職業ヲ爲シテ別ニ他ノ職ヲ兼テ爲スニアラサル者ニ付テモ亦等シク同様ノ問題ヲ發スルコト有ル可シ

先ツ此最終ノ者ニ付テ之ヲ述ヘンニ活版師ハ如何ナル部類ニ加フ可キモノナル乎○職工乎商估乎將テ請負人ナル乎○若シ活版師ニシテ書籍販賣ヲ兼業セル者ナレハ無論其書籍ノ販賣ヲ商業トセル理由ニ因リ全ク真正ノ商估ト之ヲ看做サ、ル可ラサルカ故ニ必ス一年ノ時間ヲ以テ其時効ノ期限ト爲サ、ル可ラス、如何トナレハ何人タルヲ問ハス自ラ書籍ヲ製造シテ更ニ他ニ之ヲ販賣スル者ハ他人ヲシテ製造セシメタル書籍ヲ自ラ販賣スル者ニ等シク純然タル商估タルニ相違アラサルカ故ナリ○去レトモ其活版師ノ商業ノミニ付テハ書籍ノ販賣ヲ兼業スルト否ラサルトヲ問ハス果シテ如何ナル部類中ニ含入ス可キモノナル乎

千八百五十三年一月十九日大審院判決ニテハ總テ活版師ハ職工ト看做ス可キモノニ非ス必ス之ヲ商估ト看做ス可シト決定シタリ○「トロプロン」氏ハ之ニ反シテ右大審院判決ノ主義ヲ排除セリ、余輩ヲ以テ之ヲ考フルニ「トロプロン」氏ノ説如何ニモ其當ヲ得タルモノ、如シ、一例ヲ以テ之ヲ説明センニ、余或ル商人ヨリ若干ノ紙ヲ買取り之ヲ或ル活版師ニ渡シ以テ余カ曾テ手記シタル諸件ヲ摺立シメシニ(是レ通常活版師ノ常態ナリ)、此場合ニ於テハ活版師ハ何ニモ余ニ賣渡スモノニ非ス、且ツ假令ヒ活版師自ラ其用紙ヲ供給シテ右ノ諸件ヲ摺立テタル場合ナリトスルモ其紙ヲ給シタルコトハ僅ニ些細ノ事ナルニ



過キサルヲ以テ敢テ主タル活版事業ノ性質ヲ變スル丈ケノ影響ヲ及ホシ得可キモノニ非ス○此理由アルヲ以テ「トロプロン」氏ハ斷然活版師ハ即チ職工ト看做ス可キモノナリト決定セリ○爰ニ假想スルヲ得可キ三說ノ中ニ二說ハ既ニ右ニ述フルカ如クニ定マレリ○第三說モ亦之ニ同様ノ理由否尙ホ之レヨリ強固ナル理由ヲ以テ之ヲ唱道スルコトヲ得ルナラン○例ヘハ若シ或ル活版師ニシテ日毎、月毎、又ハ年毎ニ勞働ヲ爲スニ非サルモ一事業ニシテ一萬「フラン」「二萬「フラン」若クハ其以上ノ金高ヲ要スルカ如キ實ニ重大ナル勞働ヲ爲サノコトヲ擔任セシ場合ニ於テハ職工ト云ハンヨリ寧ロ之ヲ請負人ト看做ス方允當ナルニハアラサル乎、斯ノ如キ莫大ナル金額ニ付テ六ヶ月内ニ其辨濟ヲ爲シタルモノナリト推測ヲ下スハ果シテ其當ヲ得タルモノト云フ可キ乎

又願ミテ他ノ關係ヨリ之ヲ觀ルニ常ニ職人タルノ名目ニテ勞働ヲ爲セル者カ斯々ノ場合ニ於テハ眞ニ職人タルノ名目ニテ約束ヲ爲シタルト云ヒ、斯々ノ場合ニ於テハ請負人ノ名目ニテ約束ヲ爲シタルト云フニハ果シテ如何ナル徵効ニ因テ之ヲ知ルコトヲ得ル乎○第七百九十九條ノ法則ニ循ヒ總テ代金ヲ約定シテ請負ヲ爲シタル場合ニ於テハ特ニ此事實アルノミヲ以テ之ヲ請負人ト看做ス可シト決定ス可キ乎○決シテ然ラサルナリ○例ハ自テ所持セル反物ヲ或ル裁縫師ニ渡シ或ル衣服ノ仕立ヲ依頼シ以テ其仕立賃ヲ五「フ

ラン」ト約定シタリトセンニ、此場合ニ於テハ無論豫メ代金ヲ定メテ請負ヲ爲シタルニ相違アラサルナリ、去ントモ敢テ裁縫師ヲ以テ直ニ請負人ト看做シ以テ其債主權ハ必ス三十年ノ時効ニ循フ可キモノナリト云フハ固ヨリ穩當ナラサル所ナリ○若シ之ニ反シテ右ノ裁縫師カ等シク豫メ代金ヲ約定シ以テ五萬ノ兵服若クハ六萬ノ兵服ヲ仕立ノコトヲ請負タリトセン歟、此場合ニ於テハ全ク眞正ノ請負約束ナリト之ヲ看做サ、ル可ラサルヲ以テ敢テ六ヶ月ノ時効ヲ適施スルコト能ハサル可キナリ

以上ノ事情ニ因テ之ヲ考フルニ其權利者ヲ以テ職工ト看做スモ、商估ト看做スモ、又請負人ト看做スモ、法典ニ規定セル法則ニ固着センヨリ寧ロ其事實ノ情況ニ因テ之ヲ定メサル可ラス、余輩ハ前項ニ指定セル法則ノ外別ニ確乎タル原則アリテ存スルモノアルヲ知ラサルナリ

## 第二節 一年間ノ時効

第二百七十二條 内科醫師、外科醫師、及ヒ製藥師カ診察、施療、及ヒ藥品ニ付テ有セル訴權

使吏カ證書類ヲ送達スルニ付キ又自ラ執行スル委任ノ諸件ニ付キ賃銀ヲ受クル爲メノ訴權



商估カ商估ニアラサル者ニ賣渡セル商品ニ付テ有セル訴權  
 義塾ノ主長カ其學生ノ賄料ニ付テ有セル訴權并ニ其他ノ授業師カ其職業見習生ノ授業料ニ付テ有セル訴權  
 一年ヲ期シテ雇入レラレタル僕婢カ其給料ノ辨濟ニ付テ有セル訴權  
 右等ノ訴權ハ皆一年ヲ以テ其時効トス

要目

第一段 一年ノ時効ヲ適施ス可キ者左ノ如シ○第一、内科醫師、外科醫師、及ヒ製藥師○產婆ニハ如何シ○第二、使吏○商業監察人ニハ之ヲ適用ス可ラサルモノトス  
 ○第三、商估但シ商估タルノ名義アラサル者ニ自ラ商估タルノ名目ヲ用テ商品ヲ賣渡セシ場合ニ限ル○説明并ニ參照

第二段 第四、義塾ノ主長并ニ職業見習生ノ授業師○乳母ニハ之ヲ適用ス可ラス、但シ「ワセイユ」氏ハ爰ニ反對ノ説ヲ爲セリ○第五、一年ヲ期シテ雇役セラレタル僕婢、但シ勞働ヲ爲シテ仕役スル僕婢ニ限ルモノトス

〔第二百七十五號〕（第一段） 本條ニ明定セル一年ノ時効ハ左ニ記スル五級ノ訴權ニ適施ス可キモノトス

第一○内科醫師、外科醫師、及ヒ製藥師カ診察、施療、并ニ藥品ニ付テ有スル訴權  
 產婆ハ皆公然法律ニ循テ治術ヲ施ス者ナリ、且ツ一般醫師ノ開業ヲ爲セルニ付キ官廳ヨリ規定セル諸則ハ悉ク產婆ニモ及ホシ行フ可キモノナリ、故ニ產婆ハ總テ醫師ノ階級中ニ加フ可キモノトス、左ノハ產婆カ己レノ職業上分娩又ハ其他ノ施術及ヒ訪問等ヲ爲シタルコトニ付テハ等シク一年ノ時効ニ循ハサル可ラス○但シ看病人ハ此限ニ在ラス、看病人ハ日雇婦若クハ勞働者タルニ過キササルヲ以テ必ス前條ノ法則中ニ併入ス可キモノナリ  
 第二○使吏カ自ラ爲セル送達書又ハ其他ノ諸件ニ付テノ賃料ヲ受クル爲メノ訴權  
 商業監察人ハ無論使吏ト同視ス可キモノニ非サルナリ、且ツ商業監察人ニ對スル時効ハ嘗テ特別ノ法則ヲ以テ之ヲ規定セシモノアラサルヲ以テ之ニ對シテハ唯一般ノ時効即チ三十年ノ時効ヲ申立ルコトヲ得ルノミナリトス  
 第三○商估カ商估ニ非サル者ニ賣渡セル商品ニ付キ又ハ否ラサルモ商估タルノ名義ヲ用井サル者ニ賣渡セル商品ニ付キ有スル訴權  
 此法則アルニ因リ本條ハ酒類又ハ耐燒類ノ小賣ヲ爲セル者ニ卸賣ヲ爲セル商估ニハ決シテ之ヲ適用ス可ラス、然レトモ之ニ反シテ金銀細工物商、羅紗商、若クハ其他自ラ商人ヲ



リト雖トモ其商人タルノ名義ニ因ルニ非ス全ク常人ノ如クシテ且ツ自用入爲メ右等ノ酒類、燒酎類ヲ買取レル者ニ之ヲ賣渡セル商估ニハ必ス本條ノ規則ヲ適施ス可キナリ○蓋シ法律ノ精神ハ即チ賣主ノ方ヨリ之ヲ觀テ商業上ノ事ト看做ス可キ場合ノミニ限リテ其訴權ニ一年ノ時効アルモノト爲サント欲シタルニ相違アラサルナリ、故ニ買主ノ方ヨリ之ヲ觀テ商業上ノ事ナリト云フ可キ場合ニ於テハ敢テ本條ニ規定セル法則ヲ適用ス可ラサルナリ○若シ夫レ酒類ノ卸賣商ヨリ其小賣商ニ之ヲ賣渡セル場合ナルカ如ク双方ヨリ之ヲ觀テ商業ノ事件ト看做ス可キ場合ニ關スルカ、又ハ双方ノ中一方ヨリ之ヲ觀ルモ彼一方ヨリ之ヲ考フルモ決シテ商業上ノ事件ト看做スコト能ハサル場合ニ關スルカ、又ハ酒類商カ或ル所有者ヨリ葡萄ノ收穫ヲ買取レル場合ノ如ク偏ヘニ買主ノ方ヨリ之ヲ觀テ商業上ノ事件ト看做ス可キ場合ニ關スルカ（但シ假令ヒ此所有者ニシテ金銀細工物若クハ羅紗又ハ其他ノ品物ヲ商賣スル者ナリト雖トモ亦右同様ナリトス、如何トナレハ右酒類商ト取引ヲ爲セル物件ヲ商賣スルニハアラサルカ故ナリ）、此等諸般ノ場合ニ於テハ必ス三十年ノ時効ヲ適用スルノ外別ニ方便アラサルナリ○語ヲ重テ之ヲ述ヘ置カンニ、一年ノ時効ハ特リ双方ノ中一方即チ賣主ノ方ヨリ之ヲ觀テ商業上ノ事件ト看做ス可キ場合ノミニ限リテ之ヲ當行ス可キ者トス

前文ニモ既ニ之ヲ詳陳シタルカ如ク爰ニ説明スル本條第三項ノ法則中ニハ總テ牛肉、豚肉類ヲ鬻ク商人、賣魚者、賣菜者、麥餅製造人、蒸肉販賣人、及ヒ其他飲食物販賣商等ニシテ前條ノ規則ヲ適用ス可ラサル者ヲ悉ク包含スルモノトス可シ、如何トナレハ此等ノ者ハ皆自ラ商估タルニハ相違アラスト雖トモ決シテ飲食店ノ主人ト看做ス可キモノニ非サルカ故ナリ○又金銀細工物商、時計師、機械商、鑛工鍛冶職、箆笥商、及ヒ其他職ト商ト兼業スル者ニシテ職人タルノ名目ニテ約束ヲ爲スニ非ス全ク商人タルノ名義ヲ以テ他人ト約束ヲ爲セル場合モ亦必ス本條第三項ノ法則中ニ在ルモノト決定ス可キナリ

〔第二百七十六號〕（第二段） 第四、本條ニ記列セル第四級ノ權利者カ有セル訴權ハ即チ學塾ノ主長カ其學生ノ入塾料ニ付テ有スル訴權并ニ其他ノ授業師カ職業見習生ノ授業料ニ付テ有セル訴權是ナリ

爰ニハ學生ノ重ナル入塾料ノ外等シク同様ノ法則ニ依ル可キ附屬ノモノトシテ書籍ノ賃料、紙筆ノ賃料、并ニ其他學生ニ供給シタル諸件ヲモ共ニ加フ可キモノト決定ス可キナリ、但シ「トウトリエー」氏ハ之ニ反對スルノ説ヲ述ヘラレタルモ別段其理由ヲ解シセザリシハ蓋シ自ラ持論ノ確實ナラサルコトヲ掛念セシモノナラン歟○此等些細ノ雜費ハ常ニ入塾料ト同様ニ辨償セルモノトス、左レハ入塾料ヲ辨濟シタル推測アル以上ハ右等ノ



雜費ニ付テモ亦等シク同様ノ推測ナカラサル可ラサルナリ  
 既ニ前文ニモ述ヘタルカ如ク本項ノ規則ハ俗ニ所謂ル下宿所ノ主人ニハ敢テ之ヲ適用ス  
 可ラサル者トス、蓋シ下宿所ハ寓客ニ定時ニ食料ヲ供給スル所ナレハ敢テ義塾ト云フコ  
 トヲモ得ス又職業見習所ト稱スルコトヲモ能ハサルヲ以テ必ス前條ノ法則ニ循フ可キモ  
 ノタルカ故ナリ

「ワゼイユ」氏ハ本項ノ法則ヲ以テ等シク乳母ニ適施ス可キモノナリト述ヘラレタルモ余  
 輩ハ決シテ然ラサルモノタルヲ信スルナリ、如何トナレハ所謂ル乳母ナルモノハ義塾ノ  
 主長ト看做スコト能ハサルハ勿論又職業見習ノ授業師ニモ非サルカ故ナリ、左レハ此乳  
 母ニ適行ス可キ時効ハ特リ第二千二百七十七條ノ一般ノ法則ニ定メアル五年ノ時効ニ外  
 ナラサル可シ

代訴人又ハ公證人ニ其見習生ヨリ拂フ可キ授業料ニ關スル時効ニ付テハ「トロプロン」氏  
 モ明解セラレタルカ如ク必ス本項ノ法則ヲ當行ス可キモノナルカ如シ（如何トナレハ此  
 等代訴人若クハ公證人ノ見習生ハ眞ニ職業ノ見習生タルニ相違アラサルカ故ナリ）、去レ  
 トモ余輩ノ考フル所ニテハ是レ眞ニ幾ト絶無ノ場合ナリト信スルナリ、「トロプロン」氏  
 カ年毎ニ授業料ヲ受ケル講師ハ實際稀有ナル可シト評セラレタル語ハ寧ロ能ク此所ニ適

當セルモノナルカ如シ、氏カ例示セラレタル「ブロードウー」氏ノ時代ニハ代訴人、公證人等  
 ノ見習生ヨリ相當ノ授業料ヲ辨償セルヲ以テ一般ノ習俗ト爲シタルモ若シ余輩ノ信スル  
 所ヲシテ誤ナカラシメハ今日ハ全ク之ニ反スルモノアリ、今日代訴人公證人等ノ見習生  
 ハ皆自ラ相當ノ賃料ヲ受取ラサル者アラサルナリ、然ルニ師匠ヨリ此等ノ見習生ニ拂フ  
 可キ賃料ハ一切本條ノ關スル所ニ非サレハ必ス亦等シク前文ニモ屢々指示シタル第二千  
 二百七十七條ノ法則ニ定メアル五年ノ時効ニ循ハサル可ラサルナリ

〔第二千二百七十七號〕 第五、本條ノ法則ニ規定セル一年ノ時効ヲ適施ス可キ最後ノ訴權ハ即  
 チ一年ヲ期シテ自己ノ勞力ヲ賃貸セル僕婢等ノ有セル訴權ナリ

日雇ヒ、月雇ヒ、週雇ヒニテ使役セラレル僕婢即チ年期雇ヒニ非サル僕婢等ハ假令ヒ其主  
 家ニ同居スルト雖トモ等シク前條ニ記列セル雇夫若クハ勞働夫等ト同様ノ等級ニ屬ス可  
 キモノナルカ故ニ同シク六ヶ月ノ時間ヲ以テ其訴權ノ時効ナリトス

前條ニ掲載セル雇夫ノ中ニハ力役ヲ以テ勞働ヲ爲セル者ノミヲ包含セルモノト解ス可キ  
 コトハ前文既ニ之ヲ詳陳セシ所ナリ、之ニ等シク爰ニ所謂ル僕婢ナルモノモ亦同シク力  
 役ヲ以テ勞働ヲ爲セル者ノミヲ指稱スルモノタルニ過キサルナリ、但シ一ハ一年ヲ期シ  
 テ約束シタルニ非ス、他ノ一ハ全ク一年ヲ期シテ約束シタルモノナレハ此點ニ於テハ大



ニ異ナル所アリトス○即チ料理番、駁者、馬丁、侍者、厩丁、小間使、車丁、園丁、嬪母等是ナ  
常人ノ雇置ク僧侶、育兒者、支配人、書庫預リ人、并ニ手傳人等ハ等シク其家中ニ在ルト雖  
トモ敢テ家僕等ト同視ス可キモノニ非ス、左レハ此等ノ者ニハ必ス第二千二百七十七條  
ニ定メアル五年ノ時効ヲ通用セサル可ラス

第三節 三年ノ時効并ニ五年ノ時効

第二千二百七十三條 代訴人其費用ト賃料トノ辨濟ヲ受クル爲メノ訴權ハ其訴訟裁判  
言渡之日、又ハ原被双方和解ヲ爲シタル日、又ハ代訴人ノ廢止セラレタル日ヨリ二年ノ  
時間ヲ以テ其時効トス○又代訴人其未タ終結セサル事件ニ付テハ其五年以上ニ係ル費  
用ト賃料トニ付キ訟求ヲ爲スコト能ハサル者トス

第二千二百七十六條 裁判官并ニ代訴人ハ訴訟裁判言渡ノ日ヨリ五年以上ノ時間ヲ經  
タル後ニ至リ其證書類ヲ差出ス可キ責務ヲ免カル、者トス

又使吏ハ自ラ擔當セル諸件ヲ執行シタル日ヨリ二年ヲ經タル後又ハ自ラ擔任セル書類  
ノ送達ヲ爲シタル日ヨリ二年ヲ經タル後等シク其實ヲ免カル、者トス

第二千二百七十七條 無期年金所得權ノ賦額及ヒ畢生間ノ年金所得權ノ賦額

養料所得權ノ賦額

家賃及ヒ地賃

貸金ノ利息又ハ其他總テ一年毎若クハ更ニ短キ定期毎ニ辨濟ス可キ諸件

右等ノ諸件ハ皆五年ヲ以テ其時効トス

要目

第一段 二年ノ時効○第一、代訴人カ自ラ擔當スルコトヲ止メタル事件ニ付キ入費  
并ニ賃料ヲ要ムル爲メノ訴權ハ二年ノ時間ヲ以テ其時効トス○自ラ擔當セシ事件  
ニ付代訴人カ前拂シタル總テノ金高モ亦右同様ナリトス○代言士、公證人、商事裁  
判所ノ辨護人及ヒ書記等ハ一切此二年ノ時効ニ循フ可キモノニ非ス○第二、使吏  
ヲシテ送達セシムル爲メ又ハ執行セシムル爲メ曾テ之ニ委附シタル書類ヲ取戻ス  
爲メノ訴權モ亦二年ノ時間ヲ以テ其時効トス○使吏若シ其委任セラレタル諸件ヲ  
執行セサリシ場合ハ如何ン○使吏其訴訟依頼人ノ爲メニ之ニ代リテ收受シタル金  
高ニ付テハ如何ン

第二段 五年ノ時効○第一、代訴人カ尙ホ自ラ擔當セル事件ニ付テ入費並ニ賃料ヲ  
受クル爲メノ訴權ハ五年ノ時間ヲ以テ其時効ト爲ス○此時効ト前段ノ時効トノ照



合○第二、裁判官又ハ代訴人ニ付テ爲セル書類取戻ノ訴權モ亦等シク五年ノ時間ヲ以テ其時効トス○其期限ハ訴訟ノ修結シタル日ヨリ之ヲ算計ス可シ

第三段 右ノ外五年ノ時効ヲ適用ス可キ諸般ノ場合○第二千二百七十七條ノ説明○本條ノ法則ヲ以テ他人ニ拂渡ス可キ入額ニ關スル總テノ場合ニ五年ノ時効ヲ及ホシ行フ可シト明定シタルハ全ク舊來ノ立法者カ冀圖セシ所ヲ明示シタルコト並ニ本條ノ大切ナル法則ナルコト

第四段 本條ノ規則ハ其裁判言渡アリタル場合ト否トヲ問ハス他又諸般ノ利息ニ等シク償息ノ利息ニモ亦之ヲ及ホシ行フ可キ證據○反對說ヲ駁撃スル論辨○「ラウエー」氏ノ主說ニ對スル答辨

第五段 若シ其經過シタル利息カ未タ要求セラル可キモノニ非サリシ場合ニハ本條ノ規則ヲ當行ス可ラサルコト○但シ本條ノ法則ハ其義務者ヨリ辨濟ヲ爲シタルコト非サル旨ヲ自認セシニ拘ハラズ之ヲ適施スルコトヲ得可シ

〔第二百七十八號〕（第一段） 爰ニ掲載セル二年ノ時効ハ二種ノ訴權ニ適用ス可キモノトス

第一 代訴人カ自ラ擔當スルコトヲ止メタル總テノ事件ニ付キ自ラ其入費及ヒ賃料ヲ受

クル爲メノ訴權、但シ其擔當ヲ止メタル日ヨリ之ヲ算計スルモノトス○尙ホ自ラ擔當スルコトヲ止メサル事件ニ關スル入費并ニ賃料ニ付テノ債主權ハ皆五年ノ時間ヲ以テ其時効ト爲ス、但シ其債主權ノ生シタル日ヨリ之ヲ算計ス（第二千二百七十三條）

前文ニモ云ヘルカ如ク爰ニ規定セル二年ノ時効ハ其代訴人カ自ラ擔當スルコトヲ止メタル總テノ事件ニ之ヲ適施ス可ク且ツ其擔當ヲ止メタル日ヨリ之ヲ算計ス可キモノトス○成ル程法律ノ明示スル所ハ特リ三個ノ場合即チ訴訟ノ裁判言渡アリタル場合、双方ノ和解ヲ爲シタル場合、及ヒ代訴人カ其職ヲ解カレタル場合ノミニ過キスト雖トモ然レトモ是レ全ク尋常ノ狀況ノミニ付テ觀察ヲ下シタルニ因リ發シタル法文ニシテ敢テ之カ爲メニ他ノ場合ヲ除去セント欲シタルニ非サルコト知ル可キナリ

是故ニ余輩ノ考フル所ニテハ「トロプロン」氏モ說カレタルカ如ク又大審院判決ニテモ決定シタルカ如ク若シ此事件ヲ擔當スル代訴人死去スルカ、又ハ免職セラル、カ、或ハ其職ヲ止メラレタル場合等ニ於テハ必ス同様ノ法則ヲ適用セサル可ラサル者ノ如シ○「ヂュラントン」氏ハ等シク大審院ノ判決ヲ舉示シテ以テ余輩ノ主論ニ反對スルノ說ヲ爲シ以テ右ノ法則ハ特ニ代訴人カ其職ヲ止メラレタル場合ノミニ之ヲ適行ス可ク其他死去若クハ免職ノ場合ニハ敢テ之ヲ適施ス可ラスト述ヘラレタルモ是レ決シテ至當ノ論ナリト看做



ス可ラサルナリ、氏ノ理由トスル所ハ蓋シ代訴人ノ死去シタル場合若クハ免職セラレタル場合ニ於テハ代訴人ニハ必ス繼承人アリテ以前ノ事件ヲ繼續スルカ故ナリト云フニ過キサルモノ、如シ○博識ナル教頭(「ヂュラント」氏ヲ云フ)幸ニシテ代訴人カ職ヲ止メタル場合ニ付テ爲シタル大審院判決ノ要旨ヲ詳知シタランニハ必ス余輩ト同様ノ説ヲ探リタルナラン歟、且ツ夫レ死去シタル代訴人若クハ免職シタル代訴人ノ地位ニ代ハレル新ノ代訴人アリト雖トモ其免職シタル代訴人又ハ死去シタル代訴人ノ遺物相續人カ成ル可ク速ニ自ラ其辨濟ヲ受ケントスルノ情實ハ各事件ノ終結スル毎ニ總テノ代訴人カ急ニ自ラ辨濟ヲ受ケントスルノ情實ニ毫モ相異ナル所アル可キ理由アラサルナリ○現ニ職ヲ行フ代訴人ハ常ニ成ル可ク己レノ花主ヲシテ信用多カラシメンカ爲メニ其間自ラ意ヲ用フル所ナキヲ得スト雖トモ之ニ反シテ既ニ免職シタル代訴人若クハ死去シタル代訴人ノ遺物相續人ニ在テハ最早ヤ斯ノ如ク懸念スル所アラサルヲ以テ却テ太々シク其辨濟ヲ急速ナラシメンコトヲ力ムルナラン○果シテ然ル上ハ法律上ニ於テ二年ノ時間ヲ經タル以上ハ既ニ辨濟ヲ爲シタルモノナリト推測ス可シト云ヘル主意ヲ探テ等シク爰ニ之ヲ允許セサル理由毫モ之レアラサルナリ

以上解説スル二年ノ時効ヲ經過セシムルニハ必ス其代訴人眞ニ己レノ擔當ヲ止メタル後

ナルコトヲ要ス○故ニ一個ノ裁判言渡若クハ數個ノ裁判言渡ニシテ或ル點ニ付テハ其訴訟ヲ終結スルニ至ルモ他ノ點ニ付テハ尙ホ其局ヲ結フニ迄ラス其儘之ヲ存シ置クコトアル時ハ必ス其争訟ノ全局ヲ終了スル最後ノ裁判言渡アリタル日ヨリ以來右二年ノ時効ヲ算計セサル可ラス如何トナレハ此日ニ至ル迄ノ間ハ尙ホ現ニ自ラ事件ノ擔當ヲ爲セル代訴人アリテ存スルカ故ナリ、現ニ自ラ擔當セル代訴人ニ對シテ適施ス可キ時効ハ即チ五年ノ時効ナリトス

茲ニ稍々難累ナル問題ニシテ諸多ノ判決例等ニ於テモ未タ嘗テ其決定ヲ同フセサルモノアリ、即チ代訴人カ其事件ニ付キ自ラ前拂ニテ立替置キタル金高アル時ハ其金高ヲ如何ナル費用ニ充テタルヲ問ハス總テ本條ニ掲載セル入費ト同様ニ之ヲ看做ス可キ乎云々ト云ヘル問題はナリ、例ヘハ代訴人カ其事件ニ關シテ相談ヲ爲シ辨護ヲ頼ミタル報酬トシテ代訴人ニ辨濟シタル金高ノ如キハ果シテ本條ニ記セル入費ノ中ニ之ヲ加フ可キ乎、將タ加フ可ラサルモノナル乎

此等ノ金高ハ決シテ本條ノ法則中ニ合入ス可キモノニ非スト云ヘル論者ハ曰ク元來此種ノ金高ハ敢テ其訴訟ノ入費ト看做ス可キモノニ非ス、代訴人ハ自ラ代訴人タルノ名義ヲ以テ其費用ヲ立替へ置キタルモノナリト云ハンヨリ寧ロ友誼ニ因テ一時其金高ヲ貸渡シ



タルニ過キサルモノト云フ可キナリ云々ト○余輩ノ考フル所ハ則チ然ラス、余輩ハ等シク之ヲ本條ニ記載セル諸入費ト同視ス可キモノナリト信スルナリ、夫レ代訴人カ自ラ右ノ如キ金高ヲ辨償スルハ無論全ク自ラ其依頼人ノ代訴人タルノ名義ニ因テ然ルナリ、全ク此依頼人ノ事件ニ關シテ然ルナリ、左レハ敢テ之ヲ本條ノ法則ヨリ以外ニ除却ス可キ理由アラサルナリ如何トナレハ是レ正ニ其代訴人カ自ラ擔當セシ事件ニ關スル費用ナルカ故ナリ、代訴人ハ必ス其他ノ入費ニ等シク一個ノ入費算計表ニ之ヲ併記シテ以テ其依頼人ニ渡附ス可キカ故ナリ○一個同一ノ事件ニ關スル諸入費並ニ賃料ノ全額ニ付テハ代訴人ハ敢テ其請求ニ區別ヲ爲サ、ル可シ必ス自ラ依頼ヲ受ケタル一個ノ名代契約ニ因リ生スル一個ノ債主權トシテ同時ニ其全額ヲ訟求スルナラン、此明白ナル理由アリテ存スル以上ハ二年ノ時間(但シ尙ホ引續テ擔當スル事件ニ付テハ五年ノ時間ナリ)ヲ經過シタル後其入費ノ中一ハ以テ辨濟ヲ爲シタル推測アリト爲シ他ノ一ハ未タ辨濟ヲ爲シタル推測アラスト爲サントスルハ抑モ何ノ惑説ナル乎

右ノ次第ナルヲ以テ余輩ハ「トロプロン」氏ノ主論ニ同意ヲ爲シ以テ凡テ代訴人カ自ラ訴人タルノ名義ニテ擔當セル事件ニ關スル裁判上ノ諸件ニ付キ前拂ヲ爲シタル一切ノ金高ハ悉ク本條ニ明定セル場合中ニ包含ス可キモノトス、但シ代訴人カ己レノ管掌スル職務ノ以外ニ渉ル事件ニ關スル費用ハ此限ニ在ラサルナリ此類ノ費用ニ付テハ必ス三十年ノ時効ヲ當行セサル可ラス、例ヘハ商事裁判所ヘ請求ヲ爲セル争訟ニ關スルカ又ハ詞訟ノ性質アラサル事件ニ關スル入費ノ如キ是ナリ

〔第二百七十九號〕 本條ノ法則ハ代訴人、商事裁判所ノ辨護人、書記、公證人等ニハ一切適用ス可ラサル者トス○法典ハ他ノ箇條(就中第千五百九十七條)ニ於テ總テ裁判官、代訴人等ト共ニ公證人、書記、代訴人等ヲ併列セシト雖トモ本款ニ於テ事少シモ公證人、書記等ニ及ハサリシハ「トロプロン」氏モ明認セラレタルカ如何ニモ法典中ニ存スル最大失誤中ノ一ナルヤ疑アラサルナリ、去レトモ之ヲ如何トモスルニ由アラサルヲ以テ必ス法典ノ爲セルカ儘ニ實際ノ決定ヲ爲サ、ル可ラス、代訴人ハ僅カニ二年間若クハ五年間ノ時間中ニ其要求ヲ爲サ、レハ己レノ權利ヲ失却スルニ至ル可シト雖トモ之ニ反シテ商事裁判所ノ辨護人スラモ尙ホ自ラ請求ヲ爲スニ付キ三十年ノ猶豫ヲ有スルナリ

〔第二百八十號〕 第二 使吏ヲシテ送達セシムル爲メ又執行セシムル爲メ之ニ委附シタル書類ヲ取戻ス爲メノ訴權モ亦等シク二年ノ時間ヲ以テ其時効ト爲ス(第二千二百七十六條第二項)

法律上ニ於テハ必ス其書類送達ノ日附若クハ執行ノ日附ヨリ以來右ノ期限ヲ經過セシム



ル者トス可シト云ヘル明文アルカ故ニ使吏若シ其送達ヲ爲サ、リシカ又ハ其執行ヲ爲サ、リシ場合ニ於テハ敢テ本條ノ規則ニ依テ處分ヲ爲ス可ラサルナリ、此ノ如キ場合ニ於テハ必ス三十年ノ時効ヲ適用セサル可ラス、而シテ其時効ヤ使吏ノ手ニ其書類ヲ渡シタル日ヨリ以來經過スルモノトス可シ

又使吏其依頼人ニ代ハリテ受取り置キタル金高ヲ要求スル爲メノ訴權モ亦等シク三十年ノ時間ヲ以テ其時効トス、蓋シ本條ノ規定スル所ハ特リ書類ノ取戻シニ過キササルヲ以テ右ノ如ク使吏ノ自ラ受取り置キタル金額ハ皆普通ノ法則ヲ以テ支配セラル可キモノナルカ故ナリ

〔第二百八十一號〕（第二段） 五年ノ時効ハ七個ノ場合ニ於テ當行ス可キモノトス、第一ノ場合ハ即チ第二百七十三條ノ明載セル所ニシテ第二ノ場合ハ第二百七十六條第一項ノ規定セル所ナリ、而シテ其他五個ノ場合ハ皆第二百七十七條ノ記列セル所ナリ、此第二百七十七條ノ法則ハ實ニ重要ナルモノニシテ其包括スル所モ亦甚ダ狹少ナラサルモノトス、最初第一ノ場合并ニ第二ノ場合ニ付テハ別段注意ヲ要ス可キ事項アラスト雖トモ之ニ反シテ第二百七十七條ノ記載セル諸個ノ場合ニ付テハ最モ注意ヲ要スルモノ太多多シトス

最初二個ノ場合中其一ハ既ニ前文ニ陳述セシモノナリ、即チ代訴人カ現ニ自ラ引續テ擔當セル事件ニ付キ己レニ受取ル可キ入費ノ高并ニ賃料ノ高ヲ辨濟セシメノカ爲メノ訴權ニ關スル場合ナリ○此場合ハ別段少シモ難累アラサルナリ、唯爰ニ注意ス可キ一點ハ此五年ノ時効ト既ニ自ラ擔當ヲ止メタル代訴人ニ對スル二年ノ時効トヲ相照合スル所ニ在リトス

例ヘハ或ル代訴人其職ヲ解カレタルニ因リ四年以來己レニ受取ル可キ前拂ノ金高アル事件ヲ擔當スルコトヲ止メタル場合アリトセンニ、此場合ニ於テハ右ノ代訴人ハ其前拂シタル金高ニ付キ自ラ職ヲ解カレタル日附ヨリ一年半ノ時間ヲ經過シタル後ニ至リ尙ホ訟求ヲ爲スコトヲ得可キ權アリト云フ可キ乎、右ノ代訴人ハ最早ヤ自ラ其事件ヲ擔當スルニ非サルヲ以テ己レニ對スル時効ハ特リ其職ヲ止メタル日附ヨリ算計ス可キ二年ノ時効ニ外ナラサル可シト云フノ理由ヲ主張スルコトヲ得ルモノト爲ス可キ乎○余輩ハ此代訴人ハ決シテ右ノ如キ權利アラサル者ト信スルナリ

夫レ茲ニ明定セル法則ノ精神ニテハ尙ホ引續テ事件ノ擔當ヲ爲セル代訴人ヲ以テ既ニ其擔當ヲ止メタル代訴人ヨリ一層都合好ク取計ハント欲シタルニ在リ、且ツ尙ホ自ラ事件ノ擔當ヲ繼續スル代訴人ハ前段ニモ述ヘタルカ如ク常ニ其依頼人ニ對シテ多少堪忍スル



所ナキヲ得サルナリ、是故ニ法律上ニ於テハ二年ニ代ヘテ之ニ五年ノ期限ヲ授ケタリ、左  
 レハ代訴人其職ヲ止ムルニ至レハ其期限ヲ減少スルコト有ルモ決シテ之ヲ増長スルコト  
 有ル可ラサルナリ○此明白ナル理由ニ據テ之ヲ觀ル時ハ自ラ擔當ヲ止メタル代訴人ハ已  
 レノ職ヲ止メタル時ニ未タ三年以上ノ時間ニ達セサル前拂ノ金高ノミニ付キ其職ヲ止メ  
 タル日附ヨリ尙ホ二年ノ期限ヲ有スルモノト爲ス可キナリ○四年以來己レニ受取ル可キ  
 金高ニ付テハ唯一年ノ時間ヲ有スルニ過キス、又四年半以來己レニ受ク可キ金高ニ付テ  
 ハ最早ヤ六ヶ月ノ時間ヲ有スルノミニ○自ラ引續テ事件ノ擔當ヲ爲シ以テ法律上ニ於テ最  
 モ善視スル都合宜キ位地ニ居ル代訴人スラモ尙ホ右ノ如ク一年若クハ六ヶ月時間ヲ有ス  
 ルニ過キス如何ソ尙ホ惡シキ位地ニ在ル代訴人ニシテ之レヨリ長キ時間ヲ有スルノ理ア  
 ランヤ  
 之ヲ要スルニ凡ソ代訴人ノ訴權ヲ受理スルニハ必ス二個ノ時効中何レタリトモ之レニ對  
 シテ申立ルコト能ハサル場合ニ限ルモノトス、語ヲ更ヘテ之ヲ述ヘンニ代訴人ノ訴權ヲ  
 受理スルニハ必ス其擔當ヲ止メタル日附ヨリ二年ノ時間ヲ經過シタル後ニ起シタル訴訟  
 ニモ非ス又其負債ノ生シタル日附ヨリ五年ノ時間ヲ經過シタル後ニ起シタル訴訟ニモ非  
 サル場合ニ限ルナリ

第二ノ場合ハ即チ訴訟人ヨリ代訴人ニ對シ又ハ裁判官ニ對シテ書類ノ返還ヲ要求スル訴  
 權ニ關スル場合ナリ○此訴權ハ其訴訟ノ終結シタル日附ヨリ以來五年ノ時間ヲ以テ時効  
 ト爲ス○法文ニハ成ル程其裁判言渡ノ日附ヨリ以來其時間ヲ算計ス可シ云々ト明載セル  
 ト雖トモ然レトモ實際ニ當テ之ヲ觀ルニ必スシモ然ラサル場合ナキヲ期シ難シ、或ハ裁  
 判言渡ヲ爲スニ至ラスシテ事遂ニ終結スルコトアリ、例ヘハ双方和解ヲ爲シテ其訴訟ヲ  
 止メタル場合ノ如キ是ナリ、此ノ如キ場合ニ於テハ必ス其和解ノ契約ヲ代訴人若クハ裁  
 判官ニ送達シタル日附ヨリ以來其期限ヲ算計セサル可ラサルナリ

〔第二百八十二號〕（第三段） 從是以下更ニ第二千二百七十七條ノ法則ニ移リ前段ニ明示  
 シタル場合ノ外尙ホ五年ノ時効ヲ適施ス可キ諸般ノ場合ニ付キ説明スル所アラントス、  
 前文ニモ既ニ讀者ノ注意ヲ喚起シタルカ如ク本條ノ法則ヤ實以テ至極大切ノモノナリ○  
 本條ノ法則ハ其結果ノ及フ所太々廣大ニシテ且ツ太々善良ナリ敢テ前數條ノ如ク僅カニ  
 些細ノ利益ニ關スルノミニ過キサル規則ノ比ニ非サルナリ○此第二千二百七十七條ノ法  
 則モ亦彼ノ幾多ノ星霜ヲ經タル後漸ク我慢貪慾ノ思想ヲ除去スルコトヲ得タル時勢ト正  
 理トニ基因セル諸多大原則中ノ一ヲ明載シタルモノナルニ外ナラサルナリ、成ル程本條  
 ノ行文ハ其他本款ニ記列セル諸箇條ノ行文ニ均シク太々其編纂ノ穩當ナラサルモノアル



カ爲メニ多少困難ナル問題ヲ生スルコト無キヲ免レ難シト雖トモ余輩ハ「トロプロン」氏モ辨明セラレタルカ如ク敢テ之ヲ理解ス可ラサル難題トハ信セサルナリ  
夫レ高利貸ナルモノハ古今人間ニ免カレサル所ノ通弊ナリ、權利者自ラ其義務者ヨリ受取ル可キ諸般ノ利息、息銀及ヒ其他諸種ノ入額ヲ己レノ不注意ニテ際限ナク堆積セシムルニ至ルカ如キモ亦人世未タ免カレサル弊習ノ一ニ居ル、此弊ヤ其主意ヨリ之ヲ考フル時ハ彼ノ高利貸ノ如キ惡ム可キモノニ非スト雖トモ顧ミテ其結果ノ及フ所ヲ觀ル時ハ或ハ高利貸ヨリ尙ホ憂フ可キモノナキニ非サルナリ

譬ヘハ甲者汝ニ對シテ二萬「フラン」ノ金高ヲ辨濟ス可キ負債ヲ擔當ス、而カモ甲者ハ別段貧困ナルモノニ非サルヲ以テ少シク注意節減スルニ於テハ汝ニ向テ毎年ノ利息ヲ拂ヒ次第ニ其元金ヲモ辨償スルヲ得可キコト必然ナリ、然ルニ汝ハ別ニ一言ノ催促タニ之ヲ爲サス二十年、二十五年、若クハ三十年ノ時間ヲ空シク經過シタル後突然來リテ之ヲ要求スル所アラントス、且ツ汝ノ要求スル所ハ最早ヤ二萬「フラン」ノ金高ニハ非サル可シ、右ノ如キ長期ヲ經過シタル後ノ事ナレハ其額或ハ四萬「フラン」ニ上リ居ルコトモアラン、或ハ五萬「フラン」ヲ越ヘ居ルコトモアラン、此ノ如キ場合ニ於テハ人皆之ヲ知ルコトヲ得可キカ如ク甲者ハ元來左程ニ生計ニ困究セシモノニ非サリシカ故ニ初メハ唯僅カニ己

レノ要ヲ節減スルノミヲ以テ充分其負債ヲ償却スル方法アリシモ今ハ資力ノアラン限リ身代ヲ拂ツテ其義務ヲ辨濟セントスルモ尙ホ不足スル所アルヤモ圖ラレス  
試ニ之ヲ思ヘ汝ノ所有セル一小屋若クハ一小田ヲ借テ漸ク毎年ノ賃銀八百「フラン」ヲ納ム可キ義務ヲ盡クスニ汲々タル小商人若クハ小作人ニ對シテ汝殘酷ナル恩誼ヲ示シ敢テ一回ノ催促ヲモ爲サス空シク十二年又ハ十五年ノ長期ヲ經タル後俄然來リテ其家賃若クハ地賃ノ全額ヲ要求スルトセンニ、誰レカ右等ノ者汝ニ向テ一萬「フラン」乃至一萬二千「フラン」ノ金高ヲ皆濟スルノ日ハ即チ其身代限ノ日タルコトヲ知ラサランヤ、汝假面ノ恩誼ハ却テ其家族ヲ擧テ究苦ニ陥ラシムルノ基因タリ、汝ノ恩誼ナカリセハ年々僅カニ要ヲ節シテ正シク其賃銀ヲ納メルカ若クハ他ニ相當ノ家屋或ハ土地ヲ求メ以テ無事ニ其生計ヲ全フスルコトヲ得タルナラン

請フ空シク事ノ次第ヲ熟考セヨ、權利者其義務者ニ對シテ稍々長久ナル期限中其負債ノ催促ヲ爲サ、ラント欲セハ必ス自ラ充分ノ餘裕アル者ニ非サレハ能ハサル可キナリ、是レ如何ニモ勿論ノ事ナリト雖トモ顧ミテ其義務者ノ方ニ付テ之ヲ觀ルニ義務者モ亦此長キ時間中漸次負債ノ高増加スルニ拘ハラスシテ其義務ヲ擔當セント欲スルニハ必ス自ラ稍々富饒ナル者ニ非サレハ能ハサル可キナリ、然ルニ義務者ノ富饒ハ無論一般ノ通情ニ



ハ非サルナリ、左レハ顯敏ナル立法者ハ宜シク意ヲ用ヒ權利者カ徒ラニ假面ノ堪忍ヲ爲シテ義務者ヲシテ幾ト死ニ至ラシムルカ如キ事實ナカラサル様固ク之ヲ禁制スルノ方法ヲ施サ、ル可ラサルナリ○法典上此第二千二百七十七條ノ法則ニ規定スル所ハ即チ此義ニ外ナラサルナリ

羅馬末代ノ法律ニ於テ「ジュースチニヤン」帝ハ金高ノ權利者カ其元金ノ高ヨリ以上ノ息利ヲ堆積セシムルニ至ルコトヲ禁シ以テ早ヤ既ニ右ノ主義ニ傾進センコトヲ力メタリ、其高利貸ニ關スル法律ヲ以テ總テ金額ノ權利者カ二十年以上ノ利息ヲ要求スルコトヲ嚴禁シタリ○去レトモ此弊習ヲ醫治スルノ方法ハ一面ニ向テハ餘リ期限ノ長久ニ失スル所アリ(如何トナレハ二十年ノ時間ハ餘リ長キニ失スルカ故ナリ)他ノ一面ニ向テハ餘リ其目的トスル所ヲ制限スルカ故ニ(如何トナレハ特リ金高ノ利息ノミニ關スル規則ナルヲ以テナリ)二重ニ涉リテ不完全ナル所アルニ拘ハラス當時ノ富豪者カ貪慾ナル量見ヨリ之ヲ觀ル時ハ尙ホ太々過酷ナルモノアルカ如キ思テ爲セリ、左レハニヤ我佛國古法ノ時代ニ在テ諸邦ノ巴力門院ノ中右羅馬ノ法律ヲ引用實行セシモノハ太々多カラサリシト云フ是故ニ佛國古法ノ時代ニ於テハ總テ入額ノ負債ニ付テモ其他ノ負債ニ於ケルニ等シク概シテ三十年ノ時効ヲ適施スルヲ以テ一般ノ慣例トセリ、後十六世紀頭初ノ頃當時ノ國王

「路易」第十二世并ニ其首相顯敏ナル「ゼチール」シユ、ダンボワーズ」氏ノ德行直實ノ思想ヲ以テ政ヲ施スニ際リ即チ千五百十年ノ敕令ヲ以テ始メテ舊慣ヲ改メ以テ左ノ法則ヲ明定セリ、其敕令第七十二條ニ曰ク近年ニ至テハ我カ國民中金額ヲ以テ設定シタル年金所得權ノ賣買ヲ爲ス者甚々許多ナリトス、而ルニ其買主タル者ハ屢々其所得權ノ息銀ヲ際限ナク堆積セシムルニ至ルコト有ルヲ以テ右賣買契約ノ爲メニ非常ノ困苦ヲ極メ幾ト身代ヲ亡フ者實ニ鮮少ナラサルナリ是レ我カ國人一般ノ利益ヲ計リ此命令ヲ布告シテ以テ此種ノ年金所得權及ヒ書入質權ノ買主ハ決シテ五年以上ノ息銀ヲ要求スルコト能ハサル者ト爲ス所以ナリ云々ト

爰ニ説明スル第二千二百七十七條第一項ノ法則ハ即チ此敕令ノ精神ヲ其儘探リテ明載シタルモノニ外ナラサルナリ○「アンリ」氏モ亦嘗テ右ノ敕令ニ付テ説ヲ爲シテ述ヘタルコトアリ曰ク此敕令ヤ一ハ以テ公益ヲ保護センカ爲メニシ一ハ以テ義務者ヲ慰センカ爲メニシテ發布セラレタル者ナリ云々ト又曰ク此事ニ付テハ嘗テ學士「エーモン」氏カ「テウーウエルニユ」州ノ慣習法ニ規定セラレタル時効ノ篇第七條ニ付テ説明セラレタル所ヲ參照スルモ等シク同様ノ精神ニ出テタルモノナルコトヲ覺知スルコトヲ得可シ、氏ノ説ニ云ヘルアリ抑モ慣習法ニ於テ際限ナク息銀ヲ要求スルニ至ルコトヲ欲セサル所以ハ敢



テ其義務者ノ懈怠ヲ惡ムカ爲メニ然ルニ非ス、全ク其權利者ノ不注意ヲ罰センカ爲メニ然ルナリ。慣習法ニ於テ權利者ヲシテ最早ヤ其訴權ヲ施スノ地ナキニ至ラシメタルハ全ク其不注意ナリシ過失ニ報センカ爲メナリ云々ト

後「路易」第十三世ハ當時ノ司法卿有名ナル「マールリニヤク」氏ノ意見ヲ採用シ以テ千五百年ノ敕令ニ掲載シタル大原則ヲ擴張センコトヲ圖リ即チ千六百二十九年ノ命令ヲ發布シタリ、當時痛ク之ヲ誹毀スル者甚々鮮カラサリシト雖トモ幸ニシテ「ボチエー」氏ハ之ヲ形様シテ千六百二十九年ノ善良ナル命令ト評シ以テ世ノ誹譏者ニ報スルコトヲ力メタリ、然レトモ此「ミシヨウ」法典ト稱シタル千六百二十九年ノ命令ハ「トロブロン」氏モ陳ヘラレタルカ如ク大ニ急進ノ思想ニ出テタルモノナレハ遙カニ當時ノ時勢ニ適セサリシヲ以テ太タ不都合ナキコト能ハサリシ、左レハニヤ右命令中ニ規定シタル良好ナル法則ノ中多クハ世人ノ爲メニ嫌忌セラレ、ニ至リシモ時勢ノ然ラシムル所實ニ止ムヲ得サル次第ナリシ。去レトモ此命令第四百二十二條ヲ以テ家賃并ニ地賃ヲシテ五年間ノ時効ニ適從セシムルト云ヘル規則即チ今日第二千二百七十七條ノ第三項ニ揭示セル法則ハ當時既ニ或ル二三ノ諸州就中巴理府ニ於テ之ヲ實行シタリト云フ、然レトモ其第五百十條ニ於テ凡ソ金高ノ利息ニ付キ裁判所ニ要求ヲ爲シ以テ其要求ノ如ク裁判言渡ヲ得タル時ト雖

トモ又裁判言渡若クハ判決ニ因テ此等ノ利息ヲ允許シタル時ト雖トモ決シテ五年以上ノ利息ヲ獲得シタルモノト看做ス可ラス云々ト云ヘル法則ヲ確定セシモ何レノ州ニ於テモ嘗テ之ヲ通用シタルコトナシトス

前ニモ述ヘタルカ如ク千五百年ノ命令ニテハ特リ金高ヲ以テ設定シタル年金所得權ノミニ付キ五年ノ時効ヲ適用ス可キモノト爲セシモ千七百九十二年八月二十日ノ法令ヲ以テ更ニ之ヲ土地ニ關スル年金所得權ニ通用ス可キモノトセリ、又其翌年即チ千七百九十三年八月二十三日ノ法令第五百五十六條ヲ以テ政府ヨリ拂渡ス可キ畢生間ノ年金所得權ニモ亦等シク五年ノ時効ヲ及ホシ施ス可キモノト爲セリ

此ノ如ク法典編纂以前ノ有様ニテハ唯第一金高ヲ以テ設定シタル年金所得權、土地ニ關スル年金所得權、政府ヨリ拂フ可キ畢生間ノ年金所得權第二地賃又ハ家賃（是レハ或ル二三ノ州ノミニ限ル）ノミニ付テ五年ノ時効ヲ當行ス可キモノト爲シタルニ過キサリシヲ以テ千八百四年ノ法典編纂者ハ早ク此法則ヲ以テ總テノ拂渡ス可キ入額ニ及ホシ施スコトノ必要ナルコトヲ覺悟シタルカ故ニ乃チ第二千二百七十七條ノ規則ヲ明定シ以テ舊來卑怯ノ惑説ニ因リ排除セラレタル原則ヲシテ始メテ一般ノ場合ニ通用ヲ爲サシムルコトニ決定セリ



以上詳陳シタルカ如ク第二百七十七條ノ法則ハ如何ナル場合タルヲ問ハス拂ヒ渡ス可キ總テノ入額ニ付テ適施ス可キモノトス、蓋シ此種ノ負債ハ次第ニ増加スルモノナレハ早晚之ヲ停止スルノ方法ヲ施サ、ル以上ハ其高次第ニ堆積増殖シテ竟ニ義務者ノ身代ヲ亡フ原由トナル可キカ故ナリ

第二百七十七條ノ法文ハ稍々明瞭ニ右ノ次第ヲ指示スルモノ、如シ、本條ノ記列スル所ハ特リ第一無期ノ性質アル(土地ニ關スルモノタルト金高ニ關スルモノタルトニ拘ハラス)畢生間ノ性質アルトヲ問ハス總テ年金所得權ノ賦額、第二家賃及ヒ地賃、第三貸附ケタル金高ノ利息并ニ第四養料所得權ノ賦額等ノミニ止マラス其他一年毎又ハ尙ホ更ニ短キ定期毎ニ辨濟ス可キ一切ノ諸件ヲモ殘ラス本條ノ明文中ニ包含スルモノトセリ

本條末段ノ文面ハ此ノ如ク理解シ易キニモ拘ハラス少シク編纂ノ當ヲ得サル所アルカ爲メニ淺量ノ說者或ハ尙ホ本條ノ法則ハ敢テ一般ノ場合ニ及ホシ行フ可キモノニ非スト云ヒ以テ二三重要ノ場合ヲ本條ノ法則中ヨリ除去セント試ミタル者アリトス、今ヲ距ルコト二百年以前ニ在テハ文物未タ整備ナラス彼ノ司法卿「マリーリニヤク」氏ノ意見ニ出テタル善良ナル命令トテモ尙ホ或ハ之ヲ誹議スルノ餘地アリタル可シト雖トモ今日千八百四十年ノ立法者カ明定シタル此法條ノ精神ヲシテ尙ホ狹隘ナラシメント圖ルハ抑モ何ノ意ナ

ル乎○幸ニシテ此等淺見論者ノ說ヲ駁撃スルニ容易ナルモノアリ、「トロプロン」氏モ亦先キニ其自著第一千十三號乃至第一千二百六號ニ於テ固ク右ノ邪說ヲ論撃セラレタルヲ以テ余輩ハ唯氏カ主說ノ要領ヲ指示スルヲ以テ足レリト信スルナリ(但シ多少語ヲ加ヘテ之ヲ扶助スル所アル可シ)、且ツ大審院判決ニテモ亦既ニ余輩ト同様ノ說ヲ採許シタルコトナレハ爰ニ本條ノ第一項第二項ヲ説明シ并セテ其末項ニ掲載セル一般ノ法則ノ本義ヲ辨解スルニ於テ少シモ掛念顧慮スル所アラサルナリ

〔第二百八十三號〕(第四段) 先ツ本條ニ於テハ總テノ年金所得權ニ五年ノ時効ヲ適用ス可シト云ヘリ、而シテ其年金所得權カ金高ニ關スルモノナルト土地ニ關スルモノナルトニ拘ハラス、又無期ノモノナルト畢生間ノモノナルトヲ問ハサルナリ、是レ蓋シ千五百十年ノ命令ヲ以テ記定シタル法則ヲ擴張シテ以テ土地ニ關スル年金所得權并ニ畢生間ノ年金所得權ニ及ヒシモノナラン

爰ニ注意ス可キモノ一アリ、即チ畢生間ノ年金所得權ニ付テハ其他ノ年金所得權ニ於ケルニ等シク既往ニ溯リテ裁判所ニ請求ヲ爲シタル時カ又ハ其他時効ヲ中斷スル處置ヲ施シタル時ヨリ以來其五年ノ時間ヲ算計スル者トスト云フコト是ナリ○例ヘハ無期ノ年金所得權ニ關スルト畢生間ノ年金所得權ニ關スルトヲ問ハス稍々久シク怠リテ要求スルコ



トヲ爲サ、ル賦額ヲ千八百二十一年一月ニ至テ始テ之ヲ請求シタル場合ニ於テハ其義務者ハ千八百十六年一月以來過期シタル賦額ノミヲ辨濟ス可キ責アリトス、其他既ニ全ク過期シタル賦額ニ付テハ最早ヤ自ラ其責ニ任スルニ及ハサル者ト爲ス可シ、如何トナレハ此等ノ賦額ニ付テハ既ニ五年以上ノ時間無爲ニテ經過シタル事實アルカ故ナリ、且ツ若シ其畢生間ノ年金所得權ニ關スル場合ニシテ權利者カ千八百十八年ニ死去シタランニハ義務者ハ唯ニケ年分ノ賦額即チ千八百十六年并ニ千八百十七年分ノ賦額ヲ辨償ス可キ義務ヲ擔任スルノミニ過キサル可シ

右ニ述フル所ハ實ニ當然ノ事ナレハ別ニ解説スルニ及ハサルコトナレトモ余輩ノ殊更ニ之ヲ等閑ニ附ス可ラサル者ナリト考定シタル所以ハ蓋シ千八百二十六年七月二十二日巴里府控訴院ニ於テ之ニ反對スルノ判決ヲ下シタルコト有ルカ故ナリ、此判決ニテハ右ノ場合ニ付テ其時効ヲ中斷スル所爲ヲ行フタル日附ニ依ラス偏ヘニ其權利者ノ死去シタル日附ヲ採リテ以テ起算ノ初日ト爲シ以テ千八百十三年ニ至ル迄溯リテ賦額ヲ拂フ可キ義務アリト云フノ決定ヲ爲セリ○特リ怪ム巴里府控訴院判決ニテハ何ヲ以テ法律ノ明文中正ニ此主意ヲ確認シタル正條ヲ明示セザリシ乎、此主意ヤ曾テ千八百九年ノ裁判言渡ニテ之ヲ採許シ以テ權利者ノ死去セル事實ハ即チ其債主權ニ對シテ經過セル時効ヲ中斷ス

ル理由ノ一ナリト云フノ決定ヲ下セシコト有リシモ素ヨリ不當ノ言渡タルニ相違アラサルヲ以テ後更ニ大審院ノ判決ヲ以テ之ヲ破毀シタリ（此大審院判決ニ付テハ後段ニ至テ更ニ解説スル所アル可シ）○巴里府控訴院ノ判決ニテ採用シタル主義ハ全ク陳腐ニ屬スルノ説トシテ最早ヤ之ヲ顧ミルモノサヘアラサレハ彼レ是レ之ヲ論撃スルモ空シク徒勞ニ期スルナラン

第二千二百七十七條第二項ノ法則ハ即チ養料所得權ニ關スルモノナリ、別段解説ヲ加ヘスシテ自ラ瞭然タリ、本條第三項ハ即チ「ミシヨウ」法典ノ第四百二十二條ヲ再記セシモノナリ）家賃及ヒ地賃ニ關スル法則ナリ、是レ亦別ニ説ヲ附スルヲ要セス、但シ爰ニ注意ス可キ一事ハ即チ本項ニ記載スル法則ハ敢テ諸般ノ家具ヲ備附ケアル房屋ヲ指示シタルモノニ非スト云フコト是ナリ、蓋シ家具ヲ供備セル房屋ノ賃貸人ハ常ニ旅舎ノ主人若クハ下宿所ノ主人様ノモノナルヲ以テ其債主權ハ敢テ五年ノ時間ヲ以テ時効ヲ得可キモノニ非スシテ必ス六ケ月ノ時効ニ適從ス可キモノナルカ故ナリ（第二千二百七十一條）

〔第二百八十四號〕 法典ハ又本條第四項ニ於テ同様ノ法則ヲ以テ等シク貸付ケタル金高ノ利息ニ通用ス可シト云ヘリ、法典ハ此ノ如ク特別ナル四種ノ諸件ヲ記列シタル後一般確的ノ原則ヲ定メ以テ其他凡ソ一年毎又ハ更ニ短キ定期毎ニ辨濟ス可キ總テノ諸件ニモ亦



同様の法則ヲ通行ス可シ云々ト明載セリ

夫レ然リ然ルニ諸多ノ學士輩并ニ諸多ノ判決例等ニ於テハ大ニ此法則ノ本義ニ付テ異議ヲ爲シ以テ敢テ拂ヒ渡ス可キ入額ニ關スル總テノ場合ニ之ヲ適用ス可ラスト云ヒ、敢テ總テノ利息ニ關スル負債ノ場合ニ之ヲ適用ス可ラスト云ヘリ、此説ヲ爲ス者ハ曰ク本條ノ法則ヤ敢テ賣買代金ノ利息ニモ之ヲ及ホシ行フ可ラスト、嫁資ノ利息ニモ之ヲ通用ス可ラスト、又償<sup>○</sup>息ノ利息ト稱スルモノ即チ義務者ノ辨濟ヲ爲スコトヲ怠リタルニ因リ要スル利息ニモ之ヲ適施ス可ラスト、就中既ニ裁判言渡ヲ受ケテ義務者カ遲滯ニ置カレタルニ因リ懈怠アル時ハ別シテ其利息ニ本條ノ規則ヲ通用ス可ラサルナリ云々ト

最モ此主意ヲ固執シテ痛論セシハ蓋シ「ラウエー」氏并ニ「ポルドウ」府ニ在ル二名ノ代言人カ千八百三十四年ニ於テ解説セシ所是レナリ○其主論ノ據テ基ク所ハ即チ大要左ノ如シ

以前ノ諸判決例ヲ按スルニ裁判上ノ利息ハ申スニ及ハス定期毎ニ拂フ可キ通常ノ利息ニ付テモ嘗テ五年ノ時効ヲ允許セシモノアルヲ見サルナリ、然ルニ法典上通常ノ利息ニ付テハ等シク五年ノ時効ヲ通用スルヲ以テ至當ナリト思量シタルモ敢テ裁判上ノ利息ニ及ハサリシハ蓋シ其間ニ於テ最モ著シキ大差異アリテ存スル所ニ着目シタルカ故ナリ、裁判

上ノ利息ニ付テ五年ノ時効ヲ及ホシ施ス可ラサル理由ニアリトス○先ツ一面ヨリ之ヲ觀ルニ一旦既ニ其辨濟ヲ行フ可キ旨ヲ言渡シタル裁判アリタル以上ハ最早ヤ其權利者ノ懈怠ヲ語ル可ラスト如何トナレハ權利者ハ正ニ其義務者ニ對シテ出訴ヲ爲シ以テ明カニ之ニ其責アル旨ヲ言渡サシメタルモノナルカ故ナリ、左レハ此ノ如キ場合ニ於テ獨リ過失アルモノハ即チ其裁判言渡ノ如クニ執行ヲ爲サ、ル義務者ナリ而シテ此義務者ニシテ尙ホ二十年ノ時間若クハ三十年ノ時間ヲ經過スルニ至ル迄其辨濟ヲ爲サ、ルニ於テハ乃チ自身ノ不注意ニ因テ破産スルニ至ルモノニシテ決シテ權利者ノ懈怠ニ因テ然ルニハ非サルナリ○以上説ク所ニ付テ之ヲ觀ルモ既ニ本問ノ事柄ハ第二千二百七十七條ノ法則ヲ設ケタル理由中ニアラサルコトヲ確認スルコトヲ得ルナラン○又顧ミテ他ノ一面ヨリ之ヲ考フルニ所謂ル裁判言渡ナルモノハ絶ヘス毎日其言渡ヲ受ケタル義務者ヲシテ遲滯ニ置ラシムルノ効アルモノナリ、故ニ五年ノ時効ハ決シテ其裁判言渡ニ因リ生スル利息ニ對シテ始マルコトヲ得可キモノニ非ス、蓋シ其裁判言渡ヲ得タル以上ハ三十年ノ時間中始終間斷ナク時々催促ヲ爲スモ全く同様ナルカ故ナリ○且ツ「ラウエー」氏ノ説ニ依レハ曾テ「ラモワニヨン」府控訴院長カ其判決文中ニ明カニ年金所得權ノ賦額并ニ元金ノ利息ニ付テ五年ノ時効ヲ允許センコトヲ按出シナカラ特リ裁判所ニ請求ヲ爲シタル後正ニ其言渡ヲ受ケ



タル場合ノミチ取除テ之ヲ別ニセント圖リタルモ全ク右ノ次第ナルカ故ナリト云ヒ、又控訴院長「フワーブル」氏カ曾テ「サボチー」州ノ領主ヲシテ五年ノ時効ヲ明定ス可キ命令ヲ發セシメナカラ殊更ニ注意シテ裁判言渡ニ因リ申告セラレタル金高ノ利息ニハ決シテ此法則ヲ適用ス可ラサルナリト教示シタルモ亦全ク右ノ理由アルカ爲メナリト云ヘリ○且ツ曰ク法典上ニ記載セル法則ノ本義モ亦全ク之ニ外ナラサルモノト知ル可シ如何トナレハ法典ニハ貸付ケタル金高ノ利息ハ皆五年ノ時間ヲ以テ其時効ト爲ス可シ云々ト記シタル後拂ヒ渡ス可キ入額トナレル總テノ諸件云々トハ記載セスシテ唯一年毎若クハ更ニ短キ定期毎ニ辨濟ス可キ總テノ諸件云々ト明記セルカ故ナリ、夫レ然リ然ルニ所謂裁判上ノ利息ナルモノハ敢テ一年毎ニ辨濟ス可キモノニモ非ス又其他ノ定期毎ニ辨濟ス可キモノニモ非ス、裁判上ノ利息ナルモノハ其元金ト同様ニ始終間斷ナク時々要求セラレ可キ性質アルモノナリ、如何トナレハ其義務者ハ自ラ義務ノ全額ヲ辨濟スル爲メニ始終遲滯ニ置カレタルモノト看做ス可キカ故ナリ、由是觀之裁判上ノ利息ヲ以テ本條ノ法則中ニ包含スルモノト看做ス可ラサルコト實ニ明白ナリト云々(以上反對説ノ要旨)

「ムールロン」氏ハ此説ヲ排除セントスルノ餘リ枝葉ヲ折裂シテ幾ト空無ニ歸セシムルノ論ヲ爲シ「トウーリエ」氏モ亦之ニ向テ論撃ヲ試ミタルコト有リシカ其實「ラウエー」氏

ノ主説ハ隨分巧妙ナル所アルヲ以テ皮相ノ觀ヲ以テ之ヲ考フル時ハ或ハ余輩カ第二千二百七十七條ノ末文ニ授ケントスル所ノ本義ニ付キ疑義ヲ起サシムルコト無キヲ保シ難シ、去レトモ余輩ハ斷シテ「ラウエー」氏ノ主説ハ法律ノ眞意ニ反スルモノナリト云ハント欲スルナリ、大審院ニ於テ既ニ此説ヲ排除シタルハ實ニ其當ヲ得タルモノ、如シ○請フ余輩ノ信據スル所ヲ左ニ明示セン

人皆之ヲ明認スルコトヲ得可キカ如ク「ラウエー」氏ノ持説ハ特ニ左ノ三個ノ思想ヨリ發シタルモノナリ○第一、辨濟ヲ爲ス可キ裁判言渡アリテ既ニ存立スル以上ハ最早ヤ五年ノ時効ヲ通用ス可キ理由ヲ消除セシムルニ至ル如何トナレハ最早ヤ其權利者ノ懈怠アリト云フ可ラサルカ故ナリ○第二、又右ノ裁判言渡アリテ已ニ存スル以上ハ最早ヤ法律上五年ノ時効ヲ望ム可ラス如何トナレハ其裁判言渡ハ三十年ノ時間中始終間斷ナク催促ヲ爲ス事實ニ同一ナル効力アルカ故ナリ○第三、右ノ次第ニ因リ裁判言渡アル場合ニ於テハ敢テ五年ノ時効ヲ允許ス可ラサル理由アルヲ以テ法典上ニ於テハ能ク此狀況ヲ察シ以テ竟ニ之ヲ認許スルコトヲ敢テセサリシナリ、法典ハ單ニ定期ニ辨濟ス可キモノ、ミニ付テ此法則ヲ明定シタルノミ、而ルニ裁判言渡アル場合ニ於テハ其負債ノ元金タルト利息タルトヲ問ハス常ニ何時タリトモ全額ヲ要求スルコトヲ得ルモノナレハ嘗テ定期アリ



テ存スルコト有ラサルナリ云々

右三個ノ思想ヤ如何ニモ其詳説ノ巧ミナルカ爲メニ至極妙味アルカ如クニ見フレトモ余輩ノ信スル所ニテハ其中一タモ正確ナルモノアラサルカ如ク思ハル、ヲ如何セン

〔第二百八十五號〕 反對説ヲ爲ス者ハ先ツ曰ク一旦裁判言渡ヲ得タル以上ハ最早ヤ其權利者ノ不注意アリト云フ可ラス云々ト○誰シカ此説ノ謬妄タルコトヲ知ラサル者アラシヤ○勿論權利者カ自ラ裁判所ニ請求ヲ爲シ以テ其裁判ヲ言渡サシムル時分中ニ在テハ決シテ之ヲ不注意ナル者ト云フコト能ハサル可シ却テ其注意ヲ爲セル最中ト云フ可キナリ、故ニ此時分中ニ在テハ敢テ彼是異論ヲ爲サントスル者ハアラサルナリ○去リナカラ試ミニ爰ニ右ノ裁判言渡ヲ得タル後權利者引續テ其裁判言渡ノ如ク執行ヲ要ムルコトヲ爲サス手ヲ束テテ之ヲ抛テ毫モ顧ミル所ナクシテ無爲ニ十五年二十年二十五年乃至二十年ノ時間ヲ徒費シタル場合アリト假想シテ之ヲ視ヨ尙ホ此權利者ヲ以テ現ニ注意ヲ爲シテ事ヲ處スル者ナリト云フ可キ乎○此權利者ヤ其裁判言渡ヲ得タル日ヨリ數ケ月乃至五年以上ニ過キサル數年ノ時間中ニ正ニ之カ執行ヲ求ムルコトヲ爲サシテ六年八年十年乃至其以上ノ時間中恰モ其事ノ已レニ關セサルモノ、如ク之ヲ抛テ毫モ顧ミル所ナカラントス、然ルニ説者此權利者ヲ以テ尙ホ懈怠ノ責アル者ト爲ス可ラスト云フ嗚呼謬妄

ノ甚シキ何ソ茲ニ至ル（如何ニ多忙ノ人ト雖トモ五年間ノ日子アレハ其裁判ノ執行ヲ要ムル爲メニ充分ラサルコトアラサル可シ）○虛飾ノ辨ハ却テ危フシ寧ロ直入説ヲ爲スニ若カサルナリ、余輩ハ方サニ斷シテ云ハントス權利者十年十五年二十年若クハ其以上ノ時間中空シク自己ノ證書ヲ益用スルコトヲ怠リシ場合ニ於テハ即チ自ラ懈怠アリシ者ナリト、又斷シテ云ハシ此權利者ヤ眞ニ大ニ懈怠アル者ナルニ相違アラサルヲ以テ法律ノ理由トスル所最モ固ク茲ニ存スルモノナリト○余輩ハ爰ニ殊更ニ語ヲ加ヘテ法律ノ理由トスル所最モ此點ニ在リト云フ所以ハ蓋シ斯ク述フルモ敢テ無理ナラサル次第アリテ存スルカ故ナリ、試ニ問ハシ其初メヤ汲々力メテ漸ク既ニ裁判言渡ヲ得タル後直ニ抛テ更ニ之ヲ益用スルコトヲ爲サスト云フハ抑モ何事ソヤ○殊ニ知ラス其裁判言渡ノ以前ニ在テハ尙ホ未タ多少ノ資力アリシ義務者ヲシテ愈々究困ニ堪ヘサラシメシメカ爲メ毫モ其得失ヲ考フルコト無ク徒ラニ故意以テ我慢ヲ遂ケントスルカ爲メナル乎○説者請フ能ク之ヲ詳察セヨ此算段ヤ痛ク正道ニ反スルモノト云ハサラントスルモ能ハサル可シ○好シ然ラサルモ權利者ハ其初メヤ裁判上ノ證書ヲ得シカ爲メ至極力ムル所アリシモ後絶ヘテ却テ大懈怠ノ中ニ長眠シタルノ責ヲ免カル、コト能ハサルノ事實アルニハ非サル乎、左レハ法律ノ理由充分ニ存スル所ナシト云フコト能ハサルナリ○以上ノ辨明ニ因テ之ヲ了



知スルコトヲ得ルカ如ク説者ノ中傍ラ言ヲ加ヘテ義務者カ究困破産ヲ爲スコトアレハ是  
 ノ自業自得自ラ招ケル所ノ禍害ニシテ敢テ權利者ノ懈怠アルカ爲メニ然ルニ非ス、特ニ  
 已レノ懈怠ニ因テ然ルナリ云々ト述フル者アリト雖トモ駕空ノ説敢テ顧ミルニ足ラサル  
 ナリ○權利者ノ懈怠正サニ疑フ可ラサルコトハ以上詳論セシ所ナリ、從是義務者ノ懈怠  
 アル所ヲ舉示シ併セテ其懈怠ノ淺少ニシテ別段責ム可キモノニ非サルコトヲ説明シ以テ  
 論者ノ頻リニ義務者ニ懈怠アリト云ハントスル所ハ全ク虚飾ノ巧言タルニ過キスシテ其  
 實毫モ意味アルノ辨ニ非サルコトヲ論破セントス  
 爰ニ論究セントスル場合ニ於テハ未タ其裁判言渡ヲ爲サ、ル以前ト既ニ之ヲ爲シタル以  
 後トニ付テ少シモ其位置ニ變動アルコト無シ、假令ヒ未タ嘗テ裁判言渡ヲ受ケサル以前  
 ト雖トモ總テ定期毎ニ其自ラ負擔スル利息ヲ辨濟セサル義務者ハ素ヨリ責ム可キ行爲ア  
 ル者タルノ評ヲ免カレサルナリ、強テ之ヲ形様セントスレハ即チ此義務者ヤ所謂ル懈怠  
 ノ責アル者ナラン、成ル程既ニ正サニ遲滯ニ置カレタル場合ニ比スレハ其懈怠遙カニ少  
 々ナリト雖トモ懈怠アルコトハ即チ懈怠アルニ相違アラサルナリ、左レハ此義務者ニ向  
 テモ亦等シク「ラウエー」氏ノ言ヲ假用シテ以テ其破産ニ傾向スルハ即チ自ラ爲セル孽ナ  
 リト云フコトヲ得ルナラン○去レトモ法律ノ規定スル所ハ大ニ之ニ異ナルモノアルヲ如

何セン、蓋シ法律ノ着目セシ所ハ如何ニモ至當ノコトナリト雖トモ「ラウエー」氏ノ淺慮  
 竟ニ法律ノ眞意ヲ探知スルコト能ハサリシナリ  
 抑モ法律ノ爰ニ主トシテ着意シタル所ハ敢テ其義務者ヨリ怠リテ辨濟ヲ爲サ、リシ事實  
 ヲ以テ專要トスルニ非スシテ却テ其權利者ヨリ怠リテ訴權ヲ執行スルコトヲ爲サ、リシ  
 事實ヲ以テ着目ノ要點トス、語ヲ更ヘテ之ヲ述ヘンニ元來法律上爰ニ懈怠云々ト云ヘル  
 語字ヲ用非タルハ特ニ其權利者ノ懈怠ヲ云ハンカ爲メニシテ毫モ其義務者ノ懈怠ヲ指示  
 センカ爲メニハ非サルナリ、蓋シ必不然ラサル可ラサル理由アリテ存スルカ故ナリ、夫レ  
 權利者ヨリ義務者ニ對シテ訟求スル所アラントスルニハ唯自ラ之ヲ爲サントスルノ意ア  
 ルノミテ以テ足レリトス、之ニ反シテ義務者ヨリ權利者ニ對シテ其義務ノ辨濟ヲ爲サン  
 トスルニハ必ス之ヲ爲サントスル好意ノ外別ニ要スルモノアリ即チ其償却ニ充テル爲メ  
 ニ要スル金錢是ナリ、義務ノ辨濟ヲ爲サントスル好意アルモ之ニ充テル金錢無クシテ苦  
 シム者アルハ比々敢テ其例ニ乏シトセサルナリ、要スルニ凡ソ自ラ權利者タラン者ハ時  
 々日々常ニ其訴訟ヲ爲スノ方便アリテ毫モ障碍アルコト無シト雖トモ之ニ反シテ己レ自  
 ラ義務者タラン者ハ既ニ遲滯ニ置カレタルト否ラサルトヲ問ハス常ニ必シモ其義務ヲ辨  
 償スルノ方便ヲ有スルモノト云フ可ラサルナリ



是レ即チ法律上偏ヘニ權利者ノ懈怠ノミニ付テ法則ヲ規定シタル所以ナリ、又彼ノ「アン  
 リー」氏カ豫メ「ラウエー」氏ノ附屬説ニ答辨センカ爲メ古學士「エーモン」氏ノ嘗テ述ヘ  
 置カレタル敢テ義務者ノ懈怠ヲ責メンカ爲メニ非ス特ニ權利者ノ懈怠ヲ罰センカ爲メニ  
 然ルナリ云々ト云ヘル數語ヲ引用セシモ蓋シ右ノ理由アリテ存スルカ故ナラン

〔第二百八十六號〕 說者又曰ク「一旦裁判言渡アリタル以上ハ最早ヤ五年ノ時効ヲ得ント欲  
 スルモ難シトス如何トナレハ時々始終其催促ヲ爲スト同様ノ事實アルカ故ナリ云々ト  
 通常世人ノ之ニ答辨スル爲メニ述フル所」ニシテ足ラスト雖トモ今更ニ之ヲ重テテ解説  
 セントスルハ無要ノ徒勞或ハ煩ハシキ所ナキニシモ非サルヲ以テ略シテ之ヲ辨セス特リ  
 確的ノ理由ナリト考量スル所ノ一言ヲ以テ說者ノ主論ヲ擊破セント欲スルナリ○假シ夫  
 レ說者ノ陳辨スルカ如ク其裁判言渡ニシテ果シテ三十年ノ時間中絶ヘス繼續スル所ノ催  
 促ニ比適スルモノニシテ從テ三十年ノ時間中始終時効ヲ得ルコトヲ妨碍スルモノナラン  
 ニハ此時効ヤ其間絶セスシテ存スル中斷的ノ原由全ク消散シタル後即チ三十年ノ時間ヲ  
 經過シタル後ニ至ラサレハ始マルコト能ハサルナラン、左レハ其利息ニ付テハ必ス三十  
 五年以後ニ至ラサレハ時効アリト云フコト能ハサル可ク、又其元金ニ付テハ必ス六十年  
 以後ニ至ラサレハ時効アリト云フコト能ハサル可シ○余輩ハ恐ラク「ラウエー」氏其人ト

雖トモ又其他ノ人ト雖トモ妄リニ此ノ如キ奇說ヲ主唱シ以テ之ヲ世間ニ傳播センコトヲ  
 敢テスル者アラサルナリト信スルカ故ニ余輩ハ別段彼ノ寧ロ巧妙ナリト云フコトヲ得ル  
 モ敢テ正確ナリト云フ可ラサル反對説ニ向テ長キ答辨ヲ爲スニ及ハサルコトト思考スル  
 ナリ、唯余輩ハ左ノ一事ヲ附陳シテ以テ說者ノ疑惑ヲ解カントス、凡ソ裁判上ノ要求ハ其  
 實訴訟ノ繼續スル時間中ニ在テハ始終時効ヲ中斷スルノ効力アルモノナリト雖トモ一旦  
 當サニ其裁判ヲ言渡シタル以上ハ其時効直ニ更始ス可キヲ以テ權利者ハ時宜ニ因テ必ス  
 新タニ之ヲ中斷スル方法ヲ施サ、ル可ラス、其新タニ施ス所ノ方法トハ即チ或ハ將來ノ  
 利息ニ付テ爲セル新ノ請求ナルコトモアラン、或ハ其裁判言渡ノ執行ヲ求メル要決書ナ  
 ルカ若クハ差押ヘナルコトモアラン、或ハ其義務者ヲシテ義務ヲ確認セシムル事實ナル  
 コトモアラン

〔第二百八十七號〕 從是以下更ニ論趣ヲ轉シテ尙ホ一層重要ナル結果ヲ説カントス○余輩  
 ハ既ニ「ラウエー」氏カ以テ法律上裁判上ヨリ生スル利息ニ關スル場合ニ於テハ決シテ五  
 年ノ時効ヲ通用ス可ラサル理由アリテ存セリト述ヘラレタル要領ニ付テハ以上ノ辨明ヲ  
 以テ充分ニ之ヲ論破シタリ、余輩ヲ以テ之ヲ觀ルニ前文ニモ詳陳セシ如ク却テ法律上必  
 ス此時効ヲ允許セサル可ラサル確的ノ理由アリテ存スルコト毫モ疑アラサルモノ、如シ



○以下如何ナル要點ヨリ之ヲ論究スルモ法律上果シテ現ニ此時効ヲ允許シタリト云ヘル結局ニ至ルコトヲ詳明セントス

「ラウエー」氏カ爰ニ殊更ニ法文ヲ引用シテ辨陳セラレタル所ハ毫モ其自家ノ説ヲ扶助スルニ足ル可キ勢力アラサル者ノ如シ

氏ハ曰ク本條ニ明示スル所ハ特リ一年毎若クハ尙ホ短キ定期毎ニ辨濟ス可キ諸件ノミニ過キサルナリ、然ルニ裁判上ヨリ生スル利息ニ付テハ嘗テ定期アル可キ由縁アラサルヲ以テ之レカ本條ノ本義中ヨリ除去セラレタルコト論ヲ俟タスシテ判明ナリ云々ト○此理論ニ向テハ二個ノ答辨ヲ爲スコトヲ得可シ

先ツ一而ヨリ之ヲ觀ルニ此説ヲ以テ眞ニ確然動カス可ラサルモノト云ハントスルニハ他通常一般ノ場合ニ於ケルカ如ク假令ヒ其説ノ基因セル法文ノ正確ナル明證アラサルモ少ナクトモ必ス然ルナラント云ヘル推測ナカラサル可ラス、必ス人ヲシテ立法者ハ固ク自ラ云ハント欲シタル所ヲ正シク記載シタルモノニ相違アラサルナリト信セシムル證據アルコトヲ要スルナリ、即チ法律ノ行文果シテ立法者ノ主意ニ背戾スル所アラサルコトヲ要スルナリ

然ルニ余輩ヲ以テ之ヲ觀ルニ却テ之ニ反スルノ證憑アルヲ如何セン、若シ法律ニ記載スル所ヲ以テ果シテ其文面ノ通りニ之ヲ解セントセハ必ス遙カニ其眞意ノ存スル所ヲ失スルニ至ラントス○文面上ニハ明カニ一年毎ニ辨濟ス可キ諸件ハ五年ノ時間ニ因テ其時効ヲ得ル者トス云々ト記載ス、例ヘハ爰ニ余汝ニ對シテ一萬「フラン」ノ金高ヲ貸渡シ以テ十年ノ間毎年一千「フラン」宛返辨セシム可キ約束ヲ定メ置キタル場合アリトセンニ、右一萬「フラン」ノ金高ハ即チ一年毎ニ辨濟ス可キモノナリ、因テ若シ強テ本條ノ明文ノミニ固着シテ之ヲ解釋セントスル時ハ必ス五年ノ時間ヲ以テ其時効ヲ得可キモノナリト云ハサル可ラス○然ルニ何人ト雖トモ必ス然ラサルコトヲ詳認スルナラン、蓋シ本例ノ場合ハ即チ決シテ變動スルコトモ無ク又次第ニ増殖スルコトモアラスシテ始終一萬「フラン」ノ額ニ止マル元金ニ關スル場合ナレハ敢テ本條末項ノ法則ヲ通用ス可キモノニ非ス、而シテ汝十回ニ之ヲ分チテ辨償セントスルモ五回ニ分償セントスルモ又一回ニ全償セントスルモ毫モ本例ノ模様ヲ變更スルコトアラサルナリ、又汝今ヨリ十年ノ中、二十年ノ中、若クハ三十年ノ中ニ次第ニ辨濟ヲ爲サントスルノ約束アリトスルモ亦少シモ其模様ニ影響ヲ及ホス所アラサルナリ、抑モ本條末項ノ法則カ目的トスル所ハ漸次發生スル入額ニ關スル負債ナリ、時間ヲ經ルニ從テ次第ニ其高ヲ増殖スル性質アル負債ナリ、義務者ヲシテ終ニ其重任ニ堪フルコト能ハサルカ如キ有様ニ至ラシメサル様計畫ス可キ負債ナ



リ○由是觀之法律ノ文面其正鵠ヲ失スルモノタルコト明白ナリ、左レハ別段他ノ理由アルニ非スシテ特ニ此正確ナラサル文面ノミニ基因セル論理ノ無味ナルコト推シテ知ル可キナリ

又他ノ一面ヨリ之ヲ考フルニ裁判上ヨリ起レル利息ニ關スル場合ハ眞ニ本條末項ノ文面中ニ包含スルコト詳カニシテ敢テ「ラウエー」氏カ皮相ヨリ之ヲ思量セラレタルカ如ク然ラサルナリ○此種ノ利息ハ成ル程時々過期スルモノナレハ如何ナル時分タルヲ問ハス始終其辨濟ヲ要求スルコトヲ得可シト云フ義ハ如何ニモ相違アラサルナリ、因テ權利者カ必ス時間ノ經過スルコトヲ待ツ可キ定期ノ點ヨリ之ヲ觀ル時ハ無論右等ノ利息ハ一年毎ニ辨濟ス可キモノニモアラス六ヶ月毎ニ辨濟ス可キモノニモ非ス又尙ホ短キ期限毎ニ辨濟ス可キモノニモ非サルナリ、然レトモ更ニ顧ミテ他ノ要點ヨリ之ヲ考フル時ハ必ス然ラサル可ラサルモノアリテ存スルナリ、即チ早晚六ヶ月ノ後、三年ノ後、又ハ四年半ノ後、義務者カ愈々之ヲ返濟セントスル場合ニ至テハ右等ノ利息ハ必ス一年毎、六ヶ月毎、一月毎、若クハ尙ホ短キ定期毎ニ算計ス可キモノナリ、否辨濟ス可キモノナリト云フコト是ナリ

譬ヘハ甲某三年間遲延シタル後乙某カ甲者ニ對シテ裁判言渡ヲ得タル金高一萬二千「フラン」ヲ辨濟センカ爲メニ來リタル場合ナリトセンニ、此場合ニ於テ乙者ハ甲者ニ向テ汝チ余ニ對シテ其利息トシテ毎年六百「フラン」ノ金高ヲ辨濟ス可キ責務アリト述フルモ決シテ不當ノ言ニハアラサル可シ、因テ三年間ノ利息ヲ合算スレハ即チ千八百「フラン」ト爲ル、若シ又其間三年ト二ヶ月ヲ餘セル場合ニ於テハ乙者ハ更ニ甲者ニ向ヒ汝ハ余ニ對シテ尙ホ一月毎ニ五十「フラン」ノ金高ヲ辨濟セサル可ラスト述フルコトヲ得ルナラン、因テ二ヶ月分ノ高ヲ合スレハ更ニ百「フラン」ヲ加フルニ至ルナリ○左レハ此場合ニ於テ始終其額ニ變動アラサル元金ノ外更ニ一年毎一月毎ニ辨濟セラレタル他ノ金高アリト爲スハ敢テ過言ニ非サルナリ、夫レ然リ此第二ノ要點ヨリ之ヲ觀察シテ果シテ然ル以上ハ償息ノ利息タルト否トヲ問ハス又裁判上ノ利息タルト否トヲ論セス利息ハ總テ一年毎、六ヶ月毎、三ヶ月毎、又ハ其他ノ期限毎ニ辨濟ス可キモノナリト云フハ至極至當ノ言タルコト明白ナリトス

夫レ然リ然ルニ此第二ノ要點カ即チ立法者ノ專ラ主要トセシモノナリ○蓋シ權利者カ六ヶ月若クハ一年ノ期限毎ニ非サレハ利息ヲ要求スルコト能ハサル代ハリニ時々刻々之カ要求ヲ爲スコトヲ得ルト云フノ事實ハ本條ノ眼目トスル要領ニ於テ別段ノ影響ヲ及ホス所アラサルカ故ナリ○此事實ハ其關係ノ及フ所實ニ輕微ナルヲ以テ毫モ顧ミルニ足ラサ



ルモノト云ハサル可ラス如何トナレハ此始終絶ヘス要求スルコトヲ得可キ情况即チ何時  
 タリトモ出訴スルノ方便アル事實ハ敢テ遙カニ權利者ノ爲メニ口ヲ假スノ利益トナルモ  
 ノニ非サルノミナラス却テ權利者カ自由ニ爲スコトヲ得タル訟求ヲ怠リテ爲サ、リシト  
 云ヘル責ヲ重カラシムルニ至ルノミナルカ故ナリ○是レ立法者カ其權利者ノ訟求ヲ爲ス  
 コトヲ得ルト否トノ時期ヲ以テ其法則ヲ確定スル爲メノ主點ト爲サ、リシ所以ナリ  
 特ニ爰ニ主要ト爲ス可キモノハ即チ其一年毎、一ヶ月毎、若クハ其他ノ期限毎ニ幾許ノ高  
 ニ上ル可キ金額ニ關スルモノナルヤ否ヤヲ詳認スル所ニ在リ、將々毎年、毎月、又ハ其他  
 ノ定期毎ニ次第ニ増殖スル金高ニ關スルモノナルヤ否ヤ立法者ハ專ラ此要點ニ着目シテ  
 本條ノ法則ヲ規定シタルニ過キサリナリ、故ニ法典上一年毎ニ辨濟ス可キ金高云々ト明  
 載セル文詞ハ即チ一年毎ニ付テ算計セラル可ク一年毎ニ付テ辨濟セラル可キ金高云々ト  
 云ヘル義ニ之ヲ解ス可ク、決シテ權利者カ毎年訟求スルコトヲ得可キ金高云々ト云ヘル  
 義ニ之ヲ解ス可ラス○之ヲ要スルニ爰ニ論究スル法則ハ專ラ負債ヲ辨濟スル事實ト其辨  
 濟ノ高トニ關スルモノニシテ敢テ之ヲ要求スル事實ニ關スルモノニ非ス、且ツ法典上ニ  
 ハ明カニ一年毎ニ辨濟セラル可キ云々ト云フテ嘗テ一年毎ニ要求セラル可キ云々トハ記  
 セサルヲ以テ反對ノ説者ニシテ如何ナル辨ヲ爲スト雖トモ法律ノ文中正サニ他ノ利息

ニ於ケルカ如ク等シク裁判上ノ利息ヲモ包含スルコト實ニ明瞭ナリトス  
 今又法律ノ文面ヨリ移テ其精神ノ存スル所ヲ探究シテ之ヲ觀ル時ハ幾ト其疑義ヲ掃除ス  
 ルニ足ラン○試ニ見ヨ法律ノ目的トスル所ハ果シテ何クニ在ル乎○法律ノ目的トスル所  
 ハ千五百十年ノ命令書ニモ明載シタルカ如ク全ク權利者カ長ク無爲ニ事ヲ抛却スルコト  
 有ルニ因リ次第ニ其負債ノ高ヲ際限ナク増殖スルニ至リ竟ニ義務者ヲシテ爲メニ困苦ニ  
 陥ラシメ破産ニ至ラシムル憂害ヲ豫防センコトニ掛念セシコトニ外ナラサルナリ  
 夫レ然リ然ルニ此憂慮ス可キ結果ハ既ニ其裁判言渡アリタル以後タルト未タ其裁判言渡  
 アラサル以前タルトヲ問ハス其法則アリテ存セサル以上ハ必ス免カル、コト能ハサルモ  
 ノニ非サル乎、是レ償息ノ利息ニ付テモ其他通常ノ利息ニ於ケルカ如ク等シク免カル、  
 コト能ハサル所ノ結果ニハ非サル乎○例ヘハ余カ擔當セル一萬「フラン」ノ負債ハ通常ノ  
 利息ヲ生セシムル所ノ契約ヲ爲シタル時ヨリ以來二十九年ノ時間ヲ經タル後積テ全額ニ  
 萬四千五百「フラン」ノ金高ニ達セントス、其償息ノ利息ヲ生セシムル所ノ裁判言渡ヲ得  
 タル時ヨリ以來二十九年ノ時間ヲ經ルモ亦等シク同一ノ金高即チ二萬四千五百「フラン」  
 ノ額ニ達スルニ至ラン、左レハ義務者カ破産ノ難ニ陥ルノ憂害アルハ右ニ個ノ場合ニ於  
 テ少シモ異ナル所アラサルナリ



法典ノ編纂者カ常ニ探テ以テ規模ト爲セル彼ノ善良ナル「ミシヨウ」法典ト稱スル千六百二十九年ノ命令書ニハ至極注意ヲ爲シテ以テ假令ヒ利息ノ請求ヲ爲シタル上ニテ之ヲ認許シタル裁判言渡ヲ得タル時又ハ裁判言渡若クハ判決ヲ以テ利息ヲ受ケ取ル可キ權利アリト確定シタル時ト雖トモ差別ナク必ス五年ノ時間ヲ以テ其時効ト爲ス可シ云々ト云ヘル明文ヲ揭示シタルニハ非サル乎

是故ニ編纂委員ノ一人ナル「マルウヒール」氏ノ辨解ニモ亦左ノ言アルヲ見ル、曰ク、元來本條ハ舊法ニ小變更ヲ爲シタルノミニ止マラス舊來ヨリ慣行セシ法例ヲ大ニ變動セシカ爲メニ設置スル所ノ法則ナリ、是レ蓋シ本條ノ賜ニシテ必ス義務者ノ衰亡ヲ防遏スルニ足ラン云々ト

且ツ又本條ニ明記セル人事ノ大原則ヲ適用スル一段ニ至テハ前文ニモ詳陳シタルカ如ク數百年來説者ノ論議シテ止マサルモノナルヲ以テ我カ立法者ハ法典頒布ノ後ニ至テモ亦或ハ奇説ヲ試ムル者アラシコトヲ深ク恐レタルカ故ニ乃チ其法典理由書ノ公文ニ於テ正確ナル註釋ヲ加ヘ以テ將來異論ノ根ヲ絶タシコトヲ計リタリ、其註釋文ニ曰ク尙モ義務者ノ衰亡ヲ恐ル、要項アルヲ以テ時効ノ常期ヲ短縮スルノ理由ト爲シタル以上ハ如何ナル場合ト雖トモ此理由ノ存スル限リハ決シテ之ヲ除去ス可ラス云々ト

以上詳カニ辨明セシ處ニ據テ之ヲ觀ル時ハ凡ソ如何ナル場合タルヲ問ハス時間ヲ經過スルニ從テ次第ニ負債ノ高ヲ増加スル場合ニ於テハ必ス本條ノ法則ヲ適施セサル可ラサル者トス、前文ニモ重テ述ヘタルカ如ク本文ノ文面ニ總テ一年毎若クハ尙ホ短キ期限毎ニ辨濟セラル可キ諸件云々ト記載セル所ハ決シテ毎年又ハ更ニ短キ定期ニ要求セラル可キ諸件云々ト云ヘル義ニ之ヲ解説ス可ラス、必ス一年毎又ハ更ニ短キ期限毎ニ算計セラ、ル可キ諸件云々ト云ヘル義ニ之ヲ解釋セサル可ラス、即年月日ノ數ヲ重ヌルニ從ヒ次第ニ其負債ノ高ヲ増殖スルニ至ル場合ニ當行ス可キ法則ナリトス

之ヲ要言スルニ第二千二百七十七條ノ前項ニ於テ貸付ケタル金高ノ利息ニ付キ特定シタル法則ヲ其末項ニ於テ擴張セシ所ハ單ニ嫁資ノ利息并ニ賣渡代金ノ利息ノミニ止マラス必ス總テノ利息ニ關スル者トス、而シテ既ニ其裁判言渡ヲ得タル後タルト否トヲ問ハサルナリ、前ヘニモ述ヘタルカ如ク大審院ノ判決ニテハ幸ニ既ニ此説ヲ執テ動かサルモノ、如シ

〔第二百八十八號〕（第五段） 五年ノ時効ハ其要求ス可キ方法ノ如何ヲ問ハス總テノ利息ニ之ヲ適用ス可キ者トス、當ニ利息ト稱スルモノ、ミニ限リテ然ルニ非ス、凡ソ一年毎若クハ更ニ短キ定期毎ニ辨濟セラル可キ諸件ニハ悉ク此規則ヲ通用ス可キコト本條ノ明文



ニ因テ判然タリ

故ニ前節ニモ既ニ明陳シタルカ如ク例ヘハ一年毎ニ約定シタル授業師ノ給料又ハ謝金(即チ第一千二百七十一條ノ時効ヲ受ク可ラサル者ナリ)、手傳人、支配人、書記、常人ノ雇付ケル僧徒、并ニ其他職丁ニモ非ス働勞者ニモ非サル者(即チ第一千二百七十一條ノ法則ヲ適用ス可ラサル者ナリ)、乳婆(是レモ本款頭初ノ諸箇條中ニ合包セサル者ナリ)等ニハ皆此第一千二百七十七條ノ法則ヲ通用ス可キ者トス

又會社ノ株主若クハ其他工事ノ株主カ毎年受ケ取ル可キ分ケ前金モ亦右同様ノ場合ニ在ル者ト看做サ、ル可ラス、如何トナレハ此類ノ金高モ亦等シク一年毎ニ辨濟セラル可キ入額ト稱ス可キモノナルカ故ナリ(千八百四十九年七月十七日巴理府控訴院判決)

〔第一千二百七十九號〕 此第一千二百七十七條ノ法則ハ右ニ詳論セシカ如ク其實義ヲ質シテ之ヲ觀ル時ハ實ニ會得シ易ク且ツ其包括スル所甚タ擴大ナリトス、去レトモ外面ヨリ之ヲ觀ルトキハ如何ニモ本條ノ法則中ニ合入ス可キモノ、如キ摸樣ヲ具備セル場合ニシテ其實決シテ此法則ヲ適施ス可ラサルモノナキニシモ非サルナリ

例ヘハ汝ハ余ニ對シテ元金一萬「フラン」ノ高ヲ辨償ス可キ義務ヲ擔當セルニ汝ノ名代人又ハ事務管理者汝ニ代ハリテ右金高四年分ノ利息二千「フラン」ヲ余ニ返濟シタル場合ア

リトセンニ、此場合ニ於テハ汝カ右ノ事務管理者ニ對シテ更ニ擔當セル負債ハ等シク五年ノ時間ヲ以テ其時効ト爲ス可キモノト信據ス可ラサルナリ、如何トナレハ右二千「フラン」ノ金高ハ最初汝ト余トノ間ニ於テハ如何ニモ元金ノ利息ト看做ス可キモノナリシモ之ニ反シテ汝ト其事務管理者トノ間ニ於テハ真正ノ元金タルニ相違アラサルカ故ナリ、即チ汝ト彼トノ關係ニ於テハ右ノ金高ヲ以テ全ク通常ノ負債ト看做サ、ル可ラサルヲ以テ必ス三十年ノ時効ヲ通用セサルヲ得サルナリ

又尙ホ利息タルコトハ即チ利息タルニ相違アラサルモノニシテ等シク五年ノ時効ヲ當行ス可ラサルモノアリ、即チ未タ權利者ヨリ要求スルコト能ハサル利息是ナリ

例ヘハ後見ノ任ヲ止メタル時ヨリ算計ノ返還ヲ爲ス時ニ至ル迄ニ生スル利息トシテ其後見人ヨリ幼年者ニ拂フ可キ金高、名代ノ契約ニ關スル債主權ノ算計ヲ爲ス前ニ生スル利息トシテ名代人ヨリ其己レニ名代ヲ依頼シタル本主ニ拂フ可キ金高、遺物相續ノ財產ヲ分派セサル時間即チ未タ其分派ノ効ニ因リ各相續人ノ位置ヲ確定セサル以前ノ時間共同相續人カ利息ヲ生ス可キ金額ノ入額トシテ負擔スル高、既ニ自ラ記入ヲ爲シタル權利者カ其書入質權ヲ滌除セントスル訴訟手續ヲ行フ時間中各權利者ノ班位ヲ定ムルニ至ル迄自ラ其利息ヲ要求スルコトヲ停止セラル、場合、此等ノ場合ハ即チ權利者ヨリ尙ホ要求



スルコト能ハサル利息ト稱ス可キモノナリ

右ニ揭示シタル諸多ノ場合及ヒ其他之ニ類似セル諸般ノ場合ニ於テハ其利息ハ未ダ現ニ要求セラル可キモノニ非ス故ニ敢テ本條ノ法則中ニ包含スル所ニ非サルナリ、蓋シ本條ノ目的トスル所ハ特ニ既ニ要求スルコトヲ得ヘキ利息ノミニシテ即チ權利者カ其義務者ヲシテ早く己レニ辨濟ヲ爲サシメサリシ責ヲ自ラ蒙ルル場合ナリトス

〔第二百九十號〕 本節ノ末尾ニ於テ尙ホ一ノ注意ヲ爲ス可キモノアリ、元來第二百二十七條ノ法則ハ前數條ノ如ク單ニ其辨濟ヲ爲シタリト云ヘル推測アル事實ノミニ基テ起リクルモノニ非スシテ專ラ義務者ノ滅亡ヲ豫防センカ爲メニ其權利者ノ懈怠ヲ罰スルト云ヘル公安ニ關スル大主意ニ據リテ定マリタルモノナレハ假令ヒ義務者カ未ダ嘗テ其辨濟ヲ爲シタルコト非サル旨ヲ明カニ自認セシ場合ト雖トモ毫モ之ニ拘ハラスシテ等シク時効ヲ得可キモノト爲ス可キナリ、是レ蓋シ時効ノ特別ナル性質ナリ、假シ此性質ヲ除却シテ之ヲ觀ル時ハ所謂ル時効ナルモノハ有名無實ニシテ最早ヤ得權ノ原由ニモ非サル可ク又免責ノ原由ニモ非サル可シ、若シ夫レ例外ニ因テ之ニ反對セルノ法則ニ循據セル時効(第二百七十五條)ノ如キハ其實不完全ノ時効タルニ過キサルノミ○「アンリー」氏モ嘗テ述ヘラレタルコト有リ曰ク假令ヒ義務者カ未ダ其辨濟ヲ爲シタルコト非サル旨ヲ自

白セシ時ト雖トモ之レカ爲メニ決シテ公法ニ據テ設定セラレタル免責ノ事ヲ無効タラシムルコト能ハサルナリ云々ト

第四款 諸般ノ時効ニ普通ノ規則

第二百七十四條 前ニ記シタル數個ノ場合ニ於テハ假令ヒ供給、交付、役務及ヒ勞動ノ繼續スル時ト雖トモ等シク時効アル者トス

時効ハ確定シタル算計書、私印ノ義務、鑑定證書、公正ノ義務、認定證書又ハ消滅ニ歸セサル裁判所ヘノ呼出狀アル時ニ非サレハ經過スルコトヲ止メサルモノトス

第二百七十五條 然レトモ右等ノ時効ヲ以テ對抗セラレタル者ハ正サニ其物ヲ辨濟シタルヤ否ヤヲ知ル爲メノ問題ニ付キ其時効ヲ以テ對抗スル者ニ誓ヲ求ムルコトヲ得可シ

寡婦及ヒ相續人ヲシテ未ダ其物ヲ補償セサルコトヲ知ラサル旨ヲ申述セシムル爲メ之ニ誓ヲ求ムルコトヲ得可ク又相續人ノ幼者タル時ハ其後見人ニ此誓ヲ求ムルコトヲ得可シ

第二百七十八條 本款ノ各條ニ記列セル時効ハ幼者及ヒ受禁者ニ對シテ經過スル者トス、但シ幼者及ヒ受禁者カ其後見人ニ對シテ更ニ償還ノ訟求ヲ爲スハ此限ニ非ス



要目

第一段 第二千二百七十四條及ヒ第二千二百七十五條ノ法則ハ特ニ第二千二百七十一條乃至第二千二百七十四條ニ規定セル時効ノミニ適用ス可キモノトス○第二千二百七十八條ハ本款ニ記載セル總テノ時効ニ適用ス可キ規則トス○本條ノ説明

第二段 第二千二百七十一條乃至第二千二百七十三條ニ詳定セル時効ハ役務若クハ供給ノ繼續スルニ拘ハラシテ經過スル者トス、去レトモ此等ノ時効ハ如何ナル時分ニ始マルモノナル乎○或ル説ノ主義前後接續セサルコト并ニ其誤謬アルコト○此等ノ時効ハ皆其辨濟ヲ行フ爲メ明約又ハ黙約シタル時分ニ始マル者トス○實例

第三段 右ノ原則ニ因リ時効ハ醫師ニ對シテ其各診察ヲ爲セル日毎ヨリ決シテ經過スルモノニ非ス、但シ長病ニ關スル場合ト雖トモ亦同様ナリトス○諸學士輩ノ説并ニ判決例ノ誤謬○「トロプロン」氏ノ認見○「トロプロン」氏カ法典ニ向テ試ミタル非難ハ却テ氏ノ主説ニ對シテ述フルコトヲ得可キモノナリ

第四段 若シ約束ヲ爲シタル後負債ヲ確認セル旨ヲ記シタル證書アル時ハ三十年ノ時効ヲ以テ第二千二百七十一條乃至第二千二百七十三條ニ記列セル諸般ノ短時効ニ代フル者トス○若シ又其約束ヲ確認スル爲メニ最初ヨリ證書ヲ設ケ置キタル時ハ場合ニ因リ三十年ノ時間ヲ以テ時効トスルコト有リ又五年ノ時間ヲ以テ時効トスルコト有リ○「トロプロン」氏ノ主意ヲ駁撃ス

第五段 右等ノ時効ハ其義務者ニ誓ヲ求メテ之ヲ攻撃スルコトヲ得可シト雖トモ其他ノ證據ヲ以テスルコトハ一切之ヲ許サ、ル者トス○條目問糺ヲ以テスルハ如何ン

〔第二百九十一號〕（第一段） 本款ニ記載セル三ヶ條ノ中最初二ヶ條（第二千二百七十四條及ヒ第二千二百七十五條）ノ法則ハ特ニ第二千二百七十一條第二千二百七十二條及ヒ第二千二百七十三條ニ規定セル六ヶ月ノ時効、一年ノ時効、二年ノ時効、并ニ五年ノ時効ノミニ關スルモノニシテ其他第二千二百七十六條及ヒ第二千二百七十七條ニ記載セル時効ニハ毫モ關係セサルモノナリ、之ニ反シテ第三ノ箇條即チ第二千二百七十八條ノ規則ハ本款ニ含蓄スル總テノ時効ニ適用ス可キモノトス、故ニ本條ノ實義中ニハ單ニ第二千二百七十六條及ヒ第二千二百七十七條ノ時効ヲ包含スルノミニ止マラス後文ニ説明スル第二千二百七十九條及ヒ第二千二百八十條ニ詳定セル即時ノ時効并ニ三年ノ時効等モ皆併セテ本條ノ本義中ニ包藏スルモノトス



余輩ハ先ツ第二千二百七十八條ノ法則ヲ説明シ而ル後チ最初ノ二ヶ條ニ移テ講述セントス○此第二千二百七十八條ノ明文ニ因リ本款ニ登載セル諸般ノ短時効カ幼者及ヒ受禁者ニ對シテ經過スルコト恰カモ能力アル總テノ者ニ對シテ經過スルト同様ナリトス、此法則ハ既ニ豫メ余輩ノ推知スル所ナリ、如何トナレハ前段ニ辨陳シタル第二千二百五十二條ニ於テハ既ニ幼者及ヒ受禁者ニ對シテ時効ノ停止スル原則ヲ確立シ以テ併セテ第二千二百七十八條ニ於テ其例外ノ規則アル旨ヲ豫知セシメタルカ故ナリ又第二千二百七十二條ニハ暗ニ意ヲ寓シテ其他或ル定マリタル場合ニ於テハ法律ノ允許セル諸多ノ例外アル旨ヲ記セリ

例ヘハ民法第千六百六十三條及ヒ第千六百七十六條ニ記載セル場合并ニ訴訟法第二百九十八條及ヒ第四百四十四條ニ記定セル場合ノ如キモノヲ云フ

第二千二百七十八條ノ法則ハ敢テ難累アルモノニ非サレハ別段辨明ヲ加フルコトヲ要セサルナリ、以下第二千二百七十四條及ヒ第二千二百七十五條ニ移テ説明ヲ爲サントス、此等二ヶ條ノ法則ニ付テハ多少異論ヲ爲ス者アルヲ以テ尙ホ擴張シテ陳述ヲ爲ス可キ要點アリテ敢テ第二千二百七十八條ノ比ニ非サルナリ

〔第二百九十二號〕（第二段） 第二千二百七十四條ノ明文ニ曰ク前三ヶ條ニ記定セル六ヶ

月ノ時効、一年ノ時効、二年ノ時効、并ニ五年ノ時効ハ假令ヒ其負債ヲ生セシメタル供給、交付、役務又ハ勞働ノ繼續スル時ト雖トモ尙ホ停止セサルモノトス云々ト、又曰ク此等ノ時効ハ算計ノ決定書、私印ノ義務認定書、公正ノ義務認定書又ハ消滅ニ歸セサル裁判所ヘノ呼出狀アル時ニ非サレハ經過スルコトヲ止メサルモノトス云々ト

是故ニ其時効アルモノト爲ス可キハ特リ其債主權ノ期限ヨリ以來六ヶ月、一年、二年、若クハ五年ノ時間ヲ過キタル後權利者カ其義務者ニ供給ヲ爲スコトヲ止メタルカ又ハ之レカ爲メニ勞働ヲ爲スコトヲ止メタル場合ノミニ限ラス權利者カ既往ノ如ク供給又ハ勞働ヲ爲スコトヲ繼續スル場合ト雖トモ等シク其時効アルモノト爲ス可キナリ○蓋シ爰ニ講究セントスル所ノ時効ハ第二千二百七十七條ノ記定スル時効并ニ彼ノ大時効ト稱スルモノトハ大ニ其據ル所ヲ異ニシテ本篇ノ理由書ニモ明示セルカ如ク専ラ主トシテ辨濟ノ推測ニ基因セルモノナルカ故ナリ○夫レ然リ然ルニ供給、勞働、若クハ其他ノ役務ヲ引續テ爲セル場合ニ於テハ遙カニ右ノ推測ヲ消除スル次第ニ至ラサルノミナラス却テ此推測ヲシテ愈々鞏固ナラシムルモノアリトス、如何トナレハ權利者カ引續テ此ノ如ク其義務者トノ關節ヲ解クコトヲ爲サス尙ホ自カラ許ルシテ漸々新ノ債主權ヲ生セシムル場合ニ於テハ義務者ヲ充分信任シテ自ラ満足スル者ト看做サ、ル可ラサルカ故ナリ○左レハ爰ニ



ハ其債主權ノ存スル丈ノ數ニ應シテ別々ノ時効アルモノト爲ス可キナリ、即チ實行シタル供給、役務又ハ勞働ノ數ニ准シテ各別ノ時効アルモノト爲サ、ル可ラス  
 然レトモ如何ナル時分ニ於テ其供給、勞働又ハ其他ノ役務ヲ實行シタルモノト看做ス可キ乎○其債主權ヲ以テ果シテ過期シタルモノト看做スニハ如何ナル時分ヨリス可キ乎○此供給、勞働及ヒ役務ヲ繼續スルト雖トモ別段之レカ爲メニ障碍ヲ受ケサル所ノ時効ハ實ニ如何ナル時分ヨリ始マリタルモノト云フ可キ乎○同一ノ供給又ハ同一ノ勞働中ニ在テ存スル諸多ノ部分ト看做ス可キモノト各別ノ供給又ハ各別ノ勞働ト看做ス可キモノトハ如何ナル要點ニ付テ之ヲ差別スルコトヲ得ル乎

此問題ハ申ス迄モ無ク隨分大切ナルモノナリ、蓋シ特ニ之レカ決定如何ニ依テ其時効ノ初點ヲ確知ス可キカ故ナリ、是レ素ヨリ緊要ノ問題ナレハ諸學士輩モ亦敢テ之ヲ等閑ニ附シ去リタル者アラスト雖トモ其決定スル所ハ未タ充分盡セルモノト云ヒ難シ  
 抑モ本問ヲ解セントスルニハ必ス先ツ此等小時効ノ基因セル要點ノ一トシテ見ル可キ一般ノ原則ヲ喚起シテ論據ヲ定メサル可ラス、然ルニ諸學士輩ハ是レ之ヲ爲サスシテ偶然特別ナル場合二三ニ着意シ直チニ其説ヲ下シ以テ竟ニ互ニ相矛盾セル決定ヲ爲スニ至レリ、是故ニ試ニ右諸學士輩ノ中何レカ一人ノ説ニ同意シテ本問ニ決定ヲ爲サントスル時

ハ終ニ其論理ノ所在ヲ認定スルニ難カラントス

「ヂュラントン」氏ハ曰ク一年毎ニ雇ハル、婢僕等ニ付テハ其一年ノ終末ヲ以テ時効ノ初點ト爲ス可シ、但シ假令ヒ三ヶ月毎ニ之ニ辨濟ヲ爲セル常慣アル場合ト雖トモ亦同様ナリトス、如何トナレハ必ス其一年毎ニ雇賃ヲ定メタル要點ヲ以テ特一ノ理由ト爲ス可キカ故ナリ云々ト、(第四百十四號)氏又等シク一年毎ニ代料ヲ定メタル學塾ノ主長ニ付テ説ヲ爲シテ曰ク常ニ辨濟ヲ爲セル例期ヲ以テ其時効ノ始マル初點ト爲ス可シ、而シテ此等ノ代料ハ、大概三ヶ月毎ニ辨濟スルヲ以テ常慣トス云々ト(第四百十八號)

嗚呼又氏ハ何ヲ以テ此ノ如キ妄説ヲ爲セル乎、法律上ニ於テハ右二個ノ權利者ヲ以テ少シモ差別スルコト無ク全ク同様ニ之ヲ記列シタルニハ非サル乎、右二個ノ權利者ニ付テハ唯一個同一ノ法則アリテ存スルノミナルニハ非サル乎、兩方共ニ一年毎ニ其債主權ヲ定メタルニハ非サル乎、兩方共ニ全ク同様ナル位地ニ在テ存スルニハ非サル乎、夫レ此ノ如ク明白ナル事實アルニ拘ハラス一方ニ向テハ假令ヒ三ヶ月毎ニ辨濟ヲ爲セル常慣アル時ト雖トモ必ス其一年ノ最末ニ至ラサレハ時効ノ始マラサル者ト爲シ他ノ一方ニ向テハ大概三ヶ月毎ニ辨濟ヲ爲スヲ以テ常慣トスルカ故ニ其時効ハ常ニ三ヶ月ノ終末ヨリ始マル者ト爲ス、惑ヘルモ亦甚タシト云フノ外アラサルナリ



說者又曰ク若シ旅舎ノ主人ニ關スルモノナレハ辨濟ノ爲メニ暗ニ約定シタル時分ヲ以テ其時効ノ經過スル初點ト爲ス可ク各供給ヲ爲シタル時分ヲ以テ時効ノ初點ト爲ス可ラス、之ニ反シテ若シ其商人ニ關スル場合ニ於テハ必ス各交付ヲ爲シタル時分ヲ以テ其時効ノ經過スル初點ト爲ス可キナリ云々ト、語氣如何ニモ據ル所アリテ此ノ如キ決定ニ至ルモノ、如ク見ユレトモ其實空妄ノ偏見タルニ過キサレナリ。○讀者能ク其委細ヲ詳知セント欲セハ宜シク「ヂュラントン」氏(第四百十六號)「トロプロン」氏(第九百六十四號)「トウーリエー」氏(第四百九十一葉乃至第四百九十七葉)并ニ「ムールロン」氏(第八十九葉)等ノ論陳セシ所ヲ參觀ス可シ

右諸氏ノ著書ヲ熟讀スルニ一ハ以テ前後撞着スル決定ヲ爲セルモノアリ、一ハ以テ如何ナル決定ヲモ與ヘサルモノアリ(「トロプロン」氏ノ如キハ自著第九百四十二號乃至第九百八十九號ニ於テ長々シク説明セシ所アリシモ其時効ノ初點ニ付テハ少シモ持論ノ如何ヲ述ヘサリシ)○然レトモ本論ハ適理ノ原則ヲ以テ容易ニ之レヲ決定スルコトヲ得ルモノアリテ存スルニハ非サル乎、「ヂュラントン」氏并ニ「ムールロン」氏カ單ニ或ル場合ノミニ適用セント爲シタル彼ノ辨濟ノ爲メニ暗ニ約定シタル時分云々ト云ヘル思想ハ如何ナル場合ヲ問ハス廣ク及ホシ行フ可キモノナルコト實ニ明白ナルニハ非サル乎

請フ能ク事ノ次第ヲ熟考セヨ、爰ニ法律ハ其記列セル諸種ノ權利者ニ付テ詳カニ時効ノ期限ヲ確定スルコトヲ爲セシモ嘗テ其之ヲ起算スル初點ヲ指示スルコト無ク全ク之ヲ普通法ノ規則ニ任放シタルナリ○夫レ然リ然ルニ債主權ノ時効ハ皆其債主權ノ要求ヲ爲スコトヲ得可キ時分ヨリ始マルモノト云フヲ以テ普通ノ法則ト爲ス

是故ニ既ニ「ヂュラントン」氏モ述ヘラレタルカ如ク學塾ニ在ル學生ノ賄料ハ假令ヒ一年毎ニ付テ定メタルモノナルニモセヨ常ニ三ヶ月ノ終末毎ニ之ヲ辨濟スルヲ以テ慣例トスルカ故ニ其親族ヨリ三ヶ月目毎ニ之カ辨濟ヲ執行スルト云ヘル明約アラサルモ少クトモ其默約アルモノト爲サ、ル可ラス、左レハ必ス辨濟ヲ爲ス可キ時分ヲ以テ其時効ノ經過スル初點ト認定セサルヲ得サルナリ○「ヂュラントン」氏ハ此原則ヲ以テ特ニ右ノ場合ノミニ適施ス可キモノト爲シ以テ其他ノ場合ニ於テハ必スシモ然ラサルモノアリト明言セラレタリト雖トモ余輩ノ見ル所ヲ以テスレハ其他ノ場合ニ於テモ等シク右同様ノ原則ニ循據シテ決定ヲ爲サ、ル可ラサルモノ、如ク信スルナリ

例ヘハ爰ニ余ト余カ下僕ト明約若クハ暗約ヲ爲シ以テ下僕ハ一年ノ給金四百「フラン」ニテ使役ヲ爲サンコトヲ定メ余ハ毎月其給金ノ辨濟ヲ爲サンコトヲ定メ置キタル場合アリトセンニ、余輩ノ考フル所ヲ以テスレハ必ス各月ノ最末ヨリ其時効ノ經過スルモノト爲



サ、ル可ラサルコト明白ナリトス、如何トナレハ其毎月ノ給金三十四「フラン」ハ即チ各々別々ニ要求ス可キ債主權ト看做ス可キモノナルカ故ナリ  
 又例ヘハ余或ル蒸餅ヲ賣ル者、獸肉ヲ鬻ク者、若クハ香味類ヲ賣ル者ト明約或ハ黙約ヲ爲シ以テ月毎ニ其代金ノ辨濟ヲ爲サンコトヲ定メ置キタル場合アリトセンニ、諸學士輩ハ概シテ各交付ヲ爲セル時ヨリ右等ノ販賣者ニ對スル時効ノ經過スルモノト爲セルト雖トモ是レ亦失當ノ謬論タルニ過キサリナリ○本例ノ約束ハ即チ十月中ニ受取リタル總テノ供給ニ付テハ余十一月一日ニ至テ辨濟ヲ爲ス可シト云フニ在リ、故ニ余カ供給者ノ債主權ハ實ニ期限アル債主權ナルニ相違アラサルナリ、供給者ハ十月一日ニ肉類若クハ蒸餅ノ四「キログラム」ヲ納メ二日ニモ亦四「キログラム」ヲ納メ二日ニモ亦等シク四「キログラム」ヲ納ムルコトナラン、其次日モ亦月末ニ至ル迄次第ニ同様ノ高ヲ納ムルコトナラン、然ルニ說者ハ其十月一日ニ納メタル肉類若クハ蒸餅ノ代金ヲ以テ其時ヨリ直ニ時効ヲ得可キモノト爲サントセリ、誤見モ亦甚シト云ハサラント欲スレトモ能ハサルナリ、其既ニ期限ニ關スル債主權ナル以上ハ決シテ時効ノ經過ス可ラサルコト第一千二百五十七條ノ明文ニ記定スル所ヲ以テ判明ナルニハ非サル乎  
 將テ說者或ハ第一千二百七十四條ノ法則ニ因リ起ル所ノ結果ハ各供給ニ付キ若クハ各交

付ニ付キ各別ノ時効ヲ生スルト云フニ在リト述フル者アラント雖トモ是レ亦無益ノ空論タルニ過キサリナリ、如何トナレハ假リニ說者ノ思考セルカ如ク此結果ト爰ニ喚起セル原則トノ間ニ於テ相撞着セル事實アリトスルモ必ス二者ノ中其原則ヲ以テ主要ト爲サ、ル可ラサルカ故ナリ、加之說者ノ以テ相撞着スル所ト爲セルモノハ其實決シテ相撞着スルニハ非サルナリ、如何トナレハ茲ニ所謂供給、交付、労働、若クハ役務ト稱スルモノハ必ス完全ノ供給、完全ノ労働ト云ヘル義ニ之ヲ解ス可ク決シテ其供給ノ分數、労働ノ分數ヲ指示シタル法文ナリト看做ス可ラサルカ故ナリ○夫レ然リ然ルニ余其契約ニ因リ少シモ辨濟ヲ爲サ、ル前ニ自ラ受取ル可キ總テノ品物ヲ未タ受取リ盡サ、ル以上ハ唯供給ノ分數ヲ得タルニ過キスシテ未タ其完全ノ供給ヲ得タルニハ非サルナリ、左レハ余ハ唯期限ニ因ル義務者タルニ過キサリナリ以テ未タ余カ爲メニ時効ノ經過ス可キ理由アラサル者トス  
 以上辨明スル所ニ據テ之ヲ觀ル時ハ凡ソ時効ハ其辨濟ノ爲メニ約定シタル時分ヨリスルニ非サレハ經過シ始ムルモノニアラスト云ヘル法則ハ單ニ或ル二二三ノ場合ノミニ適用ス可キモノト爲ス可ラス必ス差別ナク總テノ場合ニ通行ス可キモノト爲ス可キナリ○而シテ此時分ヲ詳認スル一段ニ至テハ全ク事實上ノ問題ニ關スル所ナレハ必ス時々其場合ノ



情況ニ從テ之ヲ確定セサル可ラス、故ニ若シ之ヲ明定セル約束ノアラサル場合ニ於テハ慣習ニ循テ之ヲ決定スルモ敢テ差支ヘアラサル可シ（或ハ其地方一般ニ行ハレル慣習ナルコトモアラン、或ハ權利者ト義務者トノ間ニ存スル特別ノ慣習ナルコトモアラン）之ヲ要スルニ時効ヲ起算スル初點ハ要求ヲ爲スコトヲ得可キ時分ニ因テ之ヲ定ム可ク、要求ヲ爲スコトヲ得可キ時分ハ約束ニ因テ之ヲ定ム可シ、又約束ノ主意ハ其結約者双方ノ互ニ申告セシ所ニ因テ之ヲ定ム可ク、若シ双方互ニ申告セシ所ニ據ル可キモノアラサル時ハ慣習ニ因テ其約束ノ本義ヲ認定セサル可ラス、是レ即チ如何ナル場合タルヲ問ハス常ニ着意ス可キ要領ナリトス

例ヘハ余ハ或ル商家ニ至リ三ヶ月ノ期限ヲ定メテ或ル一商品ヲ賒買シタリトセンニ、此場合ニ於テハ右ノ賣買ヲ爲シタル當日ヨリ算計シテ三ヶ月ノ時間ヲ經過シ終ハリタル以上ニ非サレハ敢テ其時効ノ始マルニ至ラサルモノト看做サ、ル可ラス、之ニ反シテ若シ右ノ商人即金拂ニテ余ニ其品物ヲ賣渡シタル場合ニ於テハ必ス其賣買ノ日ヨリ直ニ時効ノ始マルモノト爲ス可キナリ、若シ又余一月毎、三ヶ月毎、六ヶ月毎、若クハ一年毎ニ代金ノ辨濟ヲ爲ス可キ約束ヲ爲シタル供給者ヨリ次第々々ニ交付ヲ爲ス可キ物品ニ關スル時ハ其時効ハ必ス右各月ノ終末、三ヶ月毎ノ終末、六ヶ月毎ノ終末、又ハ一年毎ノ終末ニ至

ラサレハ始マラサル者ト爲サ、ル可ラサルナリ

若シ又余カ訟訴ヲ擔當セル代訴人ニ關スル場合ナリトセン歟、此場合ニ於テハ其要求ノ時分即チ其時効ヲ算計スル初點ハ法典自ラ之ヲ定ムルナリ、代訴人未ダ引續テ其事件ヲ擔當セル時間中ハ各費用ヲ生シタル時ヲ以テ其時効ノ初點ト爲ス可ク（而シテ是レハ五年ノ時効ナリ）、之ニ反對セル場合ナリトセン歟、代訴人カ余ノ爲メニ事件ノ擔當ヲ止メタル時分ヲ以テ其時効ノ初點ト爲ス可シ（而シテ是レハ二年ノ時効ナリ）

且ツ夫レ此場合ニ於テハ法律自ラ其時効ノ初點ヲ明定スルモノナレハ余輩彼是附陳スルハ或ハ過言ト云フノ評ヲ蒙ルルニ至ラン歟、如何トナレハ此場合ニ付テハ不分明ナル事アルニモ非ス又別段異說ヲ唱フル者アルニモ非サルカ故ナリ

余輩ハ重複ヲ顧ミス正サニ爰ニ斷言セントス凡ソ時効ノ初點ハ其辨濟ノ爲メニ約定シタル時分即チ其要求ヲ爲スコトヲ得可キ時分ニ在リト云フヲ以テ原則ト爲ス可シト

〔第二百九十三號〕（第三段） 醫師カ病人ヲ數回診察シタルカ爲メニ生スル債主權ニ付テハ其病症ノ終了シタル時ヨリ以來時効ノ始マルモノト爲ス可キ乎、將タ回診ノ度毎ニ各別ニ時効ノ始マルモノト爲ス可キ乎、此問題ハ今日尙ホ諸學士ノ論争シ已マサル所ナリ、余輩ハ等シク右ノ原則ニ循テ之ヲ決定スルノ至當ナルコトヲ信スルナリ○醫師ハ概シテ



其病症ノ終了シタル後ニ非サレハ其代料ノ辨濟ヲ受ケサルヲ以テ常例ト爲ス、且ツ病人ノ方ニテモ亦別段ノ約束ヲ爲サ、ル以上ハ必ス常例ニ循ハント心算シタルナル可シ、左レハ醫師ニ治療ヲ依頼スルコトヲ止ムルニ至ル迄ハ全ク之ヲ期限ニ因レル義務者ト看做ス可キカ故ニ其時効モ亦右ノ期限ニ迄ラサレハ經過シ始メサルモノト爲ス可キナリ

是レ敢テ余輩ノ一家言ニ非ス已ニ古今ノ學士輩就中「トロプロン」氏等ノ允許セシ所ノ決定ナリ、千八百三十九年「リモージュ」府ノ控訴院ニ於テ之ニ反對セル判決ヲ爲シタルハ蓋シ本説ノ基因セル原理ヲ誤認シタルカ爲メナラン、且ツ「トロプロン」氏ノ失言モ亦多少右ノ判決ニ影響ヲ及ホセシコトナラン

博士「トロプロン」氏ハ本問ニ付キ余輩ト同様ノ主意ヲ採許シナカラ兩様ノ要點ヲ失シタリ、一ハ即チ法律上ノ理由ニ據テ此主意ヲ解示セサリシコト（如何トナレハ氏ハ要求スルコトヲ得可キ事實ニ因テ時効ヲ定ム可キ緊要ナル大原則ニ據テ其説ヲ爲シタルニ非サルカ故ナリ）、他ノ一ハ即チ千八百十年十月二十九日大審院判決ニ於テ右ノ主意ニ相反對セル決定ヲ爲セシト明陳セラレタルコト是ナリ○「リモージュ」府控訴院ニテハ此ノ如ク一面ニハ別段正確ナル基據ヲ指示セサル主義ヲ得、他ノ一面ニハ之ニ反對セル大審院ノ判決ヲ見、二者其一ヲ選ハントシテ竟ニ大審院判決ノ爲セシカ如クニ決定ヲ下スニ至

リシモ敢テ無理ナラサル次第ナリ

然レトモ「トロプロン」氏カ舉示セラレタル大審院ノ判決ハ其實決シテ氏ノ思考セルカ如キ決定ヲ爲シタルニハ非サルナリ、氏ハ全ク此點ニ付テ誤認セシモノアリシヤ明白ナリ

○元來千八百十年ノ大審院判決ハ毫モ一年ノ時効回診ノ度毎ニ付テ經過スルモノナルヤ否ヤト云ヘル問題ニ付テ決定ヲ下サント爲シタルニ非ス、各回診ノ度毎ヲ以テ一個獨別ナル勞働ト看做ス可キ乎、將々單ニ就成ス可キ勞働ノ一部分ナリト看做ス可キ乎ト云ヘル問題ニ付テ決定ヲ爲サント欲シタルニハ非サルナリ、否大審院判決ノ主要トセシ所ハ即チ義務者ノ死去ハ其時効ヲ中斷セル効果ヲ生スルモノニ非スト云ヘル決定ヲ爲サントシタルニ在リ

本例ハ即チ千八百七年七月二十七日ニ醫師ノ治療ヲ終了シタルニ、後チ十五ヶ月ノ時間ヲ經タル上千八百八年十月二十二日ニ至テ始メテ其辨濟ノ要求ヲ爲シタル場合ナリシ、故ニ既ニ其時効ヲ獲得シタル場合ナリ○然ルニ事實ノ裁判官ハ誤テ右算計ノ中最末ノ部分ニ付テハ未タ時効アリト認定スルコトヲ肯ンセサリシ、其理由トセシ所ヲ按スルニ、病者ハ其回診ノ止ミタル時ヨリ未タ一年ノ時間ヲ經過セサル以前ニ遂ニ死去シタルヲ以テ其時効ハ全ク中斷セラレタル者ト看做サ、ル可ラスト云フニ在リタルナリ○千八百十



年ノ大審院判決ヲ以テ破毀セシモノハ即チ此決定ナリ、大審院ニテハ勿論義務者ノ死去ハ以テ時効ヲ中斷スル理由ノ一ト看做ス可ラサルモノト爲シ、時効ハ引續テ其相續人ノ爲メニ經過セシモノト斷定シ以テ爰ニ一年ノ時効ヲ允許スルコトヲ拒否シタルハ即チ法律ニ背戾セシモノナリト決定シタリ○左レハ「トロプロン」氏ノ誤認セシ事實ハ敢テ掩フ可ラサルナリ、惜哉氏若シ千八百三十六年ニ於テ幸ニシテ大審院ノ判決ヲ誤解スルコト無ク且ツ余輩ノ確認セル原則ニ循ヒ法律上ノ理由ニ基因シテ明カニ自説ノ根據ヲ定メタランニハ恐クハ三年ノ後「リモトジ」府控訴院ニ於テ右ニ舉示シタルカ如キ不當ノ判決ヲ下スニハ至ラサリシナラン

若シ夫レ六年、八年、十年、若クハ其以上ノ時間ニモ涉リテ時々發起スル長病ノ爲メニ醫師治療ヲ施コセシ場合ニ於テハ之ニ辨濟ヲ行フ爲メニ其病症ノ終了スル期ヲ俟ツコト能ハサル次第アリ、左レハ如何ナル時分ヲ以テ其要求ヲ爲スコトヲ得可キ初點即チ時効ノ初點ト爲ス可キ乎

「デルワシクウール」氏「ヂュラントン」氏(第四百十三號)及ヒ「トウーリエー」氏等ハ明カニ回診ノ度毎ニ各別ニ其時効ノ經過スルモノト云フノ説ヲ主張セラレタリ、「トロプロン」氏モ亦暗ニ此説ニ同意セラレタル者ノ如シ

去レトモ余輩ノ見ル所ヲ以テスレハ右ノ原則アルアリテ決シテ諸氏ノ信スルカ如キ決定ニ至ルコトヲ允許セサルナリ、本問ノ場合ニ於テモ他ノ場合ニ等シク其辨濟ヲ要求スルコトヲ得可キ事實ハ必ス雙方ノ約束ニ因テ之ヲ定メサル可ラス、而シテ其約束ノ主意ハ結約者ノ記載シタル文面ニ循テ之ヲ明認スルコトヲ得可ク又慣習ニ因テ之ヲ認定スルコトヲ得可シ○故ニ結約者若シ豫メ注意ヲ爲シテ診察料ハ必ス一年毎ニ之ヲ辨償ス可シト明定シ置キタル場合ナルカ、又ハ然ラサルモ斯クノ如キハ即チ其地方ノ慣習ナルヲ以テ結約者ハ自然此慣習ニ循ハンカ爲メ暗ニ其旨ヲ約定シ置キタル場合ニ於テハ一年内ニ施シタル總テノ診察ニ付キ必ス其年ノ終末ニ至テ時効ノ經過シ始マル者ト爲サ、ル可ラス○若シ其慣習トスル期限一年ニアラスシテ六ヶ月ノ時間ニ止マル時ハ時効ハ必ス其六ヶ月ノ時間ヲ經タル後ニ至テ始マルコトナラン、其他又慣習ニテ定メル期限ノ如何ニ從テ右同様ノ結果ヲ生スルコトナラン、如何トナレハ前ヘニモ重テ述ヘタルカ如ク若シ約束上ニテ特定スル所アラサル時ハ必ス慣習ノ如何ニ因テ其結約者双方ノ眞意ヲ詳認ス可キカ故ナリ以上論述セシ理由ヲ以テ之ヲ觀ル時ハ諸學士輩カ診察ノ度毎ニ各別ニ時効ノ經過スルモノト云フヲ以テ本問ヲ決定ス可キ法規ト爲サント欲スル所ノモノハ決シテ實際ニ適用ス可キモノニハ非サルナリ、實際ニ徵シテ之ヲ考フルニ如何ナル醫師タリト雖トモ各診察



ノ度毎ニ即座ニ「フラン」「フラン」若クハ五「フラン」位ノ金銭ヲ受取ラントスルカ如キ下賤ナル手段ヲ慣行スル者ハ恐クハ之レアラサル可シ  
 右諸氏ハ屈指ノ博士ナリ、而ルニ眞ニ簡明ナル此三個ノ思想ヲ貫覺スルコト能ハサリシハ余輩ノ怪訝ニ堪ヘサル所ナリ、第一時効ハ常ニ其要求ヲ爲スコトヲ得可キ時分ヨリ始マルコト（第二千二百五十七條）、第二要求ヲ爲スコトヲ得可キ時分ハ其約束ニ因リ之ヲ認定ス可キコト、第三約束ノ主意ハ相方相互ノ申告ニ因テ之ヲ認知ス可キコト、若シ相互ノ申告アラサル時ハ必ス當然其慣習ニ循ハント欲シタルモノナル可キカ故ニ即チ此慣習ニ循テ其約束ノ主旨ヲ認知スルコト

〔第二百九十四號〕 又余輩ノ原則トスル所ハ「トロプロン」氏カ誤テ法典ニ向テ述ヘテレタル非難ニ對シテ答辨ヲ與フルモノナリ、氏ノ持説コソ却テ此非難ヲ受ケテ當然ナラン  
 「トロプロン」氏（第九百五十二號及ヒ第九百五十三號）ハ今日上等職人等ノ有様ニテハ各年ノ終末毎ニ其手帳ヲ差出シテ算計ヲ要ムルヲ以テ常例ト爲スコトヲ認定シ以テ辛クモ法典ニ向テ非難ヲ試ミタリ、其説ニ曰ク法典ハ何ヲ以テ上等職人タルト雜業職人タルトヲ問ハス總テノ職人ニ對シテ各交付ノ時又ハ各勞働ノ日ヨリ各別ニ（「トロプロン」氏ノ持説）經過スル六ヶ月ノ時効ヲ規定シタルモノナル乎ト○且ツ曰ク法典ハ毫モ事物ノ進度ヲ

顧ミルコト無ク今日算計ノ辨濟ヲ急カサルモ別段差支ヘアラサル上等ノ職人ヲ待ツニ二  
 三百年以前貧困ナル職人ノ常躰ヲ以テセントシタルハ實ニ奇怪ノ事實ニハ非サル乎ト  
 氏ノ説ニシテ果シテ誤謬ナカリセハ成ル程奇怪ニ堪ヘサルモノアラン、法典ノ規定セシ  
 所果シテ氏カ説ノ如ク然ランニハ今日一年ノ末尾ニ至ラサレハ代金ノ辨濟ヲ受ケサル默  
 約ヲ爲シテ勞働ヲ盡セル泥工、匠工、鎖工、及ヒ其他鍛冶職等ニシテ自ラ其辨濟ヲ受ケン  
 カ爲メニ己レノ手帳ヲ差出セル時ニ至レハ其手帳ニ書留メアル金高ノ中半額ハ既ニ時効  
 ニ係リテ遂ニ之ヲ受取ル次第ニ至ラサルコトアラン、是レ實ニ氣ノ毒ナル有様ナリ  
 幸ニシテ法典ノ規則ハ敢テ「トロプロン」氏ノ誤認セシカ如ク然ルモノニ非ス、「トロプロ  
 ン」氏ハ何ヲ以テ此ノ如キ實際ニ行ハレ難キ結果ハ嘗テ法典ノ規定スル所ニアラスシテ却  
 テ自己ノ認説中ニ新タニ之ヲ發明セシモノタルコトヲ悟ラサリシ乎○請フ能ク之ヲ視ヨ  
 法典ハ成ル程爰ニ六ヶ月ノ時間ヲ以テ其時効ト爲ス可キ旨ヲ明載シタリト雖トモ之ニ次  
 クニ敢テ其時効ハ各交付ノ時又ハ各勞働ノ日ヨリ始マルモノト爲ス可シト云フコトヲ爲  
 サ、リシ、此第二段ノ思想ハ全ク「トロプロン」氏ノ一家言ニ因テ發シタルモノニシテ決  
 シテ法律ノ思想ニハ非サルナリ、如何トナレハ余輩カ前ニモ數々明言セシカ如ク法律ハ  
 唯時効ノ期限ヲ指定スルノミニシテ其期限ノ初點ニ付テハ嘗テ明定セシモノアラサルカ



故ナリ（法律上ニハ唯第二千二百七十三條使吏ニ關スル時効ニ付キ其期限ノ初點ヲ指示セシノミ）○夫レ然リ然ルカ故ニ「ヂェラントン」氏モ述ヘラレタルカ如ク且ツ余輩モ重テテ前文ニ辨明シタルカ如ク右期限ノ初點ハ必ス其辨濟ノ爲メニ「結約者ノ約定シタル時分ニ在ルモノト斷定セサル可ラサルヲ以テ右六ヶ月ノ時間モ亦必ス其一年ノ終末即チ職人ヨリ己レノ手帳ヲ差出シ得ル時分ヨリ始マルモノト看做サ、ル可ラサルナリ、左レハ權利者ニシテ自カラ要求ヲ爲ス可キ時日ニ達スル前既ニ己レカ債主權ノ半額ヲ時効ニ因テ失スルカ如キ奇怪、氣ノ毒ナル有様ハ其實決シテ現出ス可キ次第ノモノニ非サルナリ○重複ヲ顧ミス尙ホ左ノ簡單ナル三個ノ要領ヲ再陳シテ一ニ「トロプロン」氏其人ノ如キ世間ノ妄説家ニ告ケントス

- 第一、爰ニ云フ所ノ諸職人ハ概シテ各年ノ終尾ニ至テ其代金ノ辨濟ヲ受クルヲ以テ常慣トス（是レハ「トロプロン」氏モ自ラ述ヘタル所ナリ）
- 第二、如何ナル約束タルヲ論セス結約者ノ明定セサル事項ハ悉ク慣習ノ爲ス所ヲ以テ之ヲ補足ス可シ（第千百六十條）、是故ニ本問ノ場合ニ於テ時々其年内ニ生スル諸多ノ債主權ハ皆各々期限ニ關スル債主權ナルニ過キサリナリ
- 第三、凡ソ期限ニ關スル債主權ナルモノニ付テハ其期限ノ到着シタル以上ニ非サレハ時

効ノ始マラサルモノトス（第二千二百五十七條）

〔第二百九十五號〕（第四段） 第二千二百七十一條、第二千二百七十二條、及ヒ第二千二百七十三條ノ法則ヲ以テ詳定セル諸般ノ短時効ハ特ニ其辨濟ヲ行フタリト云ヘル推測ニ基因セルモノナリ、而シテ此辨濟ノ推測ハ專ラ其債主權カ嘗テ證書ニ因テ證明セラレサル事實ニ據テ起ルモノナリ、故ニ一面ヨリ之ヲ觀レハ權利者ニ在テハ自ラ證書ヲ有セサルカ故ニ時日久シク辨濟ヲ受ケスシテ捨置ク次第ニ至ラスト云フノ理由アリ、他ノ一面ヨリ之ヲ考フレハ義務者ハ己レニ對スル證書サヘモアラサリシモノナレハ別段受取書ヲ要セスシテ自ラ辨濟ヲ執行シタルナラント云ヘル情況アリ、左レハ其權利者ノ手ニ證書アリテ存スル場合ニ於テハ右等ノ時効決シテ經過スルコトアラサル者トス○蓋シ此ノ如キ場合ニ於テハ權利者ノ一方ヨリ之ヲ觀レハ別段必スシモ短キ時間中ニ要求ヲ爲スコトヲ急ニセサル可ラスト云フノ理由アリテ存スルニ非ス又義務者ノ一方ヨリ之ヲ察スレハ既ニ自ラ權利者ニ正確ナル證書ヲ渡シ置キタルコトヲ詳知スルカ故ニ必ス此證書ヲ己レニ取戻スカ又ハ之カ爲メニ受取證書ヲ己レニ渡サシメタル以上ニ非サレハ其辨濟ヲ爲スコトヲ肯ンセサル可シ○是レ即第二千二百七十四條第二項ニ於テ此等ノ時効ハ算計ノ決定書又ハ私印ノ義務認定證書若クハ公正ノ義務認定證書アル場合ニ於テハ最早



ヤ經過セサルモノト看做ス可シト云ヘル明文アル所以ナリ（義務者カ己レノ負債ヲ確認スル爲メニ手帳ノ末尾又ハ權利者ノ帳簿ニ其旨ヲ記入スル所ヲ稱シテ算計ノ決定書ト云フ、別段ノ私印證書ヲ以テ其義務ヲ確認スル時ハ之ヲ私印ノ義務認定證書ト稱シ「セヂェル」、又別段ノ公正證書ヲ以テ其義務ヲ確認スル時ハ之ヲ公正ノ義務認定證書ト稱ス「チブリガシヨノン」○右ノ如ク證書ヲ以テ既ニ其義務ヲ認定シタルヨリ以後即チ權利者カ自ラ一ノ證書ヲ得タル以上ハ必ス右諸箇條ニ記列セル例外ノ規則ヲ離レテ更ニ普通法ニ復セサル可ラス、左レハ最早ヤ三十年ノ時間ヲ以テ其時効ト爲ス可キナリ

且ツ又其負債ヲ確認スル爲メニ記スル私印ノ義務認定證書ニモセヨ、公正ノ義務認定證書ニモセヨ、法律上ニ於テ別段ノ法式ニ依ル可キ旨ヲ要シタルコト無ク又之ヲ要ス可キ理由モアラサルカ故ニ他ノ私印證書ヲ以テスルコトヲ得ルカ如ク尋常ノ書狀ヲ以テスルコトモ得可ク、又總テノ公正證書ヲ以テスルコトヲ得ルカ如ク實物提供ノ報知書ヲ以テスルコトヲモ得可シ

法律ハ爰ニ義務ヲ確認スル諸般ノ方法ニ等シク消滅ニ歸セサル裁判所ヘノ呼出狀ヲ記列セリ○蓋シ此呼出狀ハ前段第二千二百四十四條ノ説明中ニモ之ヲ講究シタルカ如ク訴訟ノ繼續スル時間中始終其時効ノ經過ヲ中斷スル爲メノ効力アルモノナリ、且ツ權利者ノ

爲メニ裁判言渡ヲ得タル場合ニ於テハ前文ニモ述ヘタルカ如ク此裁判言渡書ハ即チ一ノ證書トナルヲ以テ最早ヤ三十年ノ時効ノ外他ノ時効ヲ得ントスルコト能ハサル可キナリ」右ノ如ク法典上ニ於テハ明カニ負債ヲ確認スルコト并ニ裁判所ヘ爲セル要求書ノコトヲ記列シタリト雖トモ時効ヲ中斷スル他ノ二個ノ原由即チ督促及ヒ差押ノコトヲ併記セザリシ（第二千二百四十四條）○是レ蓋シ之ヲ記載スルコトヲ要セス又之ヲ記載ス可テサル理由アリテ存スルカ故ナリ、所謂ル督促ナルモノ又差押ナルモノハ必ス證書ヲ以テスルニ非サレハ實行セラレ難キモノナリ、而ルニ爰ニ論辨スル所ハ即チ證書ノアラサル債主權ノ場合ナリ○「トロゾロン」氏ハ（第九百五十三號）殊更ニ語ヲ加ヘテ督促モ亦等シク此等短時効ヲ中斷スル方法ノ一ナルコト敢テ疑フ可ラサルナリ云々ト述ヘ且ツ而カモ法典上之ヲ義務ノ確認并ニ裁判所ヘノ呼出狀ト共ニ併列セザリシ理由ヲ遠ク探究セラレタリ○然レトモ余輩ハ正サニ氏ニ答ヘテ云ハントス本問ハ如何ナル證書ヲモ現存セサルカ爲メニ短縮セシメラレタル時効ニ關スル場合ナリ、左レハ氏モ自ラ他ノ事（第五百七十二號）ニ付テ明言セラレタルカ如ク必ス執行力ヲ有スル證書ニ因ラサレハ實行スルコト能ハサル督促ノ如何ヲ爰ニ述ヘントスルハ抑モ余輩ノ解シ能ハサル所ナリト

〔第二百九十六號〕 前ヘニモ重テ述ヘタルカ如ク元來右等例外ノ時効ハ其證書ノ現存セザ



ル理由ニ基キテ起リタルモノナルカ故ニ其證書ノアリテ存スル場合ニ於テハ決シテ實行セラレ難キモノナリ、左レハ「トロアポン」氏(第九百八十九號)モ此度ハ理ノ存スル所ヲ失セスシテ能ク述ヘラレタルカ如ク若シ最初ヨリ書面ヲ記シテ其契約ヲ認定シタル場合ニ於テハ敢テ右等ノ時効ヲ適施スルコト能ハサル可キナリ○此ノ如キ場合ニ於テハ或ハ三十年ノ時効ニ循フ可ク又或ハ五年ノ時効ニ循フ可シ、但シ五年ノ時効ヲ當行ス可キハ單ニ一年ノ定期毎又ハ尙ホ短キ定期毎ニ辨濟ス可キ金高ニ關スル場合ノミニ限ルナリ、蓋シ此ノ如キ定期毎ニ辨濟セラル可キ金高ニ付テハ五年ノ時効ヲ以テ今日普通ノ法則ト爲スカ故ナリ○我カ佛國古法ノ原則ニテハ大ニ之ニ反スルモノアリシ、故ニ古學士輩カ總テノ場合ニ於テ必ス三十年ノ時効ヲ適用ス可シト云フノ說ヲ教示シタルハ如何ニモ至當ノ事ナリシ、蓋シ當時ニ在テハ元金ヲ辨濟シテ設定シタル年金所得權ノ外未タ五年ノ時効ヲ適用ス可キモノアラザリシカ故ナリ

今日ハ即チ然ラス今日ノ法則ハ右ノ法則ニ異ナリ、「デルワンクウール」氏カ法典ノ行ハレル時代ニ移リタル後尙ホ右等古學士輩ノ持說ヲ採許ス可キモノナリト信シタルハ蓋シ以前ノ原則カ既ニ全ク變更シタルコトヲ忘失シタルカ爲メナリ、以前無法ニモ誹毀セラレタル「ミシヨウ」法典ノ規則ハ今日已ニ第二千二百七十七條ノ明載スル所タルコトヲ

忘却シタルカ爲メナリ、既ニ一年毎又ハ更ニ短キ期限毎ニ辨濟ス可キ總テノ諸件ニ付テハ五年ノ時効ヲ以テ普通ノ法則ト爲スコトヲ顧ミザリシカ爲メナリ

例ヘハ余或ル旅店ノ主人ト約束ヲ爲シテ一ヶ月幾許ノ賃銀、三ヶ月幾許ノ賃銀、又ハ一ヶ年幾許ノ賃銀ニテ彼レヨリ余ニ寓居并ニ食料ヲ供セノコトヲ定メ其契約書ヲ記載シ置キタリトセンニ、此ノ如キ場合ニ於テハ既ニ其證書アリテ現ニ存スルヲ以テ決シテ第二千二百七十一條ニ記載セル六ヶ月ノ時効ヲ通用スルコトヲ得ス必ス普通ノ法則ニ循ハサル可ラス、但シ此普通法ハ敢テ三十年ノ時効ニ非スシテ第二千二百七十七條ニ明定セル五年ノ時効ナリトス

〔第二百九十七號〕且ツ夫レ余輩ハ唯爰ニ結約者カ最初ヨリ證書ヲ記シテ其約束ヲ爲シタル場合ノミニ付テ說ヲ爲シタルニ過キス敢テ其約束ヲ執行シタル後ニ記シタル證書ノ存スル場合ニ付テ右ノ如ク述ヘタルニハ非サルナリ、蓋シ既ニ其約束ヲ執行シタル後ニ至テ記シタル證書ノ存スル場合ニ於テハ即チ其證書ハ必ス第二千二百七十四條ノ法則ニ循ヒ或ハ決定シタル算計書トナリ、或ハ私印ノ義務認定證書トナリ、或ハ公正ノ義務認定證書トナリテ其現存スル負債ヲ確認スルモノタルヘキカ故ナリ○果シテ然ル以上ハ其負債ノ確認ニ因テ前キニ定期ニ辨濟セラル可キ性質アリシ金高ヲ變シテ一個不動ノ元金ト爲



サシムルニ至ルカ故ニ最早ヤ第二千二百七十七條ノ法則ヲ適施スルコト能ハサル可キナ  
 リ、但シ假令ヒ右ノ元金ニ付キ更ニ定期ニ辨濟ス可キモノナリト云ヘル特約ヲ爲セシ場  
 合ト雖トモ亦右同様ナリトス

例ヘハ余己レノ家僕ニ對シテ數年間ノ賃銀ヲ拂フ可キ義務ヲ擔當スル央一ノ證書ヲ記シ  
 テ正サニ之ヲ彼レニ辨濟ス可キ旨ヲ約束シタリトセンニ、此場合ニ於テハ最早ヤ右ノ證  
 書アルニ因リ余カ擔當セル負債ハ必ス三十年ノ時間ヲ經過セサレハ其時効ヲ得ルニ至ラ  
 サル者ト爲ス可キナリ、但シ假令ヒ更ニ八年ノ時間中八回ニ右ノ金高ヲ辨濟セント約定  
 シタル時ト雖トモ亦右同様ナリトス○蓋シ此ノ如キ場合ニ在テハ其數年間ノ賃銀ハ皆ナ  
 合シテ元金トナリシモノナルカ故ナリ、其辨濟ス可キ金高ハ最早ヤ確定不動ノモノトナ  
 ルカ故ナリ、八回ニ之ヲ辨濟スルモ、二十回ニ之ヲ辨濟スルモ、將タ一回ニ之ヲ償却スル  
 モ、少シモ變動アルコト無カル可シ必ス同様ノ金高ニテ存スルナラン、左レハ此場合ハ  
 決シテ第二千二百七十七條ノ明載スル場合ニハ非サルナリ、如何トナレハ第二千二百七  
 十七條ノ規則ハ特ニ次第ニ更新シテ且ツ定期毎ニ増殖スル負債ノミニ關スルモノニシテ  
 毫モ元金ニ關スル法則ナルニハアラサルカ故ナリ

〔第二千九十八號〕 余輩カ既往ノ事柄ヲ記スル證書即チ以前ヨリ存スル負債ヲ確認スル旨

ヲ辨スル證書ト其約束ヲ定ムル爲メニ當初ヨリ記シタル證書トノ間ニ存スル右ノ區別ニ  
 付テ殊更ニ辨明ヲ爲シタル所以ハ「トロプロン」氏カ此區別ニ付キ解説セラレタル所太々  
 不分明ナルカ故ナリ、氏ノ思考セシ所モ亦恐クハ余輩ノ主説ニ同様ナリシナラント雖ト  
 モ其陳説ノ惡シキカ爲メニ或ハ之ヲ誤認スル者ナキヲ保シ難シ

請フ試ニ右二個ノ場合即チ第一最初ヨリ其約束ヲ結定スル爲メニ記シタル證書アル場合、  
 第二約束ノ執行ニ因リ生スル負債ヲ確認スル爲メニ後ニ記シタル證書アル場合ニ付キ博  
 士「トロプロン」氏カ其第九百八十九號第九百九十號並ニ第九百九十一號ニ於テ漠然説ヲ  
 爲セシ所ノ要領ヲ示サントス○氏ハ最初第九百八十九號ニ於テ双方證書ヲ記シテ約束ヲ  
 爲セシ時(第一ノ場合)ハ第二千二百七十一條ノ時効タリトモ又第二千二百七十二條ノ時  
 効タリトモ何レタリトモ決シテ之ヲ適施ス可ラサルナリ云々ト云ヒ、次ニ(第九百九十  
 號)此等ノ時効ニ代ヘルニ何レノ時効ヲ以テス可キ乎(此語氣全ク第一ノ場合ニ關スル者  
 ノ如シ)云々ト云ヒ、又之ニ次テ若シ決定シタル算計書、私印ノ義務認定證書、公正ノ義務  
 認定證書又ハ裁判所ヘノ呼出狀アル場合ニ於テハ云々ト云ヘリ(氏ハ何モ前後ノ差別ナ  
 ク第一ノ場合ヨリ直ニ移リテ第二ノ場合ニ轉シタリ)○氏ハ右ノ如ク述ヘ來リテ其問按  
 ニ答ヘテ曰ク以前ハ三十年ノ時効ヲ允許シテ實行シタリ今日ハ必ス區別ヲ爲シテ之ヲ解



セサル可ラス云々ト「トロプロン」氏カ此ノ如ク第二ノ場合ニ付テ右ノ如キ答辨ヲ爲シタルハ眞ニ誤認ニ陥リタルモノナリ、如何トナレハ此第二ノ場合ニ付テハ少シモ區別ヲ爲ス可キモノアラサルカ故ナリ必ス三十年ノ時間ヲ以テ其時効ト爲ス可キカ故ナリ「トロプロン」氏ハ右ノ如ク單ニ第二ノ場合ニ付テ其區別ヲ爲ス可キ旨ヲ述ヘ且ツ語ヲ加ヘテ曰ク（第九百九十一號）先ツ負債ノ確認、義務ノ認定證書若クハ決定シタル計算書アル場合ヨリ始メ而ル後裁判所ヘノ呼出狀ニ付テ之ヲ解カン○此語勢ヲ以テスルモ亦一ニ第二ノ場合即チ第二千二百七十四條ニ記載セルカ如ク契約ノ以後ニ記シタル證書アル場合ニ關スルモノト見受ケラル、ナリ、然ルニ氏ハ此第二ノ場合ニ關スル説明トシテ漸次ニ四項ヲ揭示シタルモ其實四項共ニ私印ノ義務認定證書ニモ關セス、義務ノ確認ニモ關セス、又決定シタル算計書ニモ關セシテ單ニ最初ヨリ約束ヲ定ムル爲メニ記スル證書ノミニ關スル第一ノ場合ノ説明ナルニ過キサリナリ（是レ彼ノ先ツ義務ノ確認負債ノ認定證書若クハ決定シタル算計書アル場合ヨリ始メ云々ト云ヘル發語ニハ少シモ緣故アラサルカ如シ）而ル後最末ノ第五項ニ至テ始メテ第二ノ場合ニ關スル事柄ヲ述ヘラレタリ、但シ尙ホ二個ノ謬點アリ、一ハ即チ若シ云々ノ時ニ於テモ亦等シク同様ノ決定ヲ爲ス可キナリ云々ト云フヲ以テ第二ノ場合ヲ第一ノ場合ト連續同視セント欲スルノ意ヲ示シ

タルコトニシテ他ノ一ハ即チ必ス辨明セサル可ラサル一ノ要點ヲ等閑ニ附シテ顧ミサリシコト是ナリ、如何トナレハ確認書ヲ以テ定期ノ辨濟ヲ約定シタル場合ナルヤ否ヤニ付キ少シモ明言セシ所アラサルカ故ナリ

由是觀之「トロプロン」氏カ眞意ノ在ル所如何ナリ詳言スルハ危ト難シトス、是レ余輩カ其行文ノ當不當ニ拘ハラス殊更ニ注意ヲ爲シテ氏ノ思考スル所或ハ至當ナラント雖トモ云々ト云ヘル數語ヲ加ヘタル所以ナリ○兎モ角モ爰ニ實義ノ存スル所ハ第二千二百七十四條ニ明載セル場合即チ約束ヲ爲シタル後ニ記シタル證書アル場合ニ於テハ常ニ三十年ノ時間ヲ以テ其時効ト爲シ本條ニ記載セサル場合即チ約束ヲ爲セル時ニ記シタル證書アル場合ニ於テハ或ハ三十年ノ時間或ハ五年ノ時間ヲ以テ其時効ト爲スト云フニ在リ

〔第二百九十九號〕（第五段） 第二千二百七十一條、第二千二百七十二條、并ニ第二千二百七十三條ニ規定セル諸般ノ時効ニ普テク通用ス可キ最終ノ法則ハ即チ第二千二百七十五條ノ記載スルモノ是ナリ、此法則ハ即チ右等時効ノ一ヲ以テ對抗セラレタル權利者ニ允許シテ其義務者若クハ之カ代位者ニ向テ誓ヲ求メ以テ其時効ノ基因セル辨濟ノ推測ヲ攻撃スルノ便宜ヲ與ヘタルモノナリ

若シ義務者自身ニ向テ其宣誓ヲ爲ス可キ旨ヲ求メタル場合ナリトセン歟、義務者ハ必ス



其負債ヲ辨濟シタル旨ヲ確言セサル可ラス、然ラサレハ是非トモ自ラ敗訴ノ言渡ヲ受クルコトナラン○若シ之ニ反シテ義務者ノ寡婦、義務者ノ遺物相續人、若クハ其遺物相續人(幼者又ハ受禁者)ノ後見人ニ向テ誓ヲ求ムル時ハ其者等ハ唯自ラ辨濟ス可キモノアルヤ否ヤヲ知ラサル旨ヲ誓言スルヲ以テ足レリトス

爰ニ第二千二百七十五條ノ法文ニ付テ稍々難累アル一個ノ問題アル○即チ義務者ニ向テ誓ヲ求ムルノ權ヲ允許シタル以上ハ當然之ニ向テ條目問糺(アンテロガトワール、シユル、フェー、ゼ、アルチクル)ヲ爲スコトヲ認許シタルモノト云フ可キ乎ト云ヘル問題はナリ○余輩ハ此問題ニ向テ斷然々リト答ヘント欲スルナリ

曾テ共和十一年暑月十九日巴理府控訴院判決ニテハ尙ホ一步ヲ進メテ爰ニ權利者ハ總テノ證據ヲ以テ其辨濟ノ推測ニ對抗スルコトヲ得可シト決定スル迄ニ至レリ、又此外諸多ノ判決(千八百十七年十月二十二日「ブリュクセル」府控訴院判決、千八百十八年十一月十四日巴理府控訴院、千八百三十四年二月二十六日「アレー」府裁判所裁判言渡)ニテモ亦等シク其如何ナル方法ニ因レルヲ問ハス裁判官ニシテ苟モ其負債ノ辨濟アラサル憑據ヲ得タル以上ハ常ニ右ノ時効ヲ退クルコトヲ得可シト云フノ決定ヲ下セリ○然レトモ是レ眞ニ過渡ノ極點ニ失シタル決定ニシテ決シテ採許ス可ラサルモノナリ、如何トナレハ

第二千二百七十五條ノ法則ニテハ敢テ權利者ニ許ルスニ總テノ方法ヲ以テ反對ノ證據ヲ爲スコトヲ以テシタルニ非スシテ單ニ誓ヲ求ムルコトヲ得ル丈ケノ便宜ヲ與ヘタルニ過キサルカ故ナリ、去リナカラ顧ミテ他ノ一面ヨリ之ヲ察スルニ其義務者ニ向テ宣誓ヲ求ムルコトヲ得ルニ等シク條目問糺ヲ爲スコトヲ允ルサスト云フハ所謂ル偏屈ノ論ニシテ却テ他ノ極點ニ陷ルノ弊ナキヲ免カレサルヘシ○抑モ義務者ノ決意ノ關スル所ハ宣誓ヲ求ムルコト條目問糺ヲ爲スコトニ付テ毫モ相異ナル所アラサルナリ、且ツ所謂ル條目問糺ナルモノハ如何ナル事柄ニ付テモ又訴訟中如何ナル時分ニ於テモ必ス之ヲ爲スコトヲ得可キ旨ハ法律上ニ明載スル所ナリ(訴訟法第三百二十四條民法第千三百五十八條)、左レハ豈ニ茲ニ之ヲ許ルサスト云フノ理アラランヤ○勿論如何ナル反對ノ證據アリトモ固ク禁止セラレタル事件ニ關シテハ此條目問糺ト雖トモ敢テ之ヲ允許ス可ラサルヤ判然タリ、故ニ通常ノ時効ニ關スル場合ニ於テハ決シテ條目問糺ヲ爲スコト能ハサル可キナリ、去レトモ苟クモ法律上ニ於テ殊更ニ反對證據ノ一ヲ認許スル旨ヲ明定セル場合ニ在リテハ條目問糺ヲモ亦等シク當然允許セラレタルモノト看做サ、ル可ラサルモノ、如シ如何トナレハ是レ實ニ特別ノ方法ニシテ總テノ事柄ニ付キ差別ナク法律ノ明許スルモノナルカ故ナリ



第五款 動産ノ獲得ニ關スル即時ノ時効又ハ三年ノ時効

第二千二百七十九條 動産ノ事ニ付テハ占有ハ名義ニ價ス

然レトモ物件ヲ遺失シ又ハ盜取セラレタル者ハ其遺失又ハ盜取ノ日ヨリ起算シテ三年ノ時間中ハ右ノ物件ヲ現ニ所持スル者ニ對シテ之ヲ取戻サント訟求スルコトヲ得可シ、但シ右ノ所持人ハ己レニ之ヲ得セシメタル者ニ對シテ更ニ償還ヲ訟求スルコトヲ得可シ

第二千二百八十條 若シ盜取セラレタル物件又ハ遺失シタル物件ノ現占有者カ市會又ハ市場ニ於テ之ヲ買取リタルカ、或ハ公賣ニ於テ之ヲ買取リタルカ、或ハ此類ノ物品ヲ商人ヨリ之ヲ買取リタル時ハ本來ノ所有者ハ右ノ占有者ニ之ヲ買入レタル時ノ代金ヲ償還スルニ非サレハ己レニ其物件ヲ返還セシムルコトヲ得サル者トス

要目

第一段 第二千二百七十九條第一項ノ基源并ニ本義○本項ノ本義ハ凡ソ動産ニ付テハ占有ハ時効ニ因リ直ニ所有者タラシムルト云フニ在リ○「ツウイーリエー」氏ノ誤解

第二段 占有ハ必ス其獲得ニ付キ正當ノ名義并ニ善意アル場合ニ非サレハ右ノ効果

ヲ生セサル者トス

第三段 本條ハ元來特ニ獲得ノ名義ニ基因セル占有ノミニ關スルモノナルニ此法則ヲ以テ如何ナル占有ニモ適用ス可キモノト看做シタル判決例ノ誤謬○但シ爰ニ緊要ナル條件トスル所ハ其名義ト善意トノ外ニアラサルナリ、或ル論者カ此外尙ホ必用ナリトスル所ノモノハ其實右二個ノ條件中ニ包含ス

第四段 本條ノ法則ハ各個ノ動産ニシテ手カラ手ニ移轉スルモノ、ミニ付テ設成セラレタルモノナリ

第五段 紛失シタル動産又ハ盜取セラレタル動産ニ付テハ右ノ法則ニ例外アリトス、此等ノ動産ハ其紛失シタル時若クハ盜取セラレタル時ヨリ三年間ノ中ニ更ニ取戻スコトヲ得ルモノトス、但シ法律上ニ於テ明定セル或ル場合ニ於テハ所有者ヨリ更ニ其獲得ノ代金ヲ償補セサル可ラサルコト有リ、又此代金ヲ償却シタル所有者モ亦自ラ己レニ其代償ヲ訟求スルノ權アリトス○盜取セラレタル場合ニ付テ定メラレタル右例外ノ規則ハ延テ受寄財産ヲ奪取シタル場合若クハ詐僞取財ノ場合ニ及ホスコト能ハサル者トス○「トロプロン」氏并ニ其他ノ諸大家ニ答辨スルノ説



〔第三百號〕（第一段）我カ佛國ノ古法ニテハ未ダ遙カニ動産ニ關スル得權時効ニ付キ確的一様ノ原則ヲ用フルコト能ハサリシ、此所ニ於テハ三〇年間ノ占有ヲ以テ足レリト爲シ、彼所ニ於テハ五〇年間ノ占有ヲ要スルト爲シ、又他ノ所ニ於テハ三〇年間ノ時間ヲ必要ナリト爲セリ、是レ特リ各地方習慣ノ相同シカラサリシカ爲メニ然リシノミナラス諸學士輩ノ主論モ亦遙カニ一定スル所ニ至ラサリシナリ○去リナカラ曾テ「ブウールシヨ」氏ノ説キタル所ヲシテ果シテ誤リナカラシメハ中古巴理府「シャートレ」裁判院ノ判決例ニテハ動産ハ概シテ追從ノ權ヲ生ス可キモノニ非スト看做シタリト云ヘリ、語ヲ更ヘテ之ヲ述フレハ凡ソ動産ニ付テハ概シテ（但シ例外ノ場合ハ格別ナリトス）所有者自ラ之ヲ取戻ス爲メニ其獲得者ナル他人ノ手ニ至ル迄之ヲ追從スルコト能ハサルモノト爲シ從テ其獲得者ナル他人ハ自ラ占有ヲ爲セルヤ直ニ即時ノ効果ニ因リ之カ所有者トナルモノト爲セリ○此主意ヤ決シテ漠然據ル所ナキモノニハ非サルナリ、余輩カ常ニ凡ソ動産ヲ獲得スル爲メノ時効ハ敢テ三十年、十年、若クハ三年ノ時間ヲ要スルニ非スシテ即時ニ効果ヲ發スルモノナリト云フノ語ヲ發スルハ全ク右同様ノ主意ヲ述フルニ他ノ語ヲ以テスルニ外ナラサルナリ○且ツ當時總テ動産ニ付テハ皆テ時効アルコト無シト云ヘル文詞ヲ用井タルモ敢テ別義ニ非ス（外面ヨリ之ヲ見レハ全ク反對ノ思想ナルカ如クナレトモ其實決

シテ然ラサルナリ）等シク動産ニ付テハ少シモ時効ヲ得ルコトヲ要セス如何ナル時間中タリトモ占有ヲ爲スニ及ハスト云フノ主意ヲ解シセシモノナリ、蓋シ其獲得者ナル他人ハ己レノ獲得ヲ爲シタル時ヨリ直ニ自ラ所有者トナルカ故ナリ

左レハ以前ニ爲セシカ如ク動産ニ付テハ時効アラスト云フモ今日余輩ノ爲セルカ如ク動産ニ付テハ即時ノ時効アリト云フモ其實同様ノ旨意ヲ述ヘンカ爲メナルニ外ナラサルナリ、若シ夫レ余輩カ殊更ニ第二ノ語詞ヲ選ンテ用フル所以ハ先ツ之ヲ諸般ノ特權時効ニ併列スルニ能ク其順序ニ適フ所アルカ故ナリ（例ヘハ三〇年ノ時効、十年乃至二十年ノ時効、三年ノ時効、即時ノ時効ト云フカ如キ是ナリ）加之動産ニ付テハ時効アラスト云ヘル文詞ハ或ハ人ヲシテ誤解セシムルノ嫌ナキニ非ス、文面ノミニ付テ皮相ノ説ヲ爲ス者ハ直ニ之ヲ以テ動産ハ決シテ時効ニ因テ獲得セラル可キモノニ非スト云フノ義ニ解セントスル者ナキヲ保シ難シ、故ニ余輩ハ斷然充分ニ判明ナル即時ノ時効ト云ヘル語ノミヲ用井ント欲スルナリ

余輩ハ前文ニ於テ能ク注意ヲ怠ラス若シ「ブウールシヨ」氏ノ説ク所ヲシテ果シテ信ナラシメハ「シャートレ」裁判院ノ判決例ニテハ確然他人ナル獲得者ノ爲メニ動産ニ關スル即時ノ時効アル可キ旨ヲ明許シタリト云フ可シ云々ト述ヘ置キタリ○抑モ余輩カ斯ク迄



モ注意ヲ爲シテ其信否如何ヲ斷言セザリシ所以ハ此點大ニ疑フ可キモノナキニ非サルカ  
 故ナリ、願ミテ現ニ自ラ「シャートレー」裁判院ニ在リタル檢事「ドニザール」氏ノ述ヘタル  
 所ヲ觀ルニ我カ「シャートレー」裁判院ニ於テハ總テ反對ノ證據アラサル以上ハ動産ノ占  
 有者ヲ以テ其所有者ト看做スト云フヲ以テ確定ノ格言トス可シ云々ト云ヘリ○「ドニザー  
 ル」氏ノ言果シテ信ナラン歟「ブールジョン」氏ノ言必ス虚ナラン、如何ナレハ動産ノ占有  
 者ナル獲得者ハ單ニ反對ノ證據ヲ以テ更ニ破却セラル可キ些細ノ推測ニ因テ所有者ト看  
 做サル、可シト云フコトト此他人ナル獲得者ハ時効ニ因テ其動産ヲ獲得シタルモノナリ  
 ト云フコトハ敢テ遙カニ其義ヲ同フセサルカ故ナリ○當時ノ事ハ「トニザール」氏ノ述ヘ  
 ラレタルカ如ク然リシニセヨ、又「ブールジョン」氏ノ説ク所「シャートレー」裁判院ノ判  
 決例ニ相違スルモノアルニセヨ、其當否如何ハ姑ク之ヲ擱キ兎モ角モ法典ノ明定セシ所  
 ノモノハ即チ「ブールジョン」氏ノ思想ヲ採許シタルモノナルニ相違アラサルコト敢テ疑  
 フ可ラサルナリ、「ツウーリエー」氏カ此事實ヲ認許セザランカ爲メニ之ニ對抗シテ彼是頗  
 リニ論辨セラレタル所ハ其實無益ノ空言タルニ過キサレハ敢テ顧ミルニ足ラサルナリ  
 一面ヨリ之ヲ觀ルニ「ブールジョン」氏ハ動産ニ付テハ占有ヲ爲セル直接ノ効力ニ因リ  
 即時ノ獲得アリト爲ス可シト云ヘル主義ヲ最モ詳密ニ切論シ最モ鞏固ニ論究セラレタリ

氏ノ言ニ曰ク凡ソ動産ニ付テハ單ニ占有ヲ爲セル事實アルノミヲ以テ完全ノ名義ニ因リ  
 生スル充分ノ効果ヲ發スルモノトス云々ト、又曰ク假令ヒ一日間タリトモ或ル動産ヲ占  
 有スル時ハ所有權ヲ有スル名義ニ適スルモノトス云々ト、且ツ氏ハ詳カニ己レノ思想ヲ  
 擴張シテ説明センカ爲メニ右ノ如ク完全ノ名義若クハ所有權ノ名義云々ト云ヘル文詞ヲ  
 掲ケタル後更ニ語ヲ加ヘテ凡ソ動産ノ事ニ付テハ占有ハ名義ニ價ス云々ト明言セリ○法  
 典上凡ソ動産ノ事ニ付テハ占有ハ名義ニ價ス云々ト云ヘル法則ヲ記載シタルハ全ク「ブ  
 ウールジョン」氏ノ言ヲ其儘騰寫シタルニ過キサレナリ○此ノ如キ明瞭ナル事實アリテ  
 存スル以上ハ本文ノ基源并ニ本義ニ付キ疑義ヲ起サントスルモ能ハサル可キ次第ナルニ  
 ハ非サル乎

又更ニ他ノ一面ヨリ之ヲ察スルニ法典ハ右ノ原則ヲ確定シタル後更ニ之ニ例外ノ規則ヲ  
 加ヘタリ○然ルニ此例外規則ノ主意トスル所ハ即チ紛失若クハ盜取ノ場合ニ於テハ更ニ  
 其動産ヲ取戻スコトヲ得可シ(二年ノ間)ト云フニ在リ、左レハ原則ノ眼目トスル所ハ即  
 チ動産ハ概シテ取戻サル、モノニ非ス、動産ニハ追從ノ權アラズ、動産ハ其獲得ノ時ヨリ  
 直ニ獲得者ナル他人ノ所有物トナル可シト云フニ在ルヤ毫モ疑フ可ラサルナリ  
 由是觀之「ツウーリエー」氏カ第二千二百七十九條ノ法則ハ先ツ占有ニ與フルニ反對ノ證



據ヲ以テ破却スルコトヲ得可キ所有權ニ關スル單純ノ推測ヲ以テシタルニ過キサル者ト爲シ且ツ時効ニ因テ此所有權ヲ獲得スル一條ニ至テハ必ス三年間ノ占有アルニ非サレハ全ク成就スルモノニ非ス云々ト述ヘラレタルハ實ニ誤謬ノ甚タシキモノト云フニ外ナラサルナリ○是レ恰モ本條ノ例外規則ヲ以テ其原則ト爲サント欲シタルニ似タリ、本條ノ原則ハ時効ニ因リ動產ヲ獲得スルコトハ其占有ヲ爲セル即時ノ効力ニ因テ行ハル、者トスト云フニ在テ決シテ動カス可ラサルモノナリ

勿論此原則ヲ記シタル行文ハ敢テ其當ヲ得タルモノト云フ可ラス○元來其名義ニ價スル効果ヲ生スルハ果シテ如何ナル乎、此効果ヲ生スルニハ如何ナル要件ヲ具備スル占有ナルコトヲ必要トスル乎、又此占有ノ價スル名義トハ果シテ如何ナル名義ヲ指示セシモノナル乎、嘗テ少シモ此等ノ要點ヲ明示スルコト無ク單ニ占有ハ名義ニ價スルト云フノミニテハ實ニ仙女カ惡魔ヲ説クニ似タリ○爰ニ所謂ル占有トハ惡意ノ占有タルヲ問ハス又假有ノ占有タルヲ論セス差別ナク總テノ占有ヲ指稱シタルモノナル乎○又爰ニ所謂ル占有ハ名義ニ價スト云ヘルハ果シテ如何ナル名義ノ謂ナル乎○例ヘハ余善意ト正當ノ名義トヲ以テ所有者ニアラサル者ヨリ或ル不動產ヲ獲得シタリトセシニ、此名義ヤ素ヨリ正當ナルモノナリト雖トモ敗テ余ニ時効ヲ與フルモノニ非ス、左レハ動產ニ付キ

余カ占有ハ名義ニ價スルト云フコトハ決シテ余カ占有ハ余ニ時効ヲ與フルモノナリト云フノ義ニハ非サル可シ○此ノ如ク曖昧ナル行文ヲ記シ以テ其如何ナル占有ナルカ如何ナル名義ナルカヲ明定セサリシハ眞ニ立法者ノ失策ナリ○余輩ト雖トモ敢テ之ヲ知ラサルニ非ス否敢テ之ヲ咎メサルニ非サルナリ

夫レ然リ然レトモ重テ前文ニモ之ヲ述ヘタルカ如ク必ス此謎語ノ本義ヲ解得セサル可ラス、又平心之ヲ理會セント欲セハ其事實ノ情況ヲ察シテ容易ニ本義ノ在ル所ヲ會得スルコトヲ得可キナリ、先ツ爰ニ所謂ル占有トハ果シテ如何ナル乎ト云ヘル問題ハ後文ニ至テ委曲之ヲ研究ス可クレハ姑ク擱テ論セス余輩ハ直チニ云ハントス本條ノ記載セル名義トハ即チ有効ノ名義ナリ所有權ヲ附與スル効力アル名義ナリト

夫レ此ノ如ク必ス然ラサル可ラサルコトハ左ニ指示スル三個ノ情況ニ因テ判然タリ、第一本條ノ記載アル位置并ニ其旨趣ノ順序ニ付テ之ヲ觀ルニ必ス時効ニ關スルモノタルニ相違アラサルナリ、然ルニ此時効ニ付テハ嘗テ如何ナル時間ヲモ必要トセサルカ故ニ少シモ時間ヲ要セスシテ成就スル所ノ時効ト云フ可ク其時ヨリ直ニ所有者タルコトヲ認許セシメル所ノ時効ト云フ可キナリ、第二本條ノ文面ハ「ブウールシヨン」氏ノ語ヲ其儘寫シタルモノナリ、「ブウールシヨン」氏ハ之ヲ以テ「シャートレー」裁判院判決例ニ常用ス



ル文面ナリト斷言スルノ前豫メ能ク注意ヲ爲シテ此名義ハ即チ完全ノ名義ナリト云ヒ、所有權ノ名義ナリト云ヘリ、且ツ曰ク或ル論者ハ善意ナル場合ニ於テ動産ノ所有權ニ付キ時効ヲ得ル爲メニハ三年ノ時間ヲ要スルト云フノ説ヲ爲シタルモ、右「シヤートレー」裁判院ノ判決例ニテハ此説ヲ擯斥シテ常ニ探許シタルコト無シ云々ト、第三此三年ノ時間ハ一般ノ原則ニ反スル例外トシテ特ニ紛失若クハ盜取ノ場合ノミニ付テ允許セラレタルモノナリ、左レハ此原則ニテハ少シモ右ノ如キ時間ヲ要セサルモノト爲セルヤ疑アラサルナリ、語ヲ更ヘテ之ヲ述ブレハ此原則ハ即チ其時ヨリ直ニ取戻ノ訴權ヲ行フニ道ナカラシムル者タリ

〔第三百一號〕 (第二段) 第二千二百七十九條ノ記載セル名義トハ果シテ何如ナルモノナク云フ乎ト云ヘル問題ハ余輩既ニ之ヲ論究シタリ、從是更ニ此名義生スル爲メニ本條ニテ要スル占有トハ果シテ如何ナル占有ナル乎ト云ヘル問題ニ移テ解説セントス○他ノ語ヲ用テ之ヲ述ヘンニ凡ソ動産ノ事ニ付テハ占有ハ即時ノ時効ヲ生シ以テ直ニ所有者タラシムルト云フコトハ以上既ニ之ヲ了得シタリ、去レトモ此占有ニシテ果シテ此ノ如キ効果ヲ生スルニハ如何ナル條件ヲ必要トスル乎、是レ即チ以下研究ス可キ要點ナリ  
爰ニハ必ス二個ノ條件ヲ具備スルヲ要ス○「ムールロン」氏ノ民法覆義ニ説ク所ヲ以テ推

考スレバ巴黎府大學校ノ教頭輩ハ爰ニ三個ノ條件ヲ必要ト爲セル主論ナルカ如シ○然レトモ余輩ノ思考スル所ニテハ是レ全ク誤謬ノ所見タルニ過キサレモノ、如ク思ハル、下文ニ至テ更ニ之ヲ詳論ス可キカ如ク其第三ノ條件トスル者ハ是非第一并ニ第二ノ條件中ニ包含セルモノタリ○故ニ余輩ハ正サニ斷言セントス茲ニハ特ニ二個ノ條件ヲ必要トスルノミナリト○此法則ヲ誤認スル者アルカ爲メニ古今太々驚歎ス可キ結果ヲ現出スルニ至ルコト日々其實例ヲ見ル所ナレハ必ス能ク之ヲ詳明セサル可ラス

〔第三百二號〕 第一ノ條件ハ即チ占有ハ必ス善意ニ據テ起リタルコトヲ要スルト云フニ在リ○元來茲ニ法律ノ主眼トスル所ハ錯誤ヲ恕スルト云フニ在テ毫モ詐僞ヲ利スルト云フニハ在ラサルナリ

「ブウールジョーン」氏ノ説ニ曰ク曾テ「ヂュプレシー」氏并ニ「ブロードウー」氏ノ主論ニテハ善意ノ時ニハ三年ノ時間ヲ以テ動産ノ時効ト爲シ惡意ノ時ニハ三十年ノ時間ヲ以テ動産ノ時効ト爲セリ云々ト、又曰ク「シヤートレー」裁判院ニテハ右諸氏ノ主論中特ニ第一段ヲ擯斥シテ以テ更ニ善意ノ時ニハ即時ノ時効アリト云フノ主義ヲ探許シタルナリ云々ト○法典ノ明定セシ所モ全ク右「ブウールジョーン」氏ノ證言セラレタル「シヤートレー」裁判院ノ判決例ニ依リタルモノニ過キサレナリ、法典ノ規則ニテモ亦惡意ノ占有ハ今日尙ホ



以前ニ等シク三十年ノ時効ニ循フ可キモノタルコト知ル可キナリ○此第二千二百七十九條ノ法則ヲ適用スル場合ノ一ヲ揭示セル第四百四十一條ニ於テ或ル動産ヲ最初ノ一人ニ賣渡シ以テ未タ之ヲ引渡サ、ル以前ニ更ニ他ノ一人ニ之ヲ賣渡シ以テ之ヲ引渡シタル場合ニ於テハ最後ノ買主自ラ占有ヲ爲セル効力ニ因リ其動産ノ所有者トナル者トス但シ其善意ニ因レル占有タルコトヲ必要トス云々ト明記シタルモ亦全ク右ノ原則ニ因レル結果タルニ過キサルナリ

〔第三百三號〕 第一ノ條件ハ即チ第二千二百七十九條ノ法則ヲ申立ル者、賣買、交換、贈與、相續、遺囑、代物辨濟、等ノ如ク凡テ所有權ヲ獲得スル法律上ノ理由ニ因リ自ラ占有ヲ爲シタルコトヲ要スルト云フニ在リ○蓋シ若シ其者所有權ヲ移轉スル法律上ノ方法中其一ニ因テ事實上ノ獲得ヲ爲サ、ル場合ニ於テハ決シテ自ラ所有者ナリト信ス可キ理アラサルカ故ナリ、此ノ如キ場合ニ於テハ敢テ善意ニテ其所有權ヲ占有スル者ニ非サレハ決シテ之ニ本條ノ法則ヲ適施ス可キ限ニアラサルナリ○是レ必ス然ラサル可ラサル事實ナレハ毫モ疑惑ヲ生スルコトアル可ラサルナリ、蓋シ爰ニハ二者必ス其一ニ居ラサル可ラサル理由アリテ存スルカ故ナリ、其者自ラ主者タルノ意思ヲ有セサル場合ナリトセン歟、此場合ニ於テハ假令ヒ三十年ノ時間ヲ經過スルト雖トモ敢テ時効ヲ得ルニ至ラサル可キナリ、如何トナレハ(前キニ第二千二百二十八條ノ説明中「トロプロン」氏ノ主論ニ對抗シテ

述ヘタルカ如ク) 其者ハ決シテ自ラ占有ヲモ有スルニ非サルカ故ナリ又其者自ラ主者タルノ意思ヲ以テ己レニ占有ヲ爲セル場合ナリトセン歟、其者ハ即チ惡意ナリ、左レハ爰ニ緊要ナル第一ノ條件ヲ欠ケルヲ以テ必ス三十年ノ時間ヲ俟タサレハ其時効ヲ得ルニ至ラサル可キナリ

以上説明スル所ニ據テ之ヲ了得スルコトヲ得可キカ如ク此第二ノ條件ハ即チ占有者ハ必ス正當ノ名義ヲ有ス可シト云フニ在リ、左レハ爰ニ動産ニ付テ要スル所ノ二條件ハ即チ不動産ニ特別ナル十年乃至二十年ノ時効ニ付キ要用ナリト爲シタル二條件ト同様ナリトス即チ善意及ヒ正當ノ名義是ナリ

夫レ然リ然ルニ深ク事實ノ如何ノヲ量考セサル者ヨリ之ヲ見ル時ハ法律上ニハ唯占有ハ名義ニ價スト云ヒ占有ハ名義ニ代位スト云ヘルノミニ過キサルニ而カモ右ノ如ク固ク正當ノ名義カ現ニ存スルコトヲ必要ト爲スハ如何ニモ奇怪ノ説ナルカ如ク思ハル、コトナラン○難者或ハ曰ハン占有ハ必ス現實ノ名義ニ基因スルヲ要スルト云ヘル條件アルニ非サレハ敢テ名義ニ代位スル効力アルモノニ非スト云フ時ハ其間自ラ相撞着スル所ナキヲ得ル乎ト○此ノ如キ難問ヲ爲ス者アルハ余輩カ屢々見聞スル所ナルモ殊更ニ之ニ向テ答



辨ヲ爲スハ如何ニモ無益ノ徒勞ニ歸スルカ如ク思ハル、此難駁ハ所謂ル文詞上ノ戯レニシテ其實一語ニシテ兩義ヲ有スル差異ニ基因シテ發シタルモノニ過キサルナリ○元來爰ニ存セサル名義ニシテ時効ニ代ハリテ常ニ時効ト同様ノ効果ヲ生スルモノハ即チ有効ノ名義ナリ、語チ更ヘテ之ヲ述ヘンニ爰ニ欠ケテ存セサル所ノ名義ハ即チ現ニ所有權ヲ附與スル効力アル所有者タルノ名義ナリ、之ニ反シテ右ノ如ク同様ノ効果ヲ生スル爲メニ爰ニ存在スルコトヲ要スル所ノ名義ハ即チ無効ノ名義ナリ（蓋シ眞ノ所有者ヨリ出テタルモノニ非サル名義ナルカ故ナリ）所有權ヲ得セシムル効力アルモノト信シタルモ其實之ヲ附與スル性質ヲ有セサリシ名義ナリ、即チ買主、交換者等ノ如キ單純ノ名義ナリ○且ツ夫レ所謂ル名義ト云ヘル語ハ更ニ他ノ義ニ之ヲ用フルコト有リトス、此名義ト云ヘル語ハ或ハ吾人ノ爲シタル所有權ノ移轉若クハ吾人ノ爲シタリト信シタル所有權ノ移轉ヲ證明スル爲メノ證書ト云ヘル義ニ之ヲ用フルコト有リ○此證書ノ義ニ解ス可キ名義ハ余輩既ニ第二千二百六十五條ノ說明中ニ詳論セシ所ニシテ即チ他ノ名義ノ證據タルニ過キサルナリ、而シテ此證書ナル名義モ亦等シク占有ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得可キモノナレハ爰ニハ敢テ之ヲ要セサルナリ、如何トナレハ仰モ本條ノ理由ノ一ハ實ニ諸般ノ動產ヲ移轉シ獲得スルニハ概シテ必スシモ證書ヲ記スルモノニ非スト云フノ點ニ在ルカ故ナリ○由是觀之茲ニ余輩カ云フ所ノ正當ノ名義トハ敢テ證書ノ義ヲ有スル名義ヲ云フニモ非ス（此證書ハ決シテ之ヲ要セサルナリ）、又現ニ所有權ヲ附與スル有効ノ名義ヲ云フニモ非サルナリ（如何トナレハ此ノ如キ名義アリテ存スル以上ハ毫モ時効ニ關スル問題アル可ラサルカ故ナリ）余輩ノ主眼スル所ハ唯事實上ノ獲得ニシテ其獲得者ハ眞ニ之ヲ有効ノモノト信シ又斯ク信セサル可ラサル理由アリシモ其實移轉ヲ爲シタル主者カ自ラ權利ヲ有シタルニ在ラサリシテ以テ遂ニ無効ニ歸ス可キ名義ナルニ過キサルナリ

之ヲ要スルニ第二千二百六十五條ニ於テ十年乃至二十年ノ占有ニ因テ或ル不動產ノ時効ヲ得ル爲メニ緊要ナリト爲セシモノハ即チ善意ト正當ノ名義トノ二條件ナリシカ、爰ニ即時ノ占有ニ因テ或ル動產ノ時効ヲ得ル爲メニ必要トスルモノモ亦右二條件ノ外ニアラサルナリ○眞ノ所有者ニアラサル者ヨリ正當ノ名義ト善意トヲ以テ或ル動產ヲ獲得セルコト是レ即チ特ニ第二千二百七十九條ノ法則ヲ適用ス可キ場合ナリ、而シテ此場合ヲ除クノ外本條ノ法則ヲ適施ス可キ場合アルコト無シ、是レ第二千二百六十五條ニ於テ動產ニ關スル十年ノ時効ニ付キ規定セシ法則ト同様ナリ

〔第三百四號〕（第三段） 以上説明スル所ニ因テ之ヲ觀ルニ第二千二百七十九條ノ法則ハ特ニ時効ニ因リ或ル動產ヲ獲得スルノミニ關スルモノナリ、而シテ此獲得ハ必ス正當ノ



名義ト善意トヲ具備スル場合ニ非サレハ之ヲ許ルサ、ル者トス。夫レ然リ此思想ヤ此ノ如ク夫レ明瞭簡單ナルニ拘ハラズ法律世界ニ於テ今日ニ至ル迄尙ホ之ヲ理解セシ者アルヲ見聞セサルハ如何ニモ不可思議ナル次第ナリ、最初千八百十四年以來後千八百四十九年ニ至ル迄ニ爲シタル諸船ノ判決例ヲ視ルニ皆其時効ノ問題ニ關スルト其他ノ問題ニ關スルトヲ問ハス第二千二百七十九條ノ法則ヲ以テ所有<sup>アラユル</sup>場合ニ於テ占有ノ効果ヲ規定セルモノト爲サ、ルハ無シ。○請フ左ニ二三ノ實例ヲ舉示シテ以テ余輩カ言ノ妄ナラサルヲ證明セン

千八百十四年ニ於テ「クレプス」ナル者兄弟ノ間ニ詞訟ヲ生シタルコト有リ、當時弟「クレプス」其兄「クレプス」ニ向テ或ル馬車ノ半部ニ付キ辨濟ヲ要求シ以テ其馬車ハ前キニ兄弟共同セシ財産ヲ分派スル時ニ未分ノ儘ニテ双方ノ間ニ遺存シ置キタルモノナリト申立テタリ、且ツ原告ナル弟「クレプス」ハ頻リニ此事實ヲ證明シ并セテ兄「クレプス」カ嘗テ右馬車ノ半部ニ付キ己レニ四千「フラン」ノ金高ヲ提供セント爲シタルコト有ル旨ヲ認定セント申述セリ。○然ルニ被告ナル兄「クレプス」ハ第二千二百七十九條ノ法則ヲ以テ恰モ萬病ノ良藥ナルカ如キ思フ爲シ直ニ之ヲ以テ答辨ヲ爲シテ曰ク己レカ正サニ其馬車ノ占有ヲ爲セル事實アルヲ以テ此事實ノミニ因リ自ラ之カ所有者タル可キコト論ヲ俟タサル

ナリ故ニ何人ト雖トモ此點ニ付テハ己レニ向テ如何ナル證據ヲモ爲スコト能ハサル可キナリ云々ト、巴里府控訴院ニテハ千八百十四年十月八日ノ判決ヲ以テ此被告兄「クレプス」ノ奇怪ナル抗辨ヲ以テ至當ナリト爲セリ。○後チ弟「クレプス」更ニ上告ヲ爲シタルニ大審院願書局ニテハ千八百十六年七月四日ノ判決ヲ以テ等シク前控訴院ノ決定ヲ維持シタル、其理由トスル所ニ曰ク紛失又ハ盜取ノ場合ヲ除クノ外總テ動産ニ付テハ占有ハ名義ニ價スト云ヘル原則アルカ故ナリ云々ト

何人ト雖トモ恐ラクハ此決定ノ太々不當ナルコトヲ看破シ能ハサル者ハアラサル可シ。○一面ヨリ之ヲ觀ルニ本訴ハ決シテ時効ニ關スル所アラサルナリ、兄「クレプス」カ所有者ニアラサル者ヨリ受ケタル或ル動産ヲ占有ノ効力ニ因テ自ラ獲得セントスル問題ニハアラサリシナリ、又他ノ一面ヨリ之ヲ察スルニ假令ヒ兄「クレプス」カ前キニ兄弟ノ間ニ於テ分派ヲ行フタル効果ニ因リ眞ノ所有者ヨリ己レニ得タルモノナリト主張セシ馬車ノ半部ヲ所有者ニアラサル他人ヨリ獲得セシモノトスルモ弟「クレプス」カ其兄ノ自ラ所有者タラサルコトヲ認メ居リタル旨并ニ自ラ所有者タランコトヲ欲シテ曾テ己レニ四千「フラン」ヲ提供セシコト有リシ旨ヲ證明セント申立タル所ハ必ス之ヲ允許スルコトヲ得タルナラン如何トナレハ此申立ハ即チ主者タルノ意思ヲ以テ爲シタル善意ノ占有アリタル



ニ非スト云フ證據ヲ示サントスルニ在リタルモノナレハナリ  
 千八百三十一年「ブウールジュ」府控訴院ニ於テ左ノ問題ヲ生シタリ、即チ甲者ノ遺物相  
 續人カ其甲者ノ死去スル少シ前ニ住居セシ家屋ニ遺シ置キタルモノナリト中立タル諸般  
 ノ動産ハ多分右ノ死者ニ所屬シタルモノナラント云ヘル稍々鞏固ナル推測アルニ因リ封  
 印ス可キモノナル乎、將タ右等ノ動産ハ二三週間以前ヨリ新タニ其家屋ヲ借受ケタル乙  
 者ノ住所ニ存在スルニ因リ乙者自ラ其所有權ヲ有スルト云ヘル推測アルヲ以テ敢テ封印  
 ヲ爲ス可キモノニ非サル乎ト云ヘル問題はナリ○然ルニ「ブウールジュ」府控訴院ニテハ  
 謬妄ニ重ナルニ謬妄ヲ以テシ以テ第二ノ謬妄ヲ以テ第一ノ謬妄ヨリ生ス可キ奇怪ノ結果  
 ヲ避クルコトヲ得タリ、其判決文ニ曰ク乙者ハ實ニ第二千二百七十九條ノ法則ニ因リ所  
 有者ト看做サル、モノナリ去レトモ元來第二千二百七十九條ノ法則ヲ以テ規定シタル推  
 測ハ常ニ反對ノ證據ヲ以テ破却スルコトヲ得ルカ故ニ甲者ノ遺物相續人ハ兎モ角モ其動  
 産ニ封印ヲ爲サシメ以テ自己ノ權利ヲ證明スルコトヲ得可キナリ云々ト  
 又千八百四十五年「ルアン」府控訴院ニ於テ手渡シ贈與ノ効力如何ニ付テ問題ヲ生シタル  
 ニ（勿論眞ノ所有者カ爲シタル贈與ナリ）當院ニテモ亦等シク第二千二百七十九條ノ法則  
 ヲ適施シタリ

又千八百四十九年「フロラック」府始審裁判所ニ於テ右同様手渡シ贈與ノ効力如何ニ付テ  
 等シク問題ヲ生シタルニ此裁判所ニテモ亦同シク第二千二百七十九條ノ規則ヲ適用シタ  
 リ  
 其他諸般ノ判決例中ニハ或ハ「ブウールジュ」府控訴院判決ノ爲シタルカ如ク元來第二千  
 二百七十九條ノ規則ヲ適施ス可ラサル場合ニ之ヲ適施シテ法律ヲ犯シタルモノアリ、或  
 ハ元來本條ノ許ルサ、ル所ノ反對證據ヲ爲スコトヲ許ルシテ法律ニ背キタルモノアリ、  
 此ノ如キ謬妄ノ判決太々居多ナリトス  
 實ニ此ノ如キ謎誤ニ向テハ將タ何ヲ辨シテ可ナラン乎○左ノ諸項ヲ再陳スルノ外他ニ辨  
 ス可キモノアラサルナリ、曰ク法典以前ノ諸法例、曰ク動産ノ事ニ付キ云々ト云ヘル格言  
 ヲ寫シタル基源、曰ク第二千二百七十九條第一項ニ明定セル原則ノ本義ヲ明解セル第二  
 項ノ例外規則、曰ク法典中ニ本條ヲ記シタル位置、曰ク法典ノ理由書ニ詳記セル説明、之  
 ナ要スルニ右等ノ諸項ハ皆ナリ此第二千二百七十九條ノ法則カニ時効ノ場合ノミニ付テ  
 設ケラレタル者ナル旨ヲ證明セサルモノアラサルナリ、右等ノ諸項ハ一トシテ本條ノ法  
 則カ正當ノ名義ト善意トヲ以テ眞ノ所有者ニアラサル者ヨリ或ル動産ヲ獲得シテ之ヲ占  
 有スル場合ノ外他ノ場合ニ適施ス可ラサルコトヲ證明セサル者アラサルナリ



勿論第二千二百七十九條ニ記定スル場合ノ外ニ在テ之ヲ觀ル時ハ占有ヲ爲セル事實ハ動産ニ於ケルト不動産ニ於ケルトヲ問ハス常ニ多少所有權ノ推測ナルニ過キサル可キカ故ニ更ニ之ニ反對スル他ノ證據若クハ他ノ推測ヲ以テ之ヲ破却スルコトヲ得ルナラン、去レトモ此些細ノ推測ト爰ニ既ニ獲得シタル時効ニ因リ法律上ニテ認定スル所有權トハ決シテ相混同セサル様注意ヲ爲サ、ル可ラス、又第二千二百七十九條ノ法則ハ敢テ毫モ關係ノアラサル場合ニ漫リニ之ヲ適用セサル様注意ヲ爲サ、ル可ラス

「トロプロン」氏カ其第千四十三號以下ニ於テ大ニ論辨セシ所アリシモ亦全ク前文ニ揭示シタル諸多ノ判決例ヲ駁撃センカ爲メナルニ外ナラサリシ、或ハ本條ニ記定スル時効ニ關シテ第三ノ條件ヲ必要トスト云ヘル説ヲ爲セル者ハ成ル可ク自論ヲ確固ナラシメノコトヲ圖ルノ餘リ右「トロプロン」氏ノ論辨セシ所ヲ引キ來リテ以テ氏モ亦等シク此第三ノ條件ヲ必要ナリトスルノ一人ナリト陳ヘルニ至レリト雖トモ是レ恐クハ説者ノ妄見ナラノ歟、余輩ヲ以テ之ヲ察スルニ「トロプロン」氏ハ敢テ説者ノ云ヘルカ如キ意見ヲ懷キシ者ニアラサルカ如シ

説者曰ク正當ノ名義及ヒ善意ヲ要スルノ外更ニ其占有者カ自ラ所有者ニ對シテ動産ノ返還ヲ爲ス可キ責ヲ負擔セサル場合タルコトヲ要ス云々ト○此論ヤ必ス此ノ如キ情況ナカラサル可ラスト云フノ點ヨリ之ヲ觀ル時ハ如何ニモ充分ノ正鵠ヲ得タルモノト云ハサル可ラスト雖トモ顧ミテ此情況ヤ第一及ヒ第二ノ條件ニ異ナル第三ノ條件ヲ構成スルモノナリト云フノ點ヨリ之ヲ考フル時ハ實ニ失當ノ甚シキモノト斷言セサルヲ得ス、蓋シ此情況ハ最初二個ノ條件中常ニ是レカ彼レカノ中ニ包含スルモノナルカ故ニ假シ之ヲ以テ第三ノ條件ト看做ス時ハ必ス一物ヲ二様ニ見ルノ嫌ナキヲ免カレス○是故ニ「トロプロン」氏ノ如キモ嘗テ爰ニ三個ノ條件ヲ必要ナリトスルト解説シタルコトアラサルナリ、或ル者カ氏ノ説明中自ラ此主意ヲ包藏スル所アリト述ヘタルハ全ク之ヲ誤認シタルニ過キサルナリ

請フ能ク事ノ次第ヲ熟考セヨ爰ニ論究セントスル時効ヨリモ尙ホ嚴格ナル所アリテ十年乃至二十年ノ占有ニ因レル不動産ニ關スル特別ナル時効ニ付テスラモ唯正當ノ名義ト善意トノ二條件ヲ具備スルヲ以テ足レリト爲セルニハアラサル乎、然ルニ本條ノ場合ニ限リテ殊更ニ三個ノ條件ヲ必要トスルト謂フハ將タ何ノ理由ニ因テ量考セシモノナル乎○余輩熟々之ヲ察スルニ二個ノ條件ヲ要スルノ外更ニ第三ノ條件トスルモノヲ必要トスル場合ヲ假想セントスルモ恐クハ實際ニ其例證ヲ見出スコト能ハサルコトナラン○如何ニモ占有者ニシテ更ニ其物件ヲ返還ス可キ義務アル以上ハ自ラ受クル所ノ請求ヲ避クルコ



ト能ハザル可キカ故ニ占有者ハ必ス自ラ之ヲ返還ス可キ義務ヲ負擔セサル場合中ニ在ルヲ要スルコト素ヨリ論ヲ俟タサル所ナリ、夫レ然リ然レトモ既ニ斯ノ如キ義務ノ存スル以上ハ之レニ因テ自然正當ノ名義ヲ欠ケルカ、善意ヲ欠ケルカ、將々主者タルノ意思ヲ欠ケルコトナラン、果シテ然ランニハ論者ノ所謂ル第三ノ條件ナルモノハ其實少シク摸樣ヲ更ヘテ二個ノ條件ヲ表示スルニ過キサリナリ

前文ニ揭示シタル諸多ノ判決例ハ皆テ最初第一及ヒ第二ノ條件ヲ以テ之ヲ辨破スルコトヲ得可キコトハ既ニ之ヲ詳論シタリ且ツ「トロプロン」氏モ亦大ニ此等ノ判決例ヲ非トスルノ主論ヲ立タルニ説者カ以テ安リニ氏モ亦等シク新タナル第三ノ條件ヲ要スルモノト爲シタルナリト陳ヘタルハ全ク空想ノ誤見タルコトヲモ前文ニ於テ已ニ之ヲ論破シタリ  
○今又更ニ顧ミテ他ノ一面ヨリ之ヲ觀察スルニ巴理府大學校ノ講義ヲ輯集シタル「ムールロン」氏ノ民法覆義ハ即チ特リ此第三ノ條件ヲ記スルモノナルニ氏ノ探究敢テ盡サ、ルニ非スト雖トモ悲哉一モ此條件ヲ必要トスル實際ノ適例ヲ明示スルコト能ハサリシ○「ムールロン」氏ハ始メニ此第三ノ條件ハ幾ト常ニ第一ノ條件若クハ第二ノ條件ト共ニ合同スルコトナラント云ヒ、次ニ去レトモ必スシモ獨別ニ此第三ノ條件ヲ適施ス可キ場合ナキニシモアラサルナリト云ヘリ、而シテ深く之ヲ探究シタル後其適例ノ一トシテ左ノ

場合ヲ假想セリ○例ヘハ余或ル動産ヲ汝ニ賣渡シタルモ未タ之カ引渡ヲ爲サ、ル前ニ余自ラ死去シタルヲ以テ余カ相續人ハ其遺物財産中ニ右ノ動産ヲ發見シタリトセンニ、余カ相續人ハ善意ニテ之ヲ占有セルモノト云ハサル可ラス如何トナレハ余カ相續人ハ前キニ右動産ノ所有權ヲ汝ニ移轉シタル賣買契約アルコトヲ了知セサルカ故ナリ、又余カ相續人ノ占有ハ決シテ假想ノ性質ヲ帶フルモノト云フ可ラス如何トナレハ此相續人ハ全ク自己ノ利益ノ爲メニ之ヲ占有スルモノナルカ故ナリ、夫レ斯ノ如キ有様ナリト雖トモ尙ホ汝自ラ勝訴ヲ得ルニ至ラン如何トナレハ右ノ相續人ハ自ラ其物件ヲ返還ス可キ義務ヲ負擔スルモノナルカ故ナリ云々ト(以上「ムールロン」氏ノ舉例)○夫レ然リ豈ニ夫レ然ランヤ此適例ナリト假想セシモノハ其實適例ト云フ可キモノニ非サルナリ、如何トナレハ右遺物相續人ノ保有ハ實ニ自ラ遺物相續人タル名義ヲ有スルニ因リ其先人ノ保有ニ等シク必ス假有ノ性質ヲ帶フルモノタルニ相違アラサルカ故ナリ○「ムールロン」氏カ本例ヲ舉示セル前項ニ於テ假令ヒ假有ノ保有者カ其占有ノ假有タルコトヲ認知セサル遺物相續人ヲ遺シテ死去シタル場合ト雖トモ此假有ノ性質ハ尙ホ必ス遺存スルナラン如何トナレハ元來保有者ノ死去セシ事實ヲ以テ此性質ヲ滌除スルコトヲ得可キ理アラサルカ故ナリ云々ト明言シナカラ特リ右舉例ノ不當ナルコトヲ察知セルコト能ハサリシハ實ニ驚嘆ス



ルニ餘リアリ○且ツ「ムールロン」氏ハ既ニ已ニ何トモ申分アラサル見解ヲ下シテ以テ凡テ包含ノ遺物相續人ハ死者ノ身ヲ繼續スルモノナリ因テ包含ノ遺物相續人ハ必ス其死者ノ占有ヲ繼續セスト云フノ理アラズ左レハ包含ノ遺物相續人ハ是非トモ死者自ラ時効ヲ得可キ限内ニ在ルニアラサレハ敢テ時効ヲ得ルニハ至ラサル可キナリ云々ト詳説シタルニハ非サル乎○夫レ然リ然ルニ余ニ未タ引渡ヲ爲サ、ル物件ノ賣主ハ即チ假有ノ保有者ニシテ惡意ニテ自ラ主者タルノ思考ヲ有スルニ過キサレハ其遺物相續人タル者モ亦等シク此等同一ノ理由ニ因リ敢テ第二千二百七十九條ノ法則ヲ申立ルコト能ハサル可キナリ如何トナレハ是レ亦「ムールロン」氏ノ述ヘラレタルカ如ク爰ニハ敢テ二個ノ占有アルニ非スシテ唯一個ノ占有アルニ過キサレハナリ、即チ死者ノ占有是ナリ、而シテ其性質ニセヨ其瑕瑾ニセヨ皆其儘ニテ遺存スル者トス

〔第二百五號〕（第四段） 彼ノ第二千二百六十五條ニ規定セル十年乃至二十年ノ時効ハ唯特定ノ不動産ノミニ適用ス可キモノナリシカ如ク第二千二百七十九條ニ記載セル即時ノ時効モ亦必ス特定ノ動産ノミニ非サレハ之ヲ適施ス可ラサルモノトス○動産タルト不動産タルトチ間ハス凡テ包含ノ財産若クハ包含ノ財産中一部分ト指稱セルモノハ皆三十年ノ時効ニ循フ可キモノトス、法典ノ理由書ニモ亦明カニ此法則ヲ維持シタル旨ヲ申告セ

且ツ又此第二千二百七十九條ノ規則ハ特定ノ動産ニテサヘアレハ殘ラス適用ス可キモノナリト云フ次第ニモアラサルナリ、該條ノ法則ハ唯單純ナル手渡ノ讓渡ニ因テ獲得セル動産ニシテ之カ移轉ヲ爲スニハ別段ノ證書ヲ必要トセサルモノ、ミニ適用ス可キ者トス○公報セラレタル理由書ニ付テ之ヲ觀ルモ又道理上ヨリ之ヲ考フルモ本條ヲ設定シタル二個ノ理由ハ毫モ右ノ點ニ付テ疑義ヲ遺ス所アラサルナリ○所謂ル二個ノ理由トハ即チ第一、元來動産ノ所有權ハ常ニ證書ヲ以テ之ヲ證明スルモノニ非ス、左レハ獲得者カ常ニ現在其動産ヲ占有スル讓渡人ノ言ヲ信シ全ク此讓渡人ニ所有權ノ存スルモノト思フテ之ヲ獲得スルモ實ニ無理ナラサル次第ナリ、如何トナレハ總テ動産ノ讓渡ニ付テハ諸般ノ不動産、年金所得權、若クハ債主權等ヲ讓渡スル場合トハ大ニ相異ナル所アリテ嘗テ如何ナル書面、如何ナル證書ヲモ必要トセサルカ故ナリ、第二此等諸般ノ動産ハ常ニ人々ノ手ニ移轉回通スルコト最モ速カナリトス（例ヘハ一疋ノ馬ニシテ僅カノ時間中ニ漸次八人若クハ十人ノ買主ニ買取ラレルコト有リ）然ルニ若シ眞ノ所有者ニアラサル者ヨリ善意ニテ之ヲ獲得スル者毎ニ其取戻ノ訴權ヲ受ケサル可ラストスル時ハ己レモ亦自ラ其賣主ニ對シテ更ニ訟求スル所アル可ク賣主モ亦自己ノ賣主ニ向テ訟求スル所アル可シ、次第



々々ニ此ノ如キ有様ニ至レハ其極竟ニ一面ニ向テハ訴訟ノ數ヲ増シテ繁雜如何トモス可  
ラサル場合ニ至ルノ恐レアリ、又他ノ一面ニ向テハ世間皆不安心ノ思ヲ爲シテ爲メニ商  
業上ノ大困難ヲ生スルノ憂ヲ來スナラン○本條ヲ設成シタル二個ノ理由ハ即チ此ノ如シ、  
然ルニ此二個ノ理由ハ何レモ皆讓渡ノ證書ヲ記スルコト無ク直ニ此手ヨリ彼手ニ移轉ス  
ル動産ニ非サレハ決シテ適用ス可ラサルモノナルヲ論ヲ俟タスシテ判然タリ、左レハ本  
條ノ法則ヲ適施ス可キハ單ニ此類ノ動産ノミニ限ルナリ

以上解説セシ所ニ據テ之ヲ觀ル時ハ「ロヂエール」氏カ本條ノ法則ヲ以テ年金所得權ニヒ  
ヨ、通常ノ債主權ニセヨ、有形ノ動産ニセヨ、差別ナク如何ナル種類タルヲ問ハス總テノ  
動産ニ之ヲ適施ス可キモノナリト述ヘラレタルハ全ク誤謬ノ論タルニ相違アラサルナリ  
(此說ヤ實ニ立法者ノ精神ニ背戾スルコト判然タリ如何トナレハ所謂ル年金所得權ナル  
モノ若クハ通常ノ債主權ナルモノハ必ス公正ノ證書ヲ以テスルカ又ハ特別ノ法式ニ循フ  
可キ讓渡證書ヲ以テスルニ非サレハ移轉スルコト能ハサルモノナルカ故ナリ、且ツ此等  
ノ諸件ニ付テハ恰モ彼ノ不動産ニ於ケルカ如ク先ツ之ヲ獲得スル前豫メ讓渡者ヲシテ其  
所有權ヲ證明スル證書ヲ明示セシムルコトヲ得可キカ故ナリ)又世人ノ常ニ述フルカ如  
ク本條ノ規則ハ偏ヘニ有形ノ動産ノミニ限リテ適用ス可キモノトスルハ是レ亦敢テ毫厘

ノ非トス可キモノアラサル見解トハ斷言ス可ラサルナリ、如何トナレハ或ル無形ノ動産  
ニシテ尙ホ本條ヲ當行ス可キモノ無キニシモアラサルカ故ナリ

例ヘハ所持人株券ト稱スルモノハ無論有形ノ財産ニハアラサルナリ、余カ皮袋中ニ僅  
カ二三錢位ノ價アルニ過キサレ一個ノ紙片ヲ有スルニ余ハ此紙片ヲ以テ「一万フラン」ナ  
リ、「一万五千フラン」ナリ、自ラ多少ノ金高ヲ受取ルコトヲ得ルナラン、去レトモ此紙片  
ハ其實余カ株券ト稱スルモノニハアラサルナリ、唯余カ株券ヲ有スルコトヲ表示スルノ  
具タルニ過キサレナリ、故ニ爰ニ余カ動産ト稱ス可キモノハ單純ノ權利ナルニ過キサレ  
ナリ、即チ「一万フラン」ナリ「一万五千フラン」ナリノ債主權ナルニ外ナラサルナリ、是故  
ニ若シ本條ヲ以テ特ニ有形ノ動産ノミニ適施ス可キ法則ナリトスル時ハ右ニ例示シタル  
所持人株券ノ如キハ營テ本條ノ利益ヲ受ク可ラサルモノト斷定セサル可ラス、此ノ如キ  
ハ決シテ許ルス可ラサルナリ○又銀行手形ノ如キモ亦右同様ナリトス○其動産ナル  
有價ノ財産ハ敢テ其些細ノ紙切ヲ以テ成ルモノニ非ス全ク之ヲ發行シタル銀行ニ付テ要  
求スルコトヲ得可キ債主權ヲ以テ成ルモノナリ、而シテ爰ニモ亦前例ニ等シク無形ノ動  
産アリトス

由是觀之本條ノ法則ハ有形ノ動産並ニ其價額ヲ受得スル爲メノ證憑トナル有形ノ記表ニ



因テ代表セラレタル動産ニ適用ス可キモノナリト云ハサル可ラス、之ヲ要スルニ本條ハ手ヨリ手ニ移轉スルコトヲ得可キ總テノ動産ニ適施ス可キ法則ナリトス

〔第三百六號〕（第五段）法律ハ先ツ上文ニ詳陳シタル即時ノ時効ニ因リ所有權ヲ獲得スル爲メノ原則ヲ確定シタル後更ニ紛失セラレタル動産若クハ盜取セラレタル動産ニ付テ特別ナル例外ノ規則ヲ揭示セリ○若シ夫レ其動産ナル物件カ紛失又ハ盜取セラレタルカ爲メニ所有者ノ手中ヲ脱シタル時ハ善意ニシテ且ツ正當ノ名義ヲ以テ之ヲ獲得セシ他人ハ必ス其紛失又ハ盜取ノ時ヨリ三年ノ時間ヲ經過シタル以上ニ非サレハ自ラ所有タルコト能ハサル者トス

爰ニ其紛失若クハ盜取ノ時ヨリ三年ノ時間ヲ經過シタル後自ラ所有者ト爲リ得可キ者ハ即チ其獲得者ナル他人ニ限ルモノトス○故ニ現ニ自ラ其物件ヲ拾フタル者若クハ自ラ之ヲ盜ミタル者ニハ敢テ本條ノ例外規則ヲ適用ス可ラサルナリ○蓋シ此等ノ者ハ決シテ正當ノ名義ヲ有スルニモアラス又善意ニテ自ラ所有權ヲ有スルコトヲ信スルニモ非サルカ故ナリ、故ニ此等拾主又ハ盜者ハ必ス三十年ノ時間ヲ經過シタル以上ニ非サレハ自ラ時効ヲ得ルニハ至ラサル可キナリ○說者或ハ曰ク重罪若クハ輕罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償ヲ求ムル爲メニ其盜者ニ對シテ執行スル私訴ハ十年若クハ三年ノ時間（治罪法第六百

三十七條及ヒ第六百三十八條）ニ因リ公訴ト共ニ時効ヲ得ルモノナリ、故ニ此期限ヲ經過シタル後ハ最早ヤ之ニ對シテ如何ナル訴權ヲモ執行スルコト能ハサル可キナリ云々ト○此論ヤ敢テ顧ミルニ足ラサルモノナリ、成ル程右ノ期限ヲ經過シタル以上ハ民事上タルト刑事上タルトヲ問ハス敢テ盜者トシテ之ヲ訴出ス可ラサルコト素ヨリ論ヲ俟タサルナリ、去レトモ余ニ所屬スル財産ノ保有者トシテ物上ノ訴權ヲ以テ三十年ノ時間中ニ之ヲ訴出スルハ毫モ差支ヘアラサル可シ○如何ニモ其盜者カ第二百七十九條ノ法則ニ據テ抗辨スル所ヲ攻撃スル爲メ且ツ之レカ惡意アル旨（如何トナレハ善意ハ常ニ推測ヲ以テ假定スルカ故ナリ）ヲ證明スル爲メニハ余ハ決シテ其盜取ノ事ヲ述フルコト能ハサル可キナリ、去レトモ是レニ論辨上ノ注意ニ關スルモノナレハ常ニ裁判官ヲシテ敵手ノ惡意ナリシコトヲ確信セシムルニ難カラサルヘシ、此ノ如キ事件ニ付テハ裁判官モ亦好意ヲ以テ宜シク曲直ノ在ル所ヲ視察シ以テ漫リニ盜者トシテ其占有者ヲ訴出シタル場合ト同視シテ空シク之ヲ却下スルカ如キ處置ヲ爲サ、ル可キナリ

爰ニ説明スル正當ノ名義ト善意トヲ有スル獲得者ナル他人ハ其紛失又ハ盜取ノアリタル時ヨリ算計シテ以テ三年目ノ終末ニ至テ自ラ時効ヲ得ルニ至ル可ク敢テ必スシモ引續テ三年間ノ占有ヲ爲スニ非サレハ自ラ時効ヲ得ルコト能ハスト云フ可ラス○法律ハ爰ニ決



シテ三年間ノ占有アルコトヲ必要トセザルナリ、法律ノ要スル所ハ唯其紛失若クハ盜取ノ時ヨリ三年間ノ時間ヲ經過スルヲ以テ足レリトセリ、法律ハ單ニ所有者カ出訴ヲ爲スニ付キ三年間ノ時間ヲ有スルヲ以テ足レリト爲シタルニ過キサリナリ○故ニ或ル盜者自ラ其盜取シタル物件ヲ二年十一月二十五日ノ時間中己レニ保有シタル後更ニ余ニ之ヲ賣渡シタル場合アリトセシモ、其所有者右賣買ヲ行フタル日ヨリ八日若クハ十日ノ時間ヲ經タル後余ニ對シテ出訴セント欲スルモ其訴權ハ必ス受理セラル可キモノニ非ス如何トナレハ余ハ成ル程僅々數日以前ヨリ之ヲ占有スルニ過キストハ云ヒナカラ素ヨリ善意ノ買主ニシテ且ツ其物件ノ盜取セラレタル時ヨリ既ニ三年以上ノ時間ヲ經過シタル事實アルカ故ナリ

去リナカラ茲ニ盜取セラレタル物件トハ果シテ如何ナルモノヲ云フ乎○往古羅馬ニ於テハ總テ詐僞ヲ以テ他人ノ物件ヲ移轉スル事實ヲ指稱シテ盜取ト看做シタリ、故ニ當時ニ在テハ受託者、借家人、借主、若クハ其他此類ノ者ニシテ自ラ此名義ヲ以テ保有セル他人ノ物件ヲ賣拂フ時ハ皆之ヲ盜罪ヲ犯シタル者ト看做シタリ、去レトモ我カ佛國法律ニテハ特ニ詐僞ヲ以テ物件ヲ竊取シタル事實ノ外他ニ盜罪ト稱ス可キモノアラズ(刑法第三百七十九條)、其他盜罪ニ類スルモノハ各々相異ナル所ノ犯罪ト爲ス、例ヘハ受寄財産

ノ濫用ト云ヒ詐僞取財ト云フカ如キ是ナリ○夫レ果シテ然ル以上ハ爰ニハ固ク法律上ニ確定スルカ如クニ盜罪ノ義ヲ解ス可キ乎、將々本條ノ法則ハ盜取ハ云フニ及ハス其他之ニ類スル犯罪ノ中少ナクトモ詐僞取財ノ罪ニ迄之ヲ引用ス可キモノト爲ス可キ乎數多ノ學士輩并ニ諸般ノ判決例ニテハ本條ヲ以テ等シク盜罪ニ類スル犯罪ニ迄之ヲ及ホシ行フ可シト云フノ說ヲ採許シタリト雖トモ余輩ノ考フル所ヲ以テスレハ是レ敢テ至當ノ決定ナリト云フ可ラサル者ト信スルナリ、請フ其理由ヲ開陳セン

說者數々言ヘルアリ元來第二百七十九條第一項ノ法則ハ一ノ例外規則タルニ過キサリルナリ、即チ第一千五百九十九條ノ揭示セル凡ソ他人ニ屬スル物件ノ賣買契約ハ無効ナリト云ヘル原則ノ例外ナルニ過キサリナリ、故ニ第二百七十九條ノ第二項ハ即チ例外ノ例外ニシテ所謂一般ノ原則ニ翻回スルモノナリ、普通ノ法則ニ轉回スルモノナリ云々ト○若シ夫レ說者ノ述ヘタルカ如ク果シテ然ランニハ必ス「トロプロン」氏ノ主論ヲ允許スルコトヲ得ルナラン如何トナレハ凡ソ例外ノ法則ハ成ル可ク丈ケ制限シテ之ヲ實行スルヲ常トセサル可ラスト雖トモ之ニ反シテ一般ノ法則普通ノ原則ハ成ル可ク其區域ヲ擴張シテ實際ノ適用ヲ爲サ、ル可ラサルカ故ナリ○夫レ然リ豈ニ然カランヤ爰ニハ說者ノ言ヘルカ如ク然ラサルモノアルヲ如何セン○本條第一項ノ法文ハ遙カニ之ヲ例外規則



ト看做スコト能ハサルノミナラス我カ民法中最要ナル大原則ノ一トモ稱ス可キモノナリ  
 ○第一千五百九十九條ノ法則ト第二千二百七十九條ノ法則トハ互ニ相關係スル所アラサル  
 モノナリ、一ハ賣買ニ因テ物件ヲ獲得スルコトニ關スルモノニシテ他ノ一ハ時効ニ因テ  
 物件ヲ獲得スルコトニ關スルモノナリ、此ニ様ノ結果ハ互ニ相關係セサルモノナレハ敢  
 テ其一ヲ以テ他ノ一ノ例外ナリト云フコト能ハサル可キナリ○凡ソ他人ニ所屬スル物件  
 ノ賣買ハ無効ナリト云フモノノ原則ナリ、又他人ニ所屬スル動産ヲ賣拂フ時(交換、贈遺、  
 遺囑等ヲ爲シタル場合モ同様ナリ)ニ於テ其獲得者ハ時効ニ因テ自ラ所有者トナル可シ  
 ト云フモノノ原則ナリ、夫レ然リ然ルニ第二ノ原則ハ少シモ第一ノ原則ニ例外ヲ加ヘタ  
 ル所アルニ非ス、毫モ之ニ制限ヲ定メタル所アラサルナリ、蓋シ此場合ニ於テモ他ノ場合  
 ニ於ケルカ如ク元來其時効ヲ適用スルハ一ニ其賣買契約ノ無効ニ歸スルカ爲メナリ○若  
 シ其賣買ニシテ果シテ有効ノ契約ナラシメハ他人ナル獲得者ハ直ニ右ノ契約ニ因テ其物  
 件ヲ獲得ス可ク別ニ時効ヲ要スル所アラサル可キナリ

由是觀之本條第一項ノ法則ハ宜シク一ノ大原則ト稱ス可キモノナルコト毫モ疑アラサル  
 ナリ、左レハ第二項ノ法文ハ實ニ其原則ノ例外規則タルニ相違アラサルヲ以テ限制シテ  
 之ヲ解釋セサル可ラス、夫レ然リ然ルニ法律ノ明記スル所ハ特ニ盜取ノ事ニ過キサルヲ

以テ其規則ヲ適用スルニモ亦必ス盜取ノ外ニ及ホス可ラサルナリ○且ツ大審院判決ニテ  
 モ亦等シク此說ヲ採レリ

右ノ如ク紛失シタル動産又ハ盜取シタル動産ヲ三年ノ時間中ニ更ニ取戻スコトヲ允許セ  
 ル例外規則ハ其現在ノ占有者カ市會又ハ市場ニ於テ之ヲ買取タルカ、若クハ公賣ニテ之ヲ  
 買取タルカ、若クハ其類ノ物件ヲ販賣スル商人ヨリ之ヲ買取ケタル時ニ於テ多少其摸樣  
 ナ異ニスル所アリトス○此等ノ場合ニ於テモ亦所有者ハ等シク常ニ其物件ヲ取戻スコト  
 ナ得可シト雖トモ必ス右ノ買主ニ向テ其物件ヲ獲得セシ時ノ代金ヲ償還スルヲ要スルナ  
 リ○故ニ少シモ償金ヲ拂フコト無クシテ單純ノ取戻ヲ行フコトヲ得ルハ特ニ右等ノ場合  
 ニ在ラサル時ニ於テ其物件ヲ賣買シタルカ、交換シタルカ、生存中ノ贈遺ト爲シタルカ、  
 又ハ遺囑ノ贈遺ト爲シタル場合ニ限ルモノトス○第二千二百八十條ノ記スル所ハ唯右ニ  
 示シタル諸般ノ場合ニ於テ其物件ヲ買受ケタル現在ノ占有者ニ關スル場合ナルニ過キス  
 ト雖トモ若シ其賣主自ラ法律ノ指示セル場合ノ一ニ居テ前キニ之ヲ買入レタルモノナリ  
 シ時ハ以上ニ記列シタル場合ノ外ニ在テ其動産ヲ買受ケタル現在ノ占有者ニモ亦等シク  
 此法則ヲ及ホシ行フ可キナリ○是レ理ニ於テ必ス然ラサル可ラサルモノナリ、如何トナ  
 レハ若シ所有者カ現在ノ占有者ニ其代金ヲ償還スルコトヲ拒絕スル時ハ占有者ハ必ス己



レニ對シテ擔保ノ責アル賣主ニ向テ之ヲ認求ス可ク賣主ハ亦本條ノ法則ニ循ヒ更ニ所有者ニ對シテ右ノ償還ヲ要求ス可キカ故ナリ○但シ若シ右賣主ノ再賣シタル時ノ代金カ前キニ自ラ之ヲ買入レタル時ノ代金ヨリ高價ナリシ場合ニ於テハ無論其所有者ハ自ラ右代金ノ中少ナキ方ノミヲ償還スルヲ以テ足レリトス○且ツ又其動産ヲ拾ヒ取リタルカ又ハ之ヲ盜ミ取リタル上ニテ其所有者ヨリ更ニ代金ヲ償還スルヲ要スル場合ニ於テ之ヲ賣拂フタル者ハ更ニ其所有者ニ向テ右代金ヲ返還ス可キ責アルコト勿論ナリトス

暫時ノ法則

第二千二百八十條 本卷公布ノ時期ニ於テ始マリタル時効ハ舊法ニ從ヒ之ヲ規定ス可シ

然レトモ當時始マリタル時効ニシテ舊法ニ從ヘハ右ト同一ノ時期ヨリ起算シテ猶ホ三十年以上ノ時間ヲ必要トスルモノハ其三十年ノ經過ヲ以テ完成スルモノトス

〔第三百七號〕(第一段) 今ヤ法典頒布ノ時ヲ距ルコト既ニ遠シ、因テ本條ハ最早ヤ無要ノ法則タルコト知ル可キナリ、此法則ハ特リ本條ノミニ限ラス全卷ニ關スルモノナリ、之ヲ爰ニ記シタル所以ハ蓋シ本款ハ全卷ノ終尾ニ在ルカ故ナリ○「トロプロン」氏カ爰ニ本條ヲ掲載シタルハ全ク法典編纂者ノ不注意ニ出タルモノナリト非難セラレタルハ却テ氏ノ

認見タリ、特リ編纂者ノ失念ト云フ可キハ本條ノ始メニ暫時ノ法則ト云ヘル表題ヲ揭示セサリシコト是ナリ○且ツ夫レ本條ノ法則ハ特リ本卷ノ全躰ニ關スルノミナラス民法中他ノ部ニ規定セル總テノ時効ニモ亦等シク之ヲ通用セサル可ラス如何トナレハ其事柄ノ全ク同様ナルカ故ナリ○第二千二百六十四條ノ明文ハ能ク立法者ノ精神ヲ指示スルモノト云フ可キナリ

又本條第一項ノ法則ハ單ニ時効ノ時間ノミニ關スル而已ナラス總テ時効ニ關スル諸般ノ事項ヲ規定スル爲メニ適用ス可キ法則ナリトス、蓋シ本項ニハ敢テ事ノ區域ヲ時間ニ關スル問題ノミニ限ルコト無ク凡ソ法典頒布ノ以前ニ始マリタル時効ハ皆ナ舊法ニ循テ之ヲ規定ス可シ云々ト明載セルカ故ナリ且ツ法典ノ理由書ニ付テ之ヲ觀ルモ此主意自ラ判然タリ○其理由書ニ曰ク爰ニ法典ハ敢テ其頒布以前ノ事ヲ規定セントスルニ非ス、而シテ此一般ノ原則ハ以テ諸般ノ難題ヲ避ケシムルニ足ラン云々ト

由是觀之千八百三十八年「コーム」府控訴院ノ判決ヲ以テ元來幼年ノ理由ニ因テ時効ヲ停止スルコトヲ允許セサリシ舊法ノ時代ニ始マリタル時効タリト雖トモ法典ノ行ハレタル以來ハ尙ホ此理由ニ因テ停止セラル、者トス可シ云々ト決定シタルハ全ク其當ヲ失シタルモノナルコト明カナリ、是レ實ニ凡ソ法典ノ以前ニ始マリタル時効ハ皆舊法ニ



從テ規定ス可シ云々ト云ヘル原則ヲ犯シタルモノナリ、其他諸般ノ判決例ヲ參考スルニ  
 嘗テ「ニーム」府控訴院ノ判決ニ從フモノアラサルハ如何ニモ無理ナラサル次第ナリ  
 本論ノ最終ニ臨テ尙ホ一言ス可キコトアリ、「ビゴ」、「プレナムヌウ」氏ハ法典ノ理由書  
 ニ於テ此第二千二百八十一條第一項ノ法則ハ唯法律ハ既往ニ及ホス可ラスト云ヘル一般ノ  
 原則ヲ適施セシモノニ過キス云々ト述ヘラレタルモ是レ亦誤謬ノ解釋タルニ相違アラサ  
 ルナリ、本項ハ右ノ原則ニ關スルノミナラス併セテ容易ニ舊法ヨリ新法ニ轉遷スル爲メ  
 ノ便宜ヲ計ラシカ爲メニ立法者ノ注意ヲ以テ制定シタル法則タルコト疑アラサルナリ、時  
 効ニ關シテ法律ノ既往ニ溯リテ効力ヲ致サスト云フノ問題ハ讀者宜シク第二條ノ說明第  
 十三段ニ辨解セシ所ヲ參觀シテ可ナリ

佛國民法時効詳說大全 大尾

明治二十二年十一月十四日出版

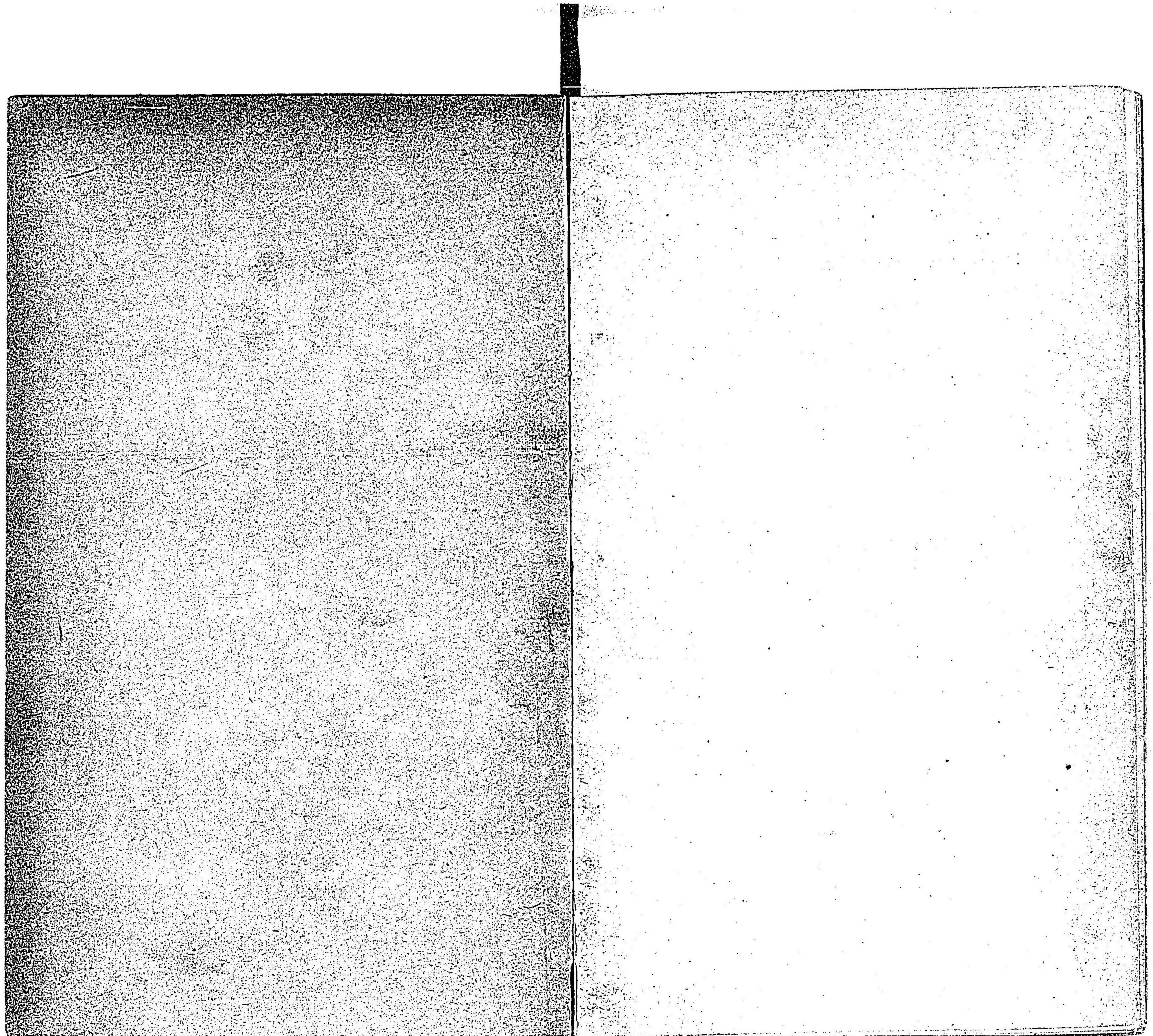
版權所有

版權登錄司

法省

東京京橋區西紺屋町廿六七番地 秀英舎印刷

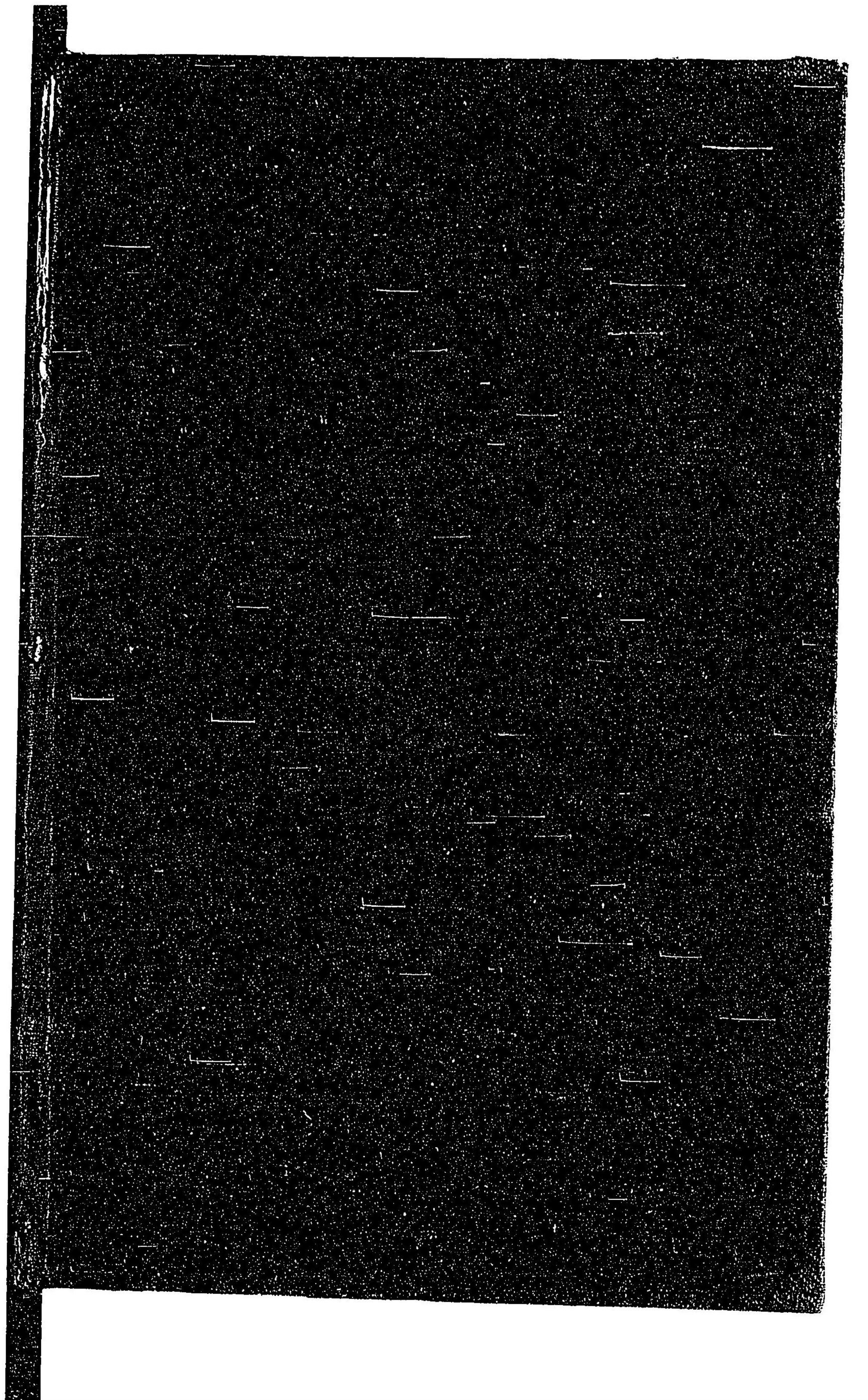






|     |
|-----|
| 17  |
| 227 |







17  
227

034447-000-0

17-227

仏国民法時効詳説大全

マルガデー／著

M22

BBL-1011





